

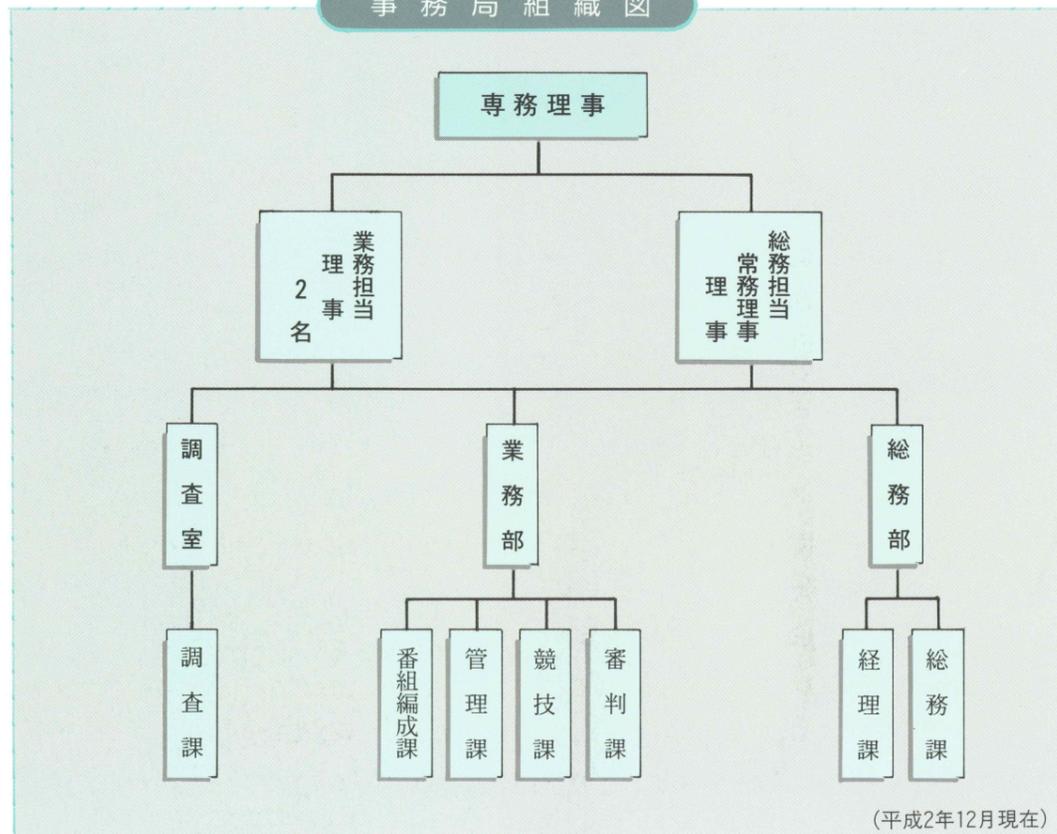
競走会

(社)群馬県モーターボート競走会



▲ 競技棟全景

事務局組織図



システムも近代化、おもしろい競走へ Go!

公営競技全般の売上が低迷しはじめた昭和56年頃は、桐生市自体、地場産業の不振をはじめその経済環境は必ずしも良くない状況にあった。こうした背景のもと「桐生ボート」も、昭和55年をピークとして、売上は下降線を辿りはじめる。

昭和57年、群馬県競走会は今後の売上低迷を予想して、笹川堯新会長のもと関係団体との懇談会を開催。役職員一丸となって諸施策を検討し、実施していった。

主な施策としては、三山寮の増改築により選手の生活環境を一段と向上、事務局をレース場に移転して経費の節約と事務能率の向上に努める、などがある。

また、同57年からは毎年「ファン感謝納涼花火大会」を開催。場内にイベントステージならびに水上ステージを設けて、各種イベントを行う。さらには、場内テレビの二元化、電話投票の実施、岩宿駅からの無料タクシーの実施等、ファンサービスとモーターボート競走のPRにも努めた。

ファンクラブが創設されたのもこの年で、これとともに会員の獲得増員、モニター会員懇談会、見学会、チャリティ即売会等をも実施する。また、昭和37年から行っている歳末助け合い運動では、桐生市および周辺の老人ホームや養護施設など、12施設を慰問している。

これらの努力が実ってか、この年、昭和57年には「全国スタート事故防止第1位」に、次いで昭和59年には「人身無事故表彰」を受けた。

しかしその後、死亡事故、整備違反、紛争事件等が、相次いで発生するのである。

このため当競走会は、その反省と競技体制のより万全を期して、ボートの安定板・サイドプレートの取付、従事員の訓練、総合警備訓練、研修会、救助訓練等を実施し、事故防止に全力を尽くしていった。

当競走会独自の試みとしては、昭和55年から実施している「鳴門、桐生提携記念」のほか、63年には「大塚製薬杯競走」を創設、好評裡に開催している。

念願であった競技棟が完成した平成2年、内部システムも近代化され、競技運営にも万全の体制が敷かれた。レース面においても、3Pボート、New-1Pボートを採用してその多様化を図り、「迫力のある、おもしろい競走」を目指している。



▲ 選手宿舎 三山寮

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		102	102	107	107	107	107	102	102	101	100
役 員(常勤・非常勤)		13	12	13	13	13	13	13	13	13	14
職 員(含 嘱 託)		33	31	32	31	30	30	32	30	30	26
臨時従業員(アルバイト)		31	31	31	32	26	27	25	24	26	26
登 録 審 判 員		10	10	11	11	11	12	13	10	10	10
登 録 検 査 員		10	10	10	11	11	11	12	10	10	11

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
2	笹川了平	S29年7月～56年8月	3	笹川 堯	S57年5月～現在
 <p>〔略歴〕 箕面学園、信用金庫理事長 (株)大阪日日新聞社主、紺綬 褒章受賞、運輸大臣表彰</p>		 <p>〔略歴〕 衆議員議員 献血供給事業団会長 エイズ予防財団理事</p>			

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
7	橋 場 利 蔵	S51年5月～56年3月
8	笹川勝正	S58年1月～現在

代	専務理事名	任 期
5	上 田 芳 道	S51年5月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



▲ 桐生競走場正門

年 表	
年 月 日	事 柄
S56.2.6	第26回関東地区モーターボート選手権競走開催
7.10	第1回鳴門、桐生親善都市提携記念競走開催
8.17	笹川了平会長退任、上田専務理事長代行
10.12	ファンサービス、ドラえもん公演(桐生産文会館)
10.24	選手宿舍、三山寮新館完成
12.14	新スタンド増築落成式典
12.16	シングルユニット式発売機全面切り替え
S57.1.21	選手宿舍、三山寮本館改築竣工
2.2	56年スタート事故防止運動第1位受賞
4.15	前競走会会長、笹川了平氏逝去
5.13	施設改善記念特別競走開催
5.14	笹川 堯会長就任
8.28	ファンサービス第1回納涼花火大会を開催
10.7	第29回全日本モーターボート選手権競走開催
10.13	桐生ボートファンクラブ発足
11.6	事務局競走場へ移転
S58.4.29	OSP桐生グランプリ開催
9.21	桐生競走場で全国技術連絡会議開催
9.22	3Pボート登場(1日1R)
11.3	競艇関係団体運動会
S59.3.23	第1回ファンモニター懇談会開催
7.22	水着撮影会実施
8.4	11R制採用、新型3Pボート登場(1日1R)
12.17	場内テレビ2元化放映開始
12.26	第1回群馬テレビ、県内公営競技プロ選手カラオケ大会参加
S60.5.25	昭和59年度人身無事故表彰受賞
6.1	第1回オール女子競走開催
8.7	ファンサービスイベント用水上ステージ設置
8.13	投票所本館窓口全面改修
9.10	戸田ファンクラブ会員観戦ツアー受入(以後毎年)
10.26	勝舟投票券単複自動発売機設置
11.1	公営競技場より暴力団、のみや等追放運動開始
12.7	払戻機の全面導入
S61.2.6	第30回関東地区モーターボート選手権競走開催

(社)埼玉県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
S 61. 6. 27	展示タイムの公表
8. 7	桐生祭り、仮装パレードに参加
10. 9	第33回全日本モーターボート選手権競走開催
10. 31	場内監視カメラ全面改修
S 62. 5. 1	桐生市、大沢善隆市長就任
9. 4	安部邦男、高峰孝三両選手の整備違反発覚
9. 26	競技事故防止の安全祈願
S 63. 3. 25	New 1 P 公開テスト
4. 1	財団法人競艇保安協会関東支所、桐生競走場開設
5. 1	イベント広場、特設ステージ開設
5. 21	笠懸村、森田満蔵村長就任
6. 17	第1回企業杯競走開催（大塚製薬杯）
6. 24	貴田宏一選手の失格板誤認により一部ファン抗議
8. 30	3 P ボートさよならレース
9. 4	彦坂郁雄選手の整備違反発覚
11. 3	最低重量制度開始
12. 3	電話投票開始
S 64. 1. 6	清水正博選手事故死
H 元. 4. 8	第1回'89新鋭リーグ戦競走第5戦開催
6. 4	第1回レディスボートサークル開催
8. 7	競技棟、地鎮祭
9. 12	ファンクラブ本栖研修所見学
11. 19	第1回フォルクスワーゲン、ジムカーナー開催
H 2. 3. 12	競技棟、上棟式
6. 2	競技棟、完成祝記念レース開催一括方式導入とピット番号の変更
7. 17	競技棟、落成式
8. 31	施設改善記念特別競走開催
9. 14	ファンクラブ江戸川観戦ツアー実施

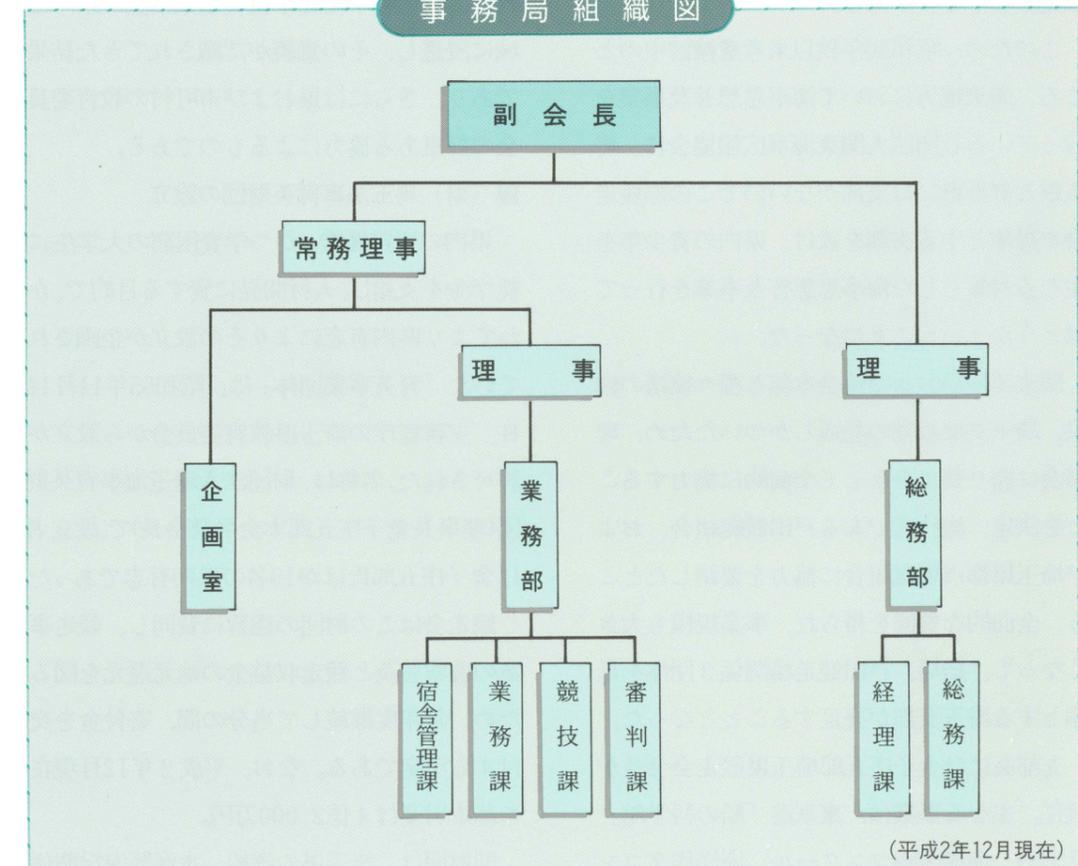


◀ 桐生競走場全景



▲ バスターミナルからみた戸田公園大橋とスタンド

事務局組織図



(平成2年12月現在)

公益事業に対する寄付助成を推進

■ (社) 関東海事広報協会埼玉支部の発足

海事思想普及事業については、競艇収益金の地元還元という考え方から、運輸省当局の指導もあり、各地競走会とも積極的に行っている。しかし本会定款には規定されていないため、モーターボートに関する啓蒙普及事業は行っているものの、いわゆる一般的な海事思想普及事業は行っていない。

仮に、定款を変更して海事思想普及事業を規定しこれを行う場合は、運輸省通達により公益事業として区分経理をすること、また財源は原則として競走会会員の会費収入で賄うこと等を義務づけられており、本会の意向と馴染まないものがある。

このため、昭和50年秋以来考慮検討中のところ、関東地方において海事思想普及事業を行っている社団法人関東海事広報協会に、埼玉県と群馬県には支部がないのでこの際競走会を母体とする支部を設け、県内の青少年を主なる対象とした海事思想普及事業を行ってはどうかということになった。

関東運輸局および協会本部と種々協議の結果、埼玉支部設立の見通しがついたため、理事会に諮り競走会として全面的に協力することを決定、施行者である戸田競艇組合、および埼玉県都市競艇組合に協力を要請したところ、全面的な賛同を得られ、事業規模も大きくなって、結局、戸田競走場関係3団体を母体とする埼玉支部が発足することとなった。

支部長には金子庄五郎埼玉県競走会会長が就任。主なる事業は、東京港「船の科学館」見学会、海洋図画コンクール、海洋作文コン

クール、大島海洋研修会、北海道航海セミナー等で、関東運輸局および埼玉県教育委員会の後援を得て実施している。

これら事業の中でも船の科学館見学会は、海なし県埼玉の92市町村の高学年の小学生を対象に、毎年約一万名を招待して行う、支部の代表的事業であり、県内各市町村教育委員会等の協賛、後援を得て行われている。この事業についてはその後、諸般の事情により、昭和60年度に競走会へ継承された。

一方、県内小学生を対象とする図画コンクールは、年々応募者が増え続け、平成2年度には35,000点にのぼる作品が寄せられた。これも、船の科学館見学会の事業活動が県下全域に浸透し、その意義が認識されてきた結果であり、さらには県および市町村の教育委員会の好意ある協力によるものである。

■ (財) 埼玉海事育英財団の設立

県内の資質優秀、かつ学資困窮の大学生に奨学金を支給し、人材開発に資する目的で、かねてより県内有志によりその設立が企画されていた「育英事業団体」は、昭和55年11月14日、主務官庁の埼玉県教育委員会から設立が許可された。名称は、財団法人埼玉海事育英財団(理事長金子庄五郎本会名誉会長)で、設立者は金子庄五郎氏ほか19名の県内有志であった。

競走会はこの財団の趣旨に賛同し、競走事業の啓蒙普及と競走収益金の地元還元を図るため、毎年度継続して当分の間、寄付金を交付する予定である。なお、平成2年12月現在の基本財産は4億2,000万円。

同財団は、埼玉県の商船、水産等海洋関係

進学者に奨学金を支給したい、との海事思想普及の発想から企画されたもので、海洋関連大学、一般大学のほか、体育、芸術関連大学にも門戸を開けている。

奨学生の採用方法については、奨学生志望者は高校在学中の2月頃、在学高校の校長を経由して出願し、志望大学に合格した者の中から財団の奨学生選考委員会で選考、入学後理事長が決定する。採用者数は、発足当初10名であったが、毎年応募数も増え、また財団の財政基盤も堅調となったので、年次計画通り増員し、現在は15名となっている。

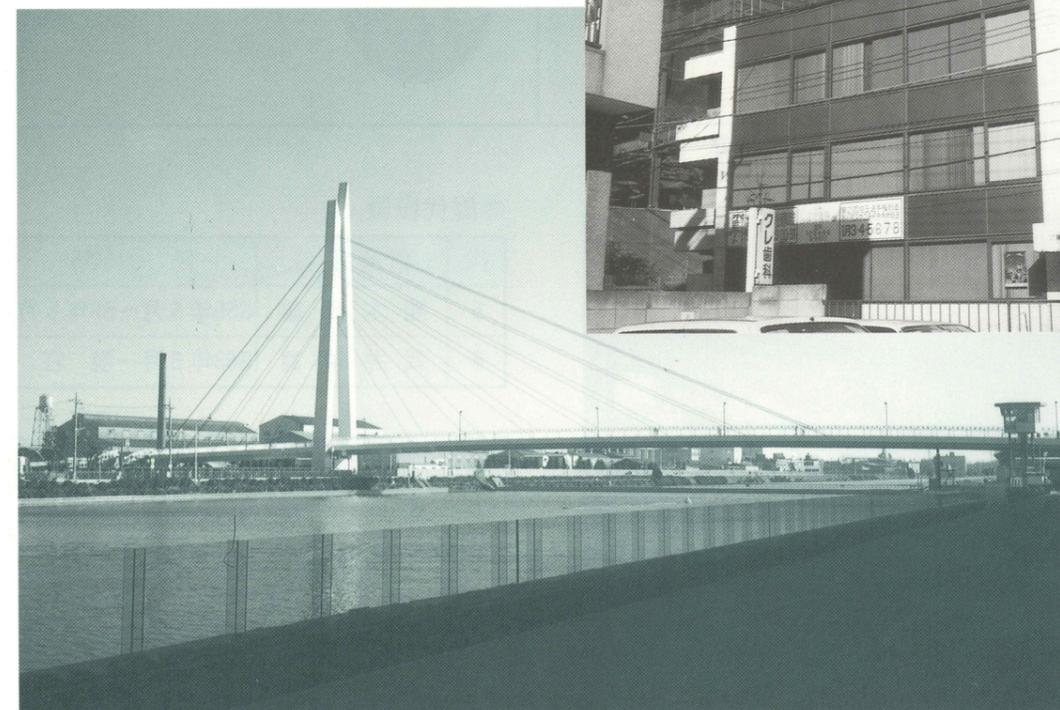
進学大学の内訳は東大、京大、一ツ橋大、北大、埼大、お茶の水大、早大、慶大など一般部門、東商大、東海大などの海洋部門、筑

波大、日体大の体育部門で、全体が質的に高いものとなっている。

平成元年度までの奨学生採用者累計数は、128名。これは、奨学金額が月額22,000円の給与(返還不要)、入学一時金16万円と好条件なため、民間の奨学財団は7~8団体あるが、奨学金を給与する団体は同財団以外には無い模様で、高校側の反響も大きいようである。

以上のように、競走会では競艇収益金の地元還元創意工夫をし、公益活動を推進するため公益事業団体に対する寄付金を毎年度交付するほか、事務所等の施設を無償貸与、また事務局要員として役職員の派遣等も行っている。

▼ 埼玉県競走会事務所



▲ 戸田公園大橋

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		100	100	100	99	99	98	97	98	98	98
役 員(常勤・非常勤)		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
職 員(含 嘱 託)		25	27	29	30	28	30	30	31	30	32
臨時従業員(アルバイト)		35	32	26	23	22	19	18	16	15	10
登 録 審 判 員		17	18	17	18	19	19	19	19	18	18
登 録 検 査 員		18	18	18	19	20	20	19	19	19	19

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
4	西田 貞雄	S55年5月～H2年5月	5	中島 富夫	H2年5月～現在
 <p>〔略 歴〕 埼玉及び群馬慈恵会、西熊谷病院、羽生園の各理事長 熊谷市議会議員、埼玉県会議員</p>		 <p>〔略 歴〕 中島半平商店会長、深谷上柴ショッピングセンター代表取締役、深谷商工会議所会頭</p>			

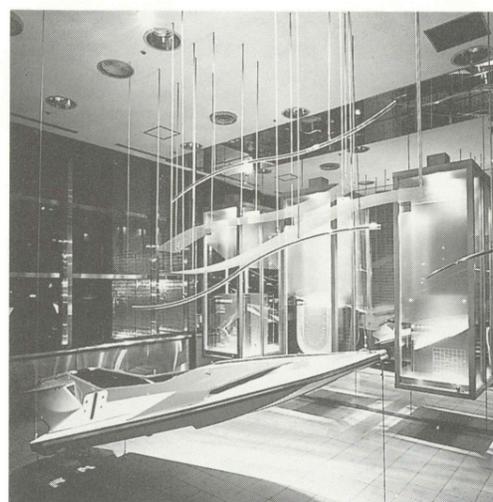
※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
5	熊木 輝雄	S55年5月～59年5月
6	武井 靖昌	S63年5月～現在

代	専務理事名	任 期
6	武井 靖昌	S55年5月～63年5月

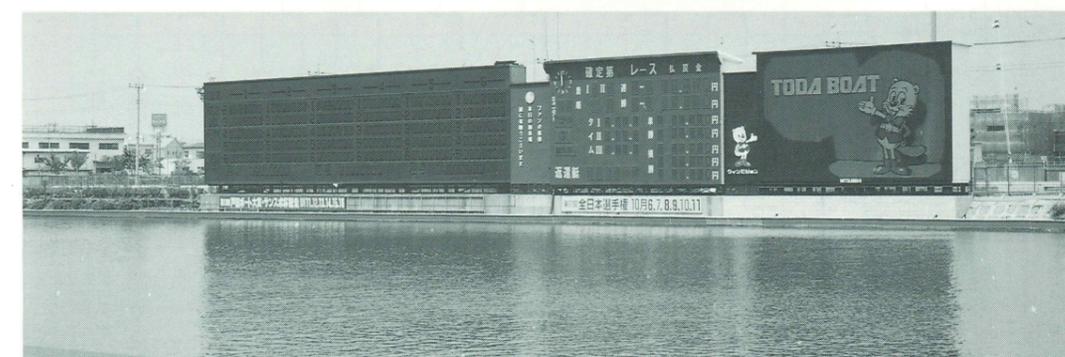
※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



◀ NEW IP ボート展示ルーム

年 表

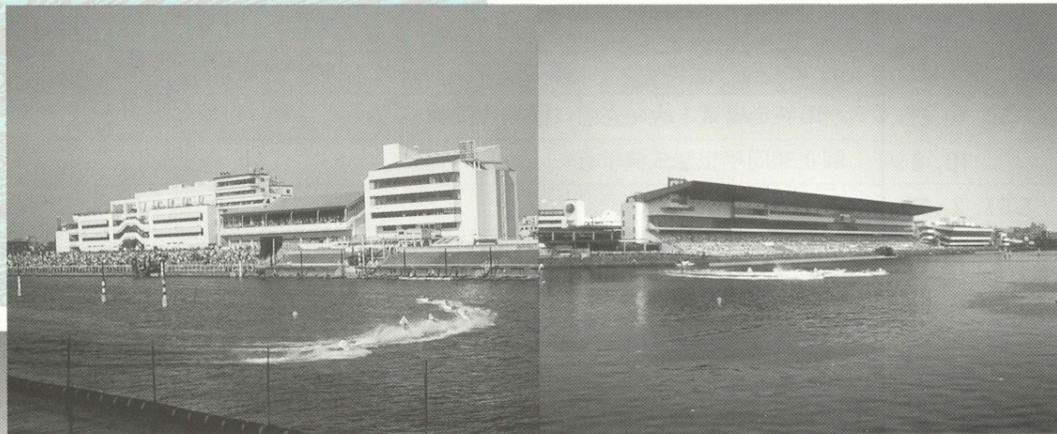
年 月 日	事 柄
S56.6.27	戸田競走場第1次発売窓口機械化稼働
10.8	創立30周年記念式典挙行
S57.2.25	発売窓口機械化完了
5.1	戸田競走場総合表示盤(オッズ盤)使用開始
5.20	戸田選手宿舍起工式
S58.2.10	名誉会長金子庄五郎氏逝去
4.8	外向前売発売所オープン(発売4窓・払戻し1窓)
8.11	第29回モーターボート記念競走開催
S59.4.6	戸田選手宿舍完成、使用開始
8.11	1日10レース制から条件付で11レース制採用
12.22	戸田競走場開場以来5,000万人の入場達成
S60.1.31	戸田競走場外向発売所自動販売機導入、早朝7時30分発売開始
2.11	第30回関東地区選手権競走開催、同競走前日発売実施
9.30	埼京線開通
S63.1.14	戸田競走場電話投票開始
2.3	戸田公園大橋、バスターミナル完成、使用開始
3.24	第23回総理大臣杯競走開催
H元.3.23	東観覧棟、ロイヤルルーム完成、使用開始
3.25	第24回総理大臣杯競走開催
9.28	戸田競走場西門側スタンド壁画(日本一トリックアート)完成
10.19	払戻窓口機械化開始
H2.5.21	西田会長辞任、五代会長中島富夫氏選任
8.29	大型映像装置完成
10.6	第37回全日本選手権競走開催
11.27	首都高速道路5号線、戸田南開通(競走場西側)



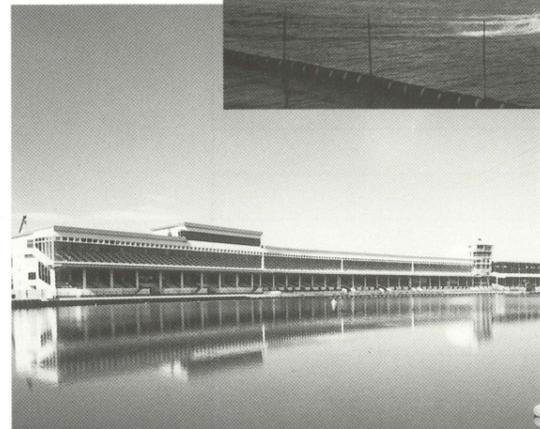
▲ 大型映像装置 ウィンビジョン

(社)東京都モーターボート競走会

▼江戸川競走場全景

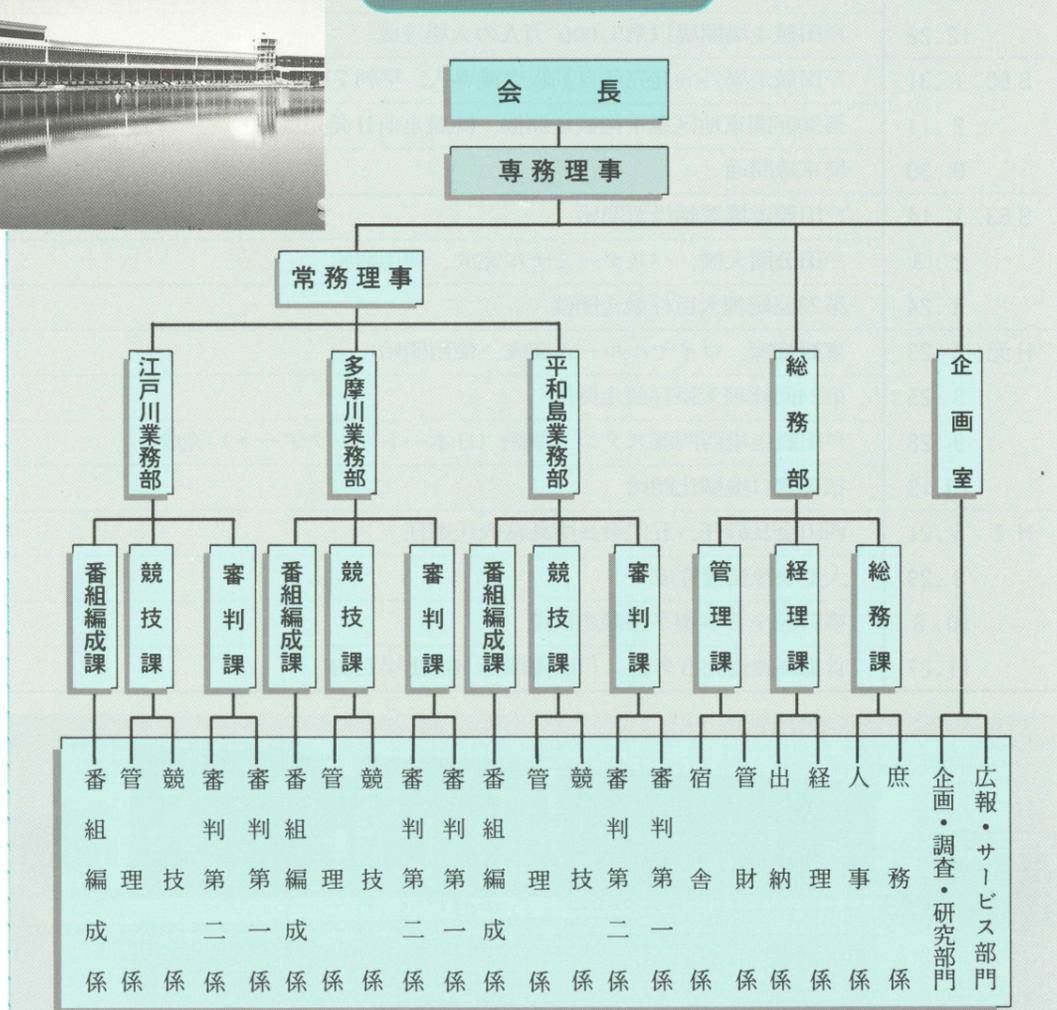


▼平和島競走場全景



▲多摩川競走場全景

事務局組織図



(平成2年12月現在)

「ファンのニーズに即応」を基本理念として

前会長藤吉男氏急逝の後、笹川陽平氏が昭和56年1月28日付で新会長に就任した。

この年、モーターボート業界は「法制定30周年」を迎え、これを契機に競艇元年と位置づけられ新たな出発点とされた。

しかしながら、売上面は昭和55年を頂点に景気の構造的不況ともあいまって全国的に長期低落の様相を見せはじめ、入場人員の減少とともに徐々に売上高も減少していった。

翌昭和57年の「ギャンブル課税」問題が、これに追い打ちをかける結果となった。

こうした売上減少傾向に歯止めをかけるべく、本会も、新会長の強力なリーダーシップのもと、各種施策を積極的に推進していった。

これら施策の基本はいうまでもなく、「お客様あってのモーターボート競走」であり、「ファンの立場に立って“いつでも、どこでも、おもしろい”競走の実現」であり、「ファンを魅了し、迫力のある競走の提供」である。具体策としては、選手自主整備方式を行った。

「わかりやすいレース」ということでは全国に先駆けての進入固定レースの実施や一括方式の導入などがある。

さらには、従来の“公正、安全、円滑な競走のための規制、制限”がある程度緩和されたことにより、展示タイムの公表、プロペラ選手持ち制度等にも踏み切った。

当会では、事故防止についても万全を期して、防護具の改良、カウリング付ボートの採用、電子式判定装置の導入、気泡式ライン表示装置の設置、選手宿舎における私物検査等積極的に行ってきた。

その結果、スタート事故率については、多摩川競走場が平成元年度0.18と全国第1位になる。だが一方では、江戸川競走場が舟券発売に関する不正操作で自粛「中止」を余儀なくされ、平和島競走場では平成2年に、選手による周回誤認や審判員によるスタート写真撮影不能などの事故を引き起こした。

一方、売上および入場人員の減少に対しては、施行者、施設会社、競走会が三位一体となって、マスコミ等を通じての広報活動を行うとともに、ファンクラブの結成、電話投票の導入、臨時場間場外発売の実施、特別競走における各種イベントの充実等、各種施策を実施した。

特にファンサービスについては、インフォメーションセンターの開設、ファン感謝月間の新設、衛星実況中継の実施、UHF局のテレビ放送、ミニFM放送の開局、文字多重放送の実施、有線放送による宅内配信、回線制御装置を利用した情報表示システムの導入、ボート教室の開講、ペアボート試乗会等、諸施策を推進。さらには情報サービス委員会を設置し、効果的なサービスについて検討することとした。

また、競走場周辺の地域住民にモーターボート競走についての理解を得るため、納涼花火大会、園芸祭り、夏祭り平和島、ヨット教室、水上フェスティバル、アマチュアモーターボート競走の実施、本栖研修所の見学会などを行った。

施設面においては、ファンのニーズに応えた施設の拡充、ならびに高級化志向に合わせ

た改善を行ってきた。

なかでも、ロイヤルルームの新設、駐車場ビルの建設、大型オッズ盤の設置、中型映像装置の設置、ピット自動発艇装置の新設、競艇技棟の新築など、積極的に推進した。

以上のような諸施策が実を結び、昭和60年

にはようやく一時の低迷から脱却、売上高も昭和55年を超えるまでになり、以後、順調に伸展している。また、競走場の効率的運用を図るため「C.I検討委員会」を設置し、競艇場クリーン大作戦と並行して推進していくこととなった。



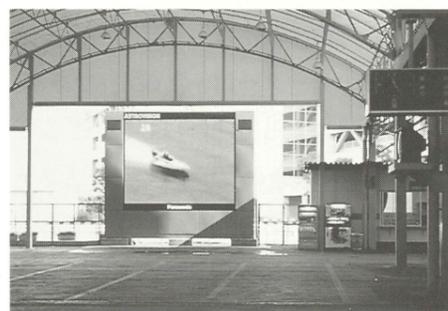
▲江戸川競走場整備場



▼江戸川競走場中型映像装置



▲江戸川競走場正門



▲平和島競走場中型映像装置

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭 和								平 成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		83	80	78	75	68	66	63	61	59	61
役 員(常勤・非常勤)		15	15	14	12	11	11	11	11	10	12
職 員(含 嘱 託)		93	92	93	92	90	104	109	111	110	109
臨時従業員(アルバイト)		114	118	118	118	116	101	102	103	106	106
登 録 審 判 員		28	27	28	29	32	31	35	35	37	39
登 録 検 査 員		28	26	29	30	33	30	33	34	37	38

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
4	笹 川 陽 平	S56年1月～現在



〔略 歴〕

(財)日本船舶振興会理事長、(社)全国モーターボート競走会連合会副会長、(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団副会長

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	専務理事名	任 期
6	福石朝三郎	S50年1月～59年2月
7	竹内清治	S59年3月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



▲東京都競走会事務所及び選手宿舎(平和島 江戸川)



▲平和島競走場メンバーズルーム

年 表

年 月 日	事 柄
S 55. 5	平和島競走場で第1回B&G全国スポーツ大会を開催
S 56. 1. 1	平和島競走場施設会社の株式会社平和島が京急開発株式会社に商号変更
1	平和島競走場信号灯、チェッカー灯改良設置
1. 14	第46回通常総会で笹川陽平新会長を選任
2. 19	笹川陽平会長、全国モーターボート競走会連合会副会長就任
3	多摩川競走場投票業務機械化完了
4. 9	防護具研究開発委員会発足
5. 28	平和島競走場水上施設関係研究委員会発足
6. 5	江戸川競走場で三島哲夫選手防水板誤装着(3レース)
6	多摩川競走場将来構想プロジェクトチームを発足
7. 13	ラジオ関東による広報放送を開始
7	平和島競走場第2副審にV. T. Rカメラを設置
7	防護具(胸部、上腕部保護のプロテクター)を平和島競走場で使用
7. 31	第27回モーターボート記念競走を平和島競走場で開催(13年ぶりの4大特別競走の実施)

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 8 .29	平和島競走場で9レース開始直前、中年男性2名レースコースに飛び込み遊泳、9レース15分遅れでスタート。
10	「平和島競走場の将来対策に関する提言書」を発表
11.11	東京都競走会創立30周年記念感謝の夕べを実施
S 57. 1	平和島競走場競艇エリア拡張のため平和島プールを取り壊し
1 .23	江戸川競走場で勝股勇選手5レースにおいて死亡
3 . 1	防護具研究開発委員会解散
3	東京3競走場企画実行委員会発足
4 .29	平和島競走場で第1回アマチュアモーターボートレース『平和島グランプリ』実施
5 .26	『モーターボート業界の現況と将来』のテーマで研修会を連合会で実施
6 .26	平和島競走場新型ボートYM511型採用(ボート同士の接触等から選手を保護するためカウリング付ボート)
7	多摩川競走場で彦坂郁雄選手の航跡展を実施
8	平和島競走場で全日本学生水上スキー選手権大会を実施
9	多摩川競走場ヘアボート試乗会を業界初として実施
10	東京競艇ファンクラブ発足
10	江戸川競走場新投票所棟の完成(鉄骨造5階建)
10	多摩川競走場ファン感謝月間の新設
10	ボートまつりを中野サンプラザで開催(以後中止)
11	平和島競走場ビット自動発艇装置の新設及びビット監視カメラの設置
11	平和島競走場競技棟の新築及び第二副審塔の新築
11	江戸川競走場で40mの空中線及び浮消波装置を全国に先駆けて設置
12.15	東京競艇ファンクラブ機関誌『ボートライフ』創刊号発行
12	江戸川競走場投票業務機械化完了
S 58. 2	平和島競走場で新型ヘルメット採用(アゴガード付)
3	平和島競走場の第18回鳳凰賞競走でフェスティバルを実施
3	平和島競走場でレーシングスーツを開発。第18回鳳凰賞競走のフェスティバル及び開会式で着用
3.22	平和島競走場の第18回鳳凰賞競走で業界初の臨時特別場間場外発売を実施(住之江競走場、三国競走場で併売方式で実施)
4 . 2	平和島競走場、競走水面の浮遊物対策として新大型掃海艇(双胴船)が就航
6	多摩川競走場対岸大型オッズ盤設置
6.24	平和島競走場対岸防潮工事の完成により対岸消波装置設置
6	競艇のシンボルマーク誕生

年 表	
年 月 日	事 柄
S 58. 7	平和島競走場で水上フェスティバル開催(アマチュアモーターボート選手権大会及び水上スキー選手権大会並びにジェットスキー選手権大会を同時開催)
8	平和島競走場空中線フロート式自動昇降装置にする。併せて、競走水面のコース幅を変更する
11	平和島競走場で第1回ファン懇談会を開催、続いて多摩川競走場でも実施
11	江戸川競走場外向早朝発売所完成
11	江戸川競走場で20年ぶりに開設28周年記念競走を実施
11.22	東京競艇ファンクラブのシンボルマークを決定(当りカップのカッピー)
S 59. 1 .21	東京地方が豪雪のため、江戸川競走場へ出場の選手、宿舎を早めに出発したにもかかわらず、到着が遅れ1レースの発走が1時間遅れとなる。
2	平和島競走場6隻用ボート揚降装置新設
3.27	ファン拡大推進委員会と運輸省との話し合いで従来の10レース制の枠が撤廃される。
5	多摩川競走場総合審判運行システム導入
7	平和島競走場モーター取付オープンを丸亀競走場に次いで実施
7.19	平和島競走場で京急開発株式会社(施設会社)の立体駐車場ビル竣工
8	東京3競走場ファンクラブ会員の観戦バスツアーを業界初めての試みとして実施(浜名湖競走場の第11回笹川賞競走)
11	多摩川競走場ビット自動発艇装置新設
S 60. 1 . 2	江戸川競走場で宮本力選手前検日スタート練習中負傷、翌3日死亡
3.21	平和島競走場の第20回鳳凰賞競走で人間ロケット日本初飛行
3	平和島競走場の第20回鳳凰賞でJR品川駅前のウィング高輪でテレビモニターによる実況放送を通じて街頭キャンペーンを実施。記念葉書、記念乗車券の発売及びゴリラ吹奏楽団等の原点に立った宣伝を実施。また、競走場内で情報サービスセンターを開設。
3	平和島競走場第20回鳳凰賞競走で業界初のミニFM局開局
4	平和島競走場進入固定レース実施(10月より1日2レース実施)
5	江戸川競走場で第1回園芸まつりを実施
5	平和島競走場業界初の電話投票開始
6	多摩川競走場正門棟新築
7.12	平和島競走場府中市(施行者)駐車場ビル竣工
7	江戸川競走場サマータイムレースを実施。ビット自動発艇装置新設
9	多摩川競走場全発券機をバーコードタイプに変更及び払戻の機械化を完了
9	多摩川競走場第2特別観覧席増設及びロイヤルルームの新設
10	多摩川競走場競技本部に流動表示装置(テクノサイン)を導入

年 表	
年 月 日	事 柄
S 60.12.29	多摩川競走場で吉井正選手 5 レースにおいて周回誤認 (3 艇フライングのための錯覚による)
S 61. 3	平和島競走場の第21回鳳凰賞競走で業界初の衛星実況中継実施
4	江戸川競走場のレース結果及び翌日の展望を千葉テレビ放送『ポートレース江戸川』で開催日に放映
4	江戸川競走場電話投票開始
6.26	平和島競走場展示タイムを公表
8.20	多摩川競走場進入固定レースを実施 (1日1レース)
10.24	平和島競走場で新整備方式のテスト的導入のちに実施 (選手主体の整備、整備員の整備協力の禁止)
12	多摩川競走場インフォメーションセンター (カッピープラザ) 新設
12.12	平和島競走場で第 1 回新鋭王座決定戦競走を実施
S 62. 4	江戸川競走場中継映像装置 (200 インチ) の設置
4.21	江戸川競走場強風のため 5 レース以降中止
4	多摩川競走場でランナバウト競走の復活及びチルト角度を公表
4	平和島競走場整備セミナーを業界初として開講
7	多摩川競走場電話投票実施
10. 4	平和島競走場で第34回全日本モーターボート選手権競走を開催。イベントとして世界一のスタントマン、ピーターフォークによる実演を公開
10. 8	平和島競走場第34回全日本モーターボート選手権競走の臨時場外発売において場外10分前締め切りの実施。(業界初)
10.13	第34回全日本モーターボート選手権競走で、平和島競走場に現職の運輸大臣が初来訪 (橋本龍太郎運輸大臣)
10	多摩川競走場競技棟新築併せて出走ピット位置を移動
12	多摩川競走場ターンマーク照明設備新設
S 63. 1. 3	平和島競走場選手持ちプロペラ制度実施 (業界初)
2.23	江戸川競走場で舟券発売に関する不正操作発覚 (昭和63年度第12回から平成元年度第 1 回、第 2 回までを中止)
4	平和島競走場12レース制を復活
4.16	平和島競走場ボート教室の開講
6	江戸川競走場で業界初の一括方式 (ワンセット方式) 導入
6.17	平和島競走場新型軽量ボート採用
7	平和島競走場文字多重放送の実施 (業界初)
9	多摩川競走場対岸に大型確定盤設置
10	平和島競走場電話予約投票実施 (業界初)
10. 7	多摩川競走場第35回全日本モーターボート選手権競走を開催

年 表	
年 月 日	事 柄
S 63.11.13	平和島競走場番組支援システム導入 (住之江競走場、蒲郡競走場と同時導入)
H 元. 3.21	平和島競走場第25回総理大臣杯競走実施
4.23	平和島競走場電話投票 (予約投票において) 単勝式、複勝式を新たに加える
4	平和島競走場電子式判定装置の導入 (業界初)
4.24	平和島競走場情報サービス委員会発足
4	多摩川競走場気泡式ライン表示装置を導入 (業界初)
6	江戸川競走場新整備棟及び特別観覧席 (ロイヤルルーム) 竣工及びボート揚降装置を新設
11. 1	多摩川競走場電子式判定装置導入
11.14	多摩川競走場C. I 検討委員会発足
H 2. 2	平和島競走場有線放送によるレース実況放送の宅内配信開始
3	多摩川競走場年間スタート事故率0.183 を達成 (年間第 1 位)
4. 1	テレガイドによる若者向けの街角モーターボート情報サービスの実施 (東京 3 競走場)
4	平和島競走場中型映像装置 (200 インチ) 導入
4. 7	平和島競走場一括方式実施
4.25	江戸川競走場電子式判定装置を導入
6.17	江戸川競走場の競走水面である中川放水路の航行船対策として上、下流に『徐行』の大型標識を設置
6.26	平和島競走場の第11レースで池上正浩選手周回誤認、ファン抗議
7.29	平和島競走場第 1 レースでスタート写真撮影不能。当該レースが中止となる。
10.26	江戸川競走場で偽一万円札 2 枚発見さる。
11	平和島競走場回線制御装置及びモーターボート情報表示システムを導入
12. 2	多摩川競走場一括方式実施

東京都競走会

多摩川競走場外向前売券所 ▶



▲多摩川競走場選手宿舎

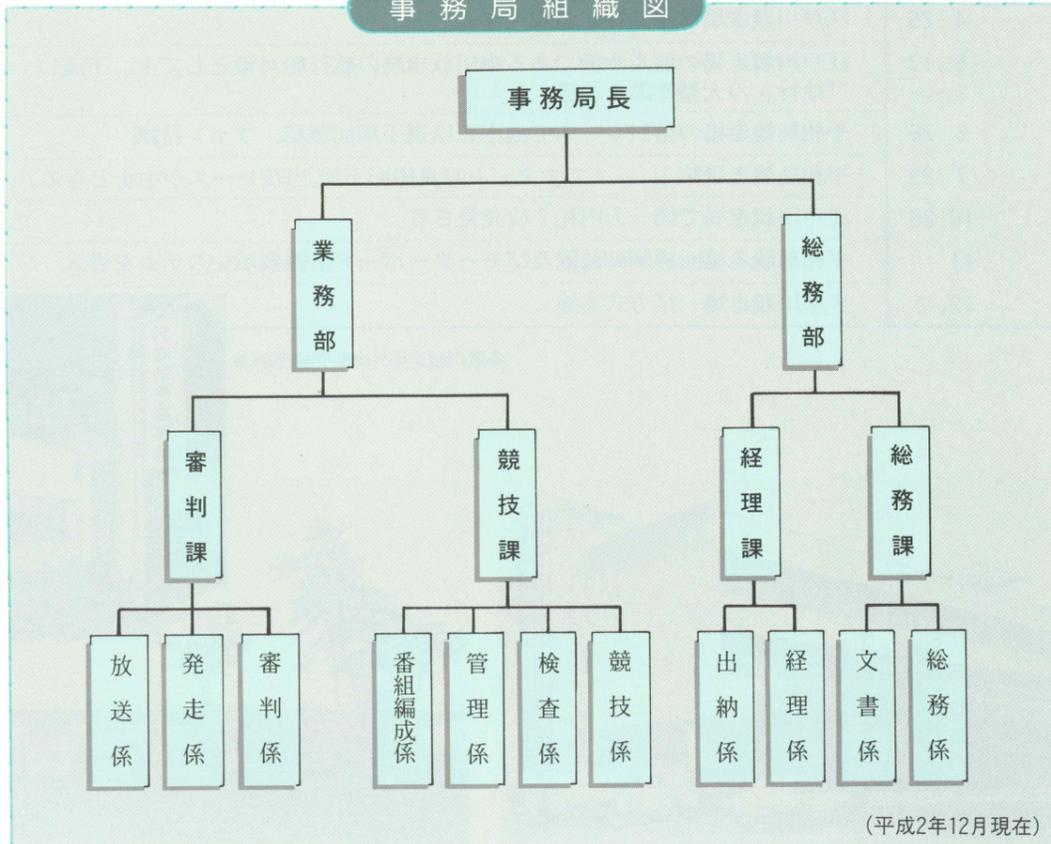


▲多摩川競走場正門



▲平和島競走場特別観覧席

事務局組織図



連携と協調をモットーに努力

昭和55年12月4日、会長(当時)藤吉男氏が出張先のスペインより帰国、成田空港に到着後急逝されたため、約半年間の会長空席の後、昭和56年5月の総会において当会創立時の功労者で評議員、理事として貢献された神奈川県議会議員渡辺喜三郎氏が、新会長に選任された。

渡辺会長は就任後のあいさつの中で、『当会は、レース場を持たないで他県のレース場を借用し運営に当たっているという、特異のケースである。したがって、東京都競走会を主とした関係諸団体との連携をより一層密接にし、全面的協力を得てゆくことが大事で、会運営に当たっては、常に協調をモットーとしていく』と、当会の基本方針を明示した。

昭和57年5月、副会長解任問題が裁判にまで発展したが、無事解決。昭和59年5月に、空席であった副会長に、東京都競走会相談役(前専務理事)福石朝三郎氏が就任した。

渡辺喜三郎会長の任期満了を迎えた昭和62年5月、総会において新たに東京都競走会常務理事渡部毅氏が会長に選任され、専務理事

には山本智士氏の再任が決定、現在に至っている。

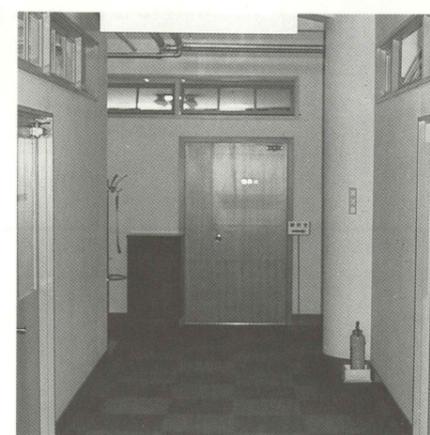
業務運営については、東京都競走会の協力のもとに、公正かつ円滑な競技運営を図ることは勿論、平和島運営協議会をはじめとする関係団体の諸行事に対し、参加協力を行っている。また、地元選手の指導育成についても力を注いでいる。さらに、当会の特殊事情に鑑み、関東海事広報協会に全面協力をを行い、同協会の諸行事である海の記念日式典をはじめ、マリンスポーツ大会、体験航海、伊豆七島フェスティバル、親子海洋教室、洋上研修、図画コンクール、シーサイドパレード等の行事に参加協力、海事思想の普及に努めている。

施行者との関係については、常に連携を密にし、合同研修会をはじめ各種会合を行い、必要事項について検討し、運営の万全を期している。

その他、公益法人の使命に基づき、社会事業団体等に対し寄付等を行い、公共の福祉に寄与している。



▲外向前売発売所(平和島)



▲神奈川県競走会事務所

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		60	59	63	62	62	62	63	61	62	62
役 員(常勤・非常勤)		11	9	11	12	11	11	9	9	10	10
職 員(含 嘱 託)		9	9	8	7	5	6	6	6	6	5
臨時従業員(アルバイト)		11	11	13	15	16	17	16	18	17	17
登 録 審 判 員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
登 録 検 査 員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
6	渡 辺 喜 三 郎	S56年 5月～62年 5月
 <p>〔略 歴〕 横須賀市議会議員、神奈川 県議員</p>		
7	渡 部 毅	S62年 5月～現 在
 <p>〔略 歴〕 東京都モーターボート競走 会理事、常務理事歴任</p>		

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
4	大 谷 夫 左 二	S50年 5月～57年 5月
5	福 石 朝 三 郎	S59年 5月～62年 5月
代	専 務 理 事 名	任 期
6	山 本 智 士	S50年 5月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



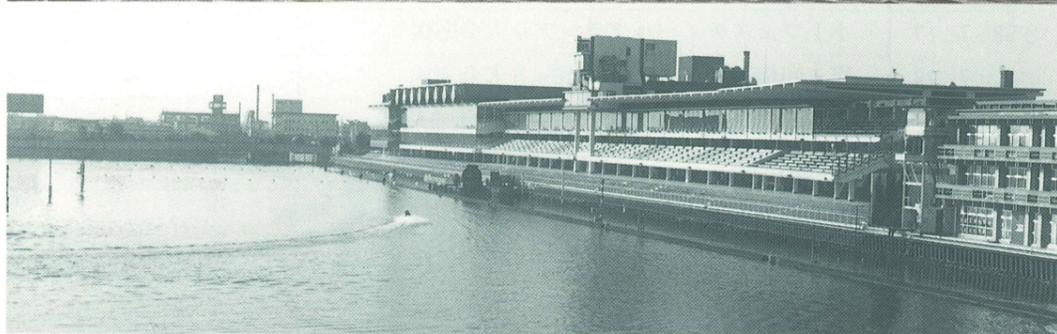
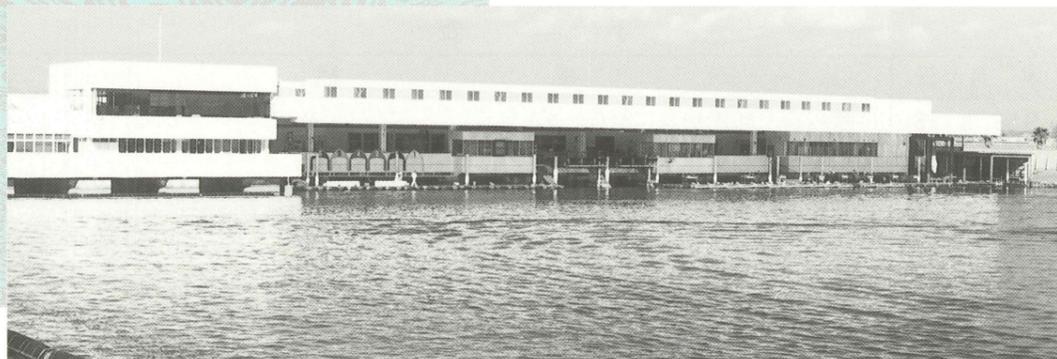
競技本部(平和島)▶

年 表

年 月 日	事 柄
S 56. 5. 18	渡辺喜三郎氏会長に就任
5. 31	関東海事広報協会主催マリナー見学会実施
7. 28	長崎県の水害に際し役職員一同のカンパにより水害見舞金を送る
8. 28	水難救済会神奈川支部救助訓練応援
S 57. 7. 20	海の記念日式典応援
8. 5	施行者、競走会、選手会東京支部神奈川ブロック“家族ぐるみ運動”実施
S 58. 7. 17	水上フェスティバルグランプリ大会応援
7. 24	第1回横浜少年少女ゴムボート大会実施
S 59. 4. 29	伊豆七島フェア マリンピック'84大会応援
8. 6 ～ 7.	第30回モーターボート記念競走場外発売実施
S 60. 3. 12	関東海事広報協会主催洋上座談会に参加
4. 23	選手会東京支部神奈川ブロック特別研修会実施
11. 3	渡辺喜三郎会長勲三等瑞宝章を受章
S 61. 8. 2	平和島水上花火大会応援
8. 21	施行者競走会洋上研修実施
12. 22～23	第1回賞金王決定戦競走場外発売実施
S 62. 5. 21	ボートピアフェア'87大会応援
5. 25	渡辺喜三郎会長辞任、渡部毅氏会長に就任
6. 18	東京支部神奈川ブロック洋上研修実施
10. 12	6代目会長渡辺喜三郎氏逝去
10. 15	東京支部神奈川ブロック選手動行調査強化
S 63. 5. 7	第15回笹川賞競走場外発売実施
～ 8	
5. 22	体験航海の集い応援
7. 29	親子海洋教室応援
H 元. 7. 20	第4回海の祭典応援
7. 22	フォーラムイン横浜に参加
9. 12	相模湖組合営施行30周年記念式典
9. 19～20	相模湖組合営施行30周年記念競走実施
10. 27	役職員“ボートピア姫路”視察
H 2. 7. 20	第50回海の記念日式典応援
7. 26	物故船員慰霊法要応援
8. 24	サーフ'90大会応援

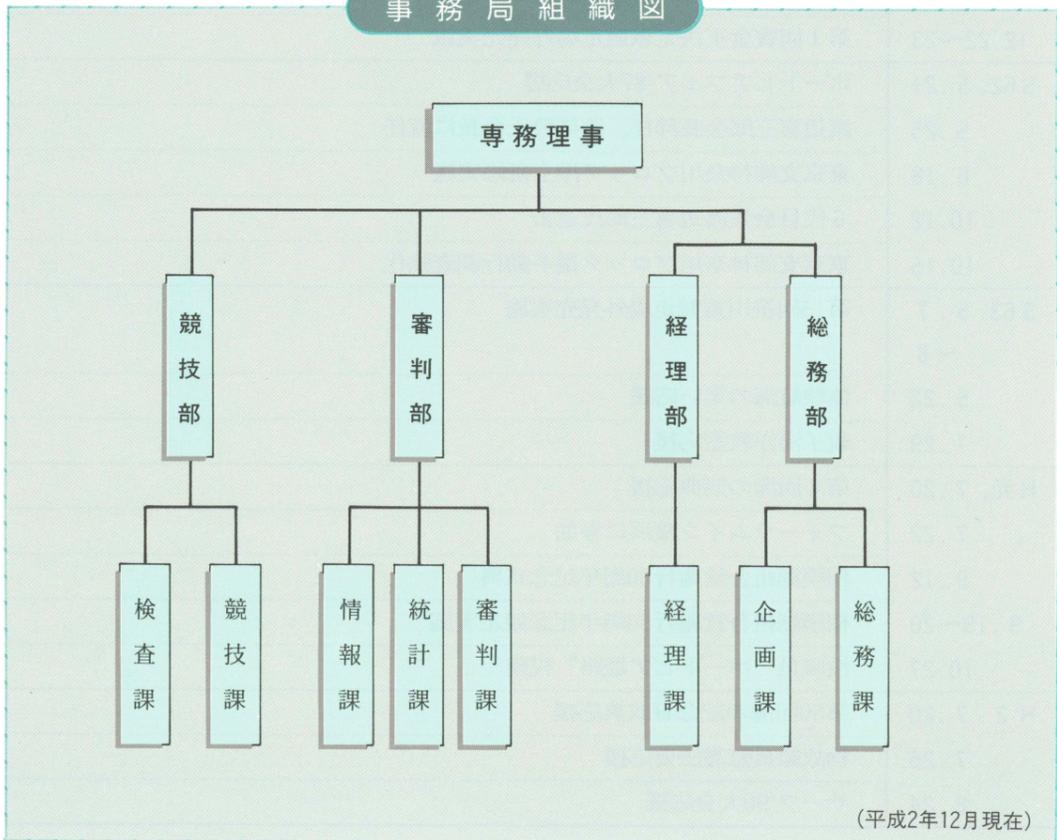
(社)静岡県モーターボート競走会

▼競技棟全景



▲浜名湖競走場全景

事務局組織図



新指導体制のもとに一致団結

浜名湖競艇も昭和55年度には、開設以来最高の売上を記録した。

しかし、世界的不況の波はモーターボート業界にも次第に押し寄せてきて、昭和56年度からは、以前より続いている入場人員の減少とともに売上も下降線を辿るようになった。

浜名湖においても前年比0.6%減となり、以後昭和59年までの4年間、マイナスが続くのである。

このような厳しい状況の中、連合会を中心とする中央の関係諸団体では、昭和56年のモーターボート競走法制定30周年を競艇元年と名付け、全関係者が初心にかえり一層努力するよう提唱した。

この趣旨に対応するべく、浜名湖でも、競走会会長、施行者の正副企業長で構成する最高責任者会議をはじめ、業務研究会を中心に競技運営、番組編成、広報宣伝、環境整備等の各小委員会において、競技運営の合理化、ファンサービスの充実等それぞれの分野にわたり、売上向上策について徹底的に検討努力した。

また、最近のレジャー施設の高級化志向に伴い、観客施設の充実、ファンの要望に対応するための投票窓口の改造、トーターシステム機器や払戻システム装置、電話投票システム等の導入、場内食堂の新築および専門店化、フラワールーム空気環境改善等の施設改善を

積極的に実施した。

その結果、昭和60年度には、前年比6.6%増の売上成績となり、4年間続いたマイナスに一応歯止めがかかった。

さらに、「ファンあつてのモーターボート競走」を基本理念として、将来への展望を拓き社会情勢に対応すべく、外向早朝前売発売、サマータイムレースの実施、5大特別競走の場間場外発売等を実施した。

昭和63年7月11日、建設以来20年を経過した静岡県モーターボート会館の拡張工事（三井建設により施工）が竣工した。翌8月にはモーターボート記念競走を開催。全場で場間場外発売を実施し、売上記録を更新した。

平成2年5月、競走会通常総会において役員改選が行われ、長年にわたりモーターボート競走業界の指導的存在であった小池節郎会長が辞任、第一線を退き名誉会長となった。新会長には、副会長であった小池明成氏が選任され、6月12日付中部運輸局長の認可を得て第5代会長に就任した。

新しい指導体制のもと、一致団結して所期の目的を達成すべく努力中である。



▲前売発売所

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度		昭和						平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員	28	27	26	26	26	27	27	25	25	25
役 員(常勤・非常勤)	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
職 員(含 嘱 託)	21	21	23	22	24	21	22	25	26	25
臨時従業員(アルバイト)	47	46	46	46	42	38	37	36	34	35
登 録 審 判 員	6	6	6	6	6	7	7	8	10	12
登 録 検 査 員	5	5	5	4	5	7	7	8	10	12

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
4	小池節郎	S43年7月～H2年6月	5	小池明成	H2年6月～現在
 <p>〔略歴〕 大阪鉄道局業務部総務課長、 新居町会議長、浜名湖競艇 組合議会議長、連合会副会 長、近代化研究センター会 長</p>		 <p>〔略歴〕 アジアホンダ株副社長、静 岡県競走会専務理事、副会 長</p>			

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
6	小池明成	S59年6月～H2年6月

代	専務理事名	任 期
2	鈴木 傳	S53年6月～57年7月
3	小池明成	S57年7月～59年6月

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



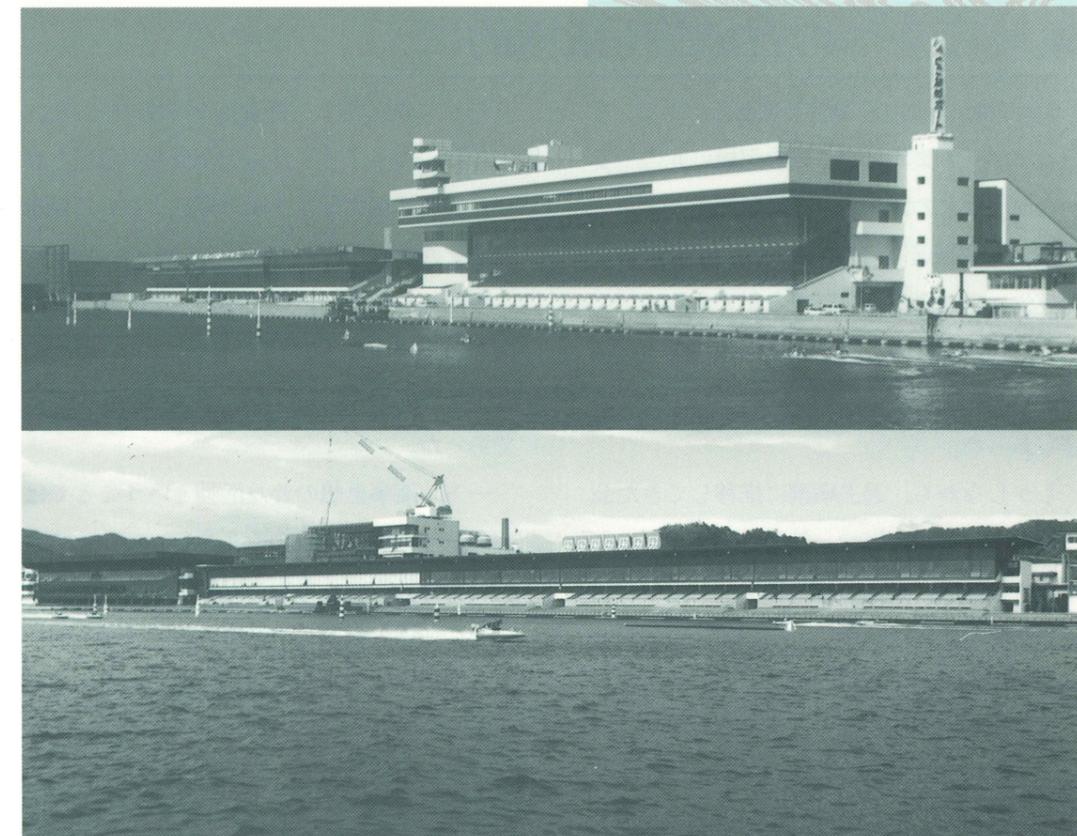
▲浜名湖競走場正門

年 表

年 月 日	事 柄
S 56. 6. 12	知識人モニター委員浜名湖競走場見学
9. 19	静岡県支部に女子選手誕生 (3007伊藤達美)
10. 8	競走会創立30周年記念感謝の集い開催
10. 29	第28回全日本選手権競走開催
11. 5	日本赤十字社静岡支部により救急法講習会開催
S 57. 3. 31	開催以来初めて売上前年比-6%となる
5. 10	浜名湖競走場企画実行委員会結成される
7. 5	小池明成氏専務理事に就任
12. 11	施設改善記念競走開催
S 58. 2. 10	第28回東海地区選手権競走開催
2. 20	浜名湖競艇ファンクラブ発足
5. 7	第10回笹川賞競走特別発売実施
7. 31	「フェスタハマナコ」開催
11. 19	早朝外向前売発売始まる
12. 14	南スタンド1階食堂増改築工事竣工
12. 15	施設改善記念競走開催
S 59. 3. 8	84浜名湖ひな祭り女王決定戦開催 (昭和35年以来24年ぶり)
4. 1	3号賞金から2号賞金へ降格
4. 14	連合会主催ナイターレース実験
4. 28	「浜名湖マリンフェスティバル」開催
4. 29	第11回笹川賞競走開催、小池明成氏副会長就任
8. 5	サマータイムレース開催 (12レース制)
12. 8	中央入場門付近改築工事完成
S 60. 4. 28	人間ロケット舞う
6. 14	12レース制実施となる
7. 1	合同現地調査実施される
8. 31	ランナーレース16年ぶり実施 (1日1レース)
12. 28	トーターシステム機器導入
S 61. 1. 13	施設改善記念競走開催
3. 31	売上前年比6.6%プラスとなる
5. 26	競技部選手食堂優良施設として浜名保健所長より表彰される
6. 6	小池会長連合会副会長に就任
6. 10	払戻システム装置導入
10. 24	新居町社会福祉大会で感謝状受賞
11. 20	浜名湖ボートファンクラブ会員本栖研修所見学
S 62. 2. 5	第32回東海地区選手権競走開催

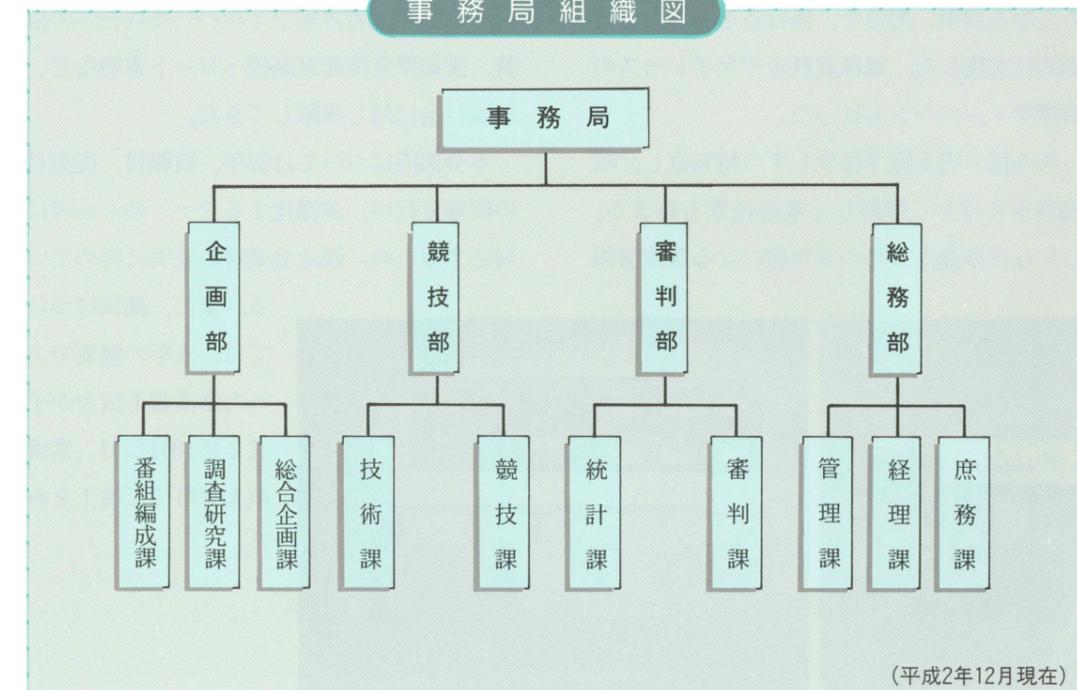
(社)愛知県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
S 62. 3. 20	元理事山本恒平氏逝去
4. 1	2号賞金から3号賞金へ昇格
4. 5	競走会OB会総会開催
5. 31	フラワールーム空気環境改善工事竣工
5. 26	新居署管内暴力追放推進協議会加入
8. 22	進入固定レース実施
8. 25	3154佐藤正子選手浜名湖一般レースで初優勝
9. 1	合同現地調査実施
10. 5	元常務理事石川喜代松氏逝去
11. 8	新居関所杯争奪戦で海上大名行列実施
11. 13	小池副会長アメリカ最新マネージメント視察ツアー参加
11. 25	電話投票システム設置完成
12. 12	電話投票開始
12. 24	場内2階食堂新装オープン
S 63. 5. 14	選手持ちプロペラ使用試行
6. 8	笹川陽平全モ連副会長浜名湖で講演
7. 10	報道記者席竣工
7. 11	静岡県モーターボート会館増設工事竣工
7. 31	「88浜名湖マリンフェスタ」開催
8. 4	第34回モーターボート記念競走開催
8. 9	第34回モーターボート記念競走において1592松野選手優勝
9. 20	1592松野選手モーターボート記念競走祝勝会
10. 27	小池副会長米国テレトラック視察団参加
11. 4	浜名湖ボートファンクラブ本栖研修所見学
11. 12	選手の最低体重に関する重量調整実施
H 元. 7. 13	浜名湖ボート新シンボルマーク誕生
9. 7	合同現地調査実施される
9. 7	スタート練習と展示航走の一括方式実施
9. 29	舟券売上上昇率最高記録賞受賞
12. 1	施設改善記念競走開催
H 2. 5. 18	新居町老人クラブから表彰される
5. 20	浜名湖競走場においてライオンズクラブ第36回年次大会開催される 小池名誉会長モーターボート競走近代化研究センター会長に就任
6. 12	小池明成氏第5代会長に就任
6. 12	小池節郎氏名誉会長に就任
8. 19	「浜名湖マリンフェスタ」開催



▲常滑競走場全景(上)・蒲郡競走場全景(下)

事務局組織図



(平成2年12月現在)

地域社会への貢献策も積極的に

昭和56年は法制定30周年を迎えた年で、モーターボート業界は、これを契機に元の一步から出直すとの意味から「競艇元年」とした。全関係者が謙虚に初心にかえり、事業の健全な運営に当たることを誓った年である。

本会においても、創立30周年式典をホテルキャッスルプラザにて催し、新しい一步を確認しあった。

しかしながら、過去順調に推移してきた公営競技も、貿易摩擦や一般消費の鈍化等による経済の停滞、加えて若年層ファンの公営競技離れ等もあって、かつてない苦しい状況へと下降しはじめていた。蒲郡、常滑両場ともに入場者の減少が目立ち、売上も低下していた。そしてこのような状況は、昭和59年までの4年間にわたるのである。

この間本会では、集客、広報、宣伝活動等あらゆる対策、努力を、施行各市と協力し積極的に実施した。鳳凰賞競走や女子レースの街頭キャンペーンも行った。

その後、売上低下は少しずつ持ち直し、昭和61年2月からは新しく電話投票も始まる。これら舟券発売業務の多角化による競技情報

サービスの充実に、関係者の努力は続いた。

なおこの年2月9日、上松会長が急逝され、3月14日に名古屋覚王山日泰寺において競走会葬を執り行った。

翌昭和62年に常滑競艇場が、平成元年には蒲郡競艇場がともに競艇事業始まって以来の売上を達成した。ようやく不況を脱し得たのであった。

一方、海事思想の普及活動ということでは昭和56年5月に定款の改正を行って、その目的に海事思想普及事業を追加。公益法人としての使命達成を期し、海事思想普及事業の一環としてゴムボート大会、ヨット教室、模型ボートカーニバル、海洋少年団への助成等を毎年実施している。

また、東海海事広報協会の行う事業に対しても積極的に協賛し、社会福祉協議会への寄付をはじめ、名古屋フィルハーモニーへの協賛、愛知県立蒲郡東高校へヨット寄贈など、地域社会に対し貢献してきた。

本会部内については毎年、役職員、従業員の研修を行い、多様化するファンのニーズに対応するため、競走会業務の充実に努めている。また、施設については、永年の懸案であった常滑選手宿舎が平成2年10月27日、常滑市大曾町にて竣工をみた。



▲蒲郡競走場ポートウイング



▲蒲郡競走場6連場内テレビ

競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		159	159	156	147	144	142	141	137	133	130
役 員(常勤・非常勤)		12	14	12	12	12	11	11	10	9	9
職 員(含 嘱 託)		47	45	44	45	42	43	44	46	47	49
臨時従業員(アルバイト)		77	78	77	70	68	65	67	66	64	66
登 録 審 判 員		17	17	16	16	16	18	19	22	22	22
登 録 検 査 員		16	15	14	14	12	14	15	16	18	19

歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
4	上松貞治郎	S53年5月～61年2月	5	岩塚 静	S61年5月～現在
 <p>〔略歴〕 株式会社十六銀行役員</p>			 <p>〔略歴〕 愛知県モーターボート競走会専務理事</p>		

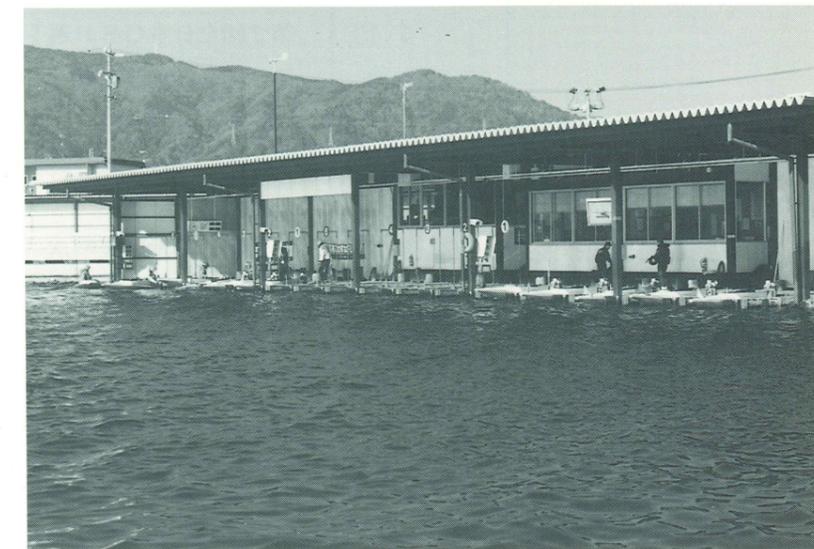
※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

歴代役員

代	副会長名	任 期
4	水野依信	S60年12月～61年5月

代	専務理事名	任 期
3	岩塚 静	S55年5月～61年5月
4	長田茂雄	S61年5月～63年5月
5	石田達曠	S63年5月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

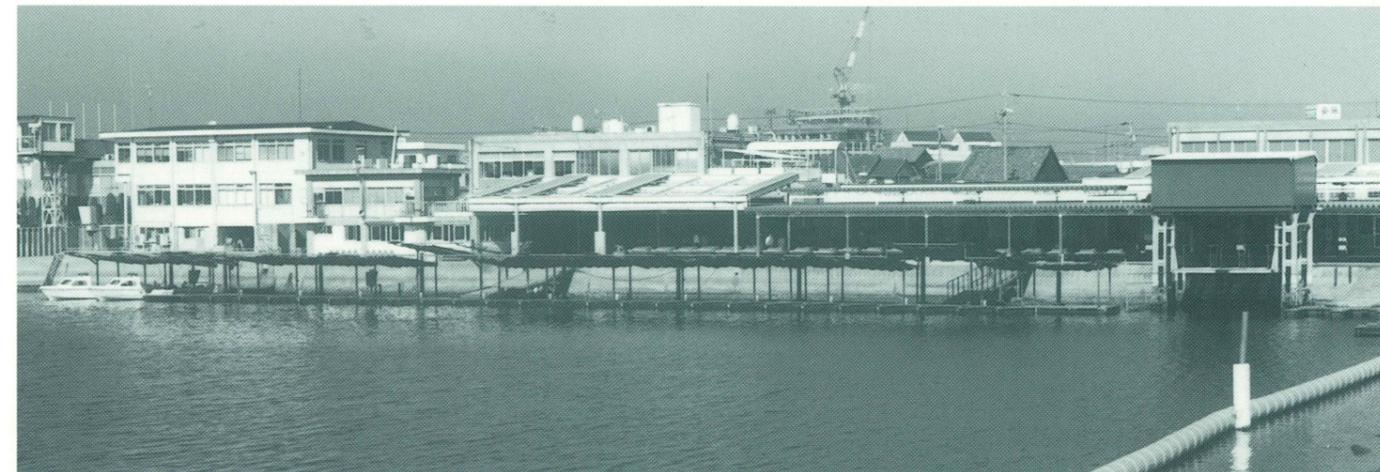


▲蒲郡競走場競技本部

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 4. 19	OSPオールスター選手権大会を蒲郡競艇場で開催
5. 12	第30回通常総会で定款を一部変更し海事思想普及事業を追加
8. 2	第6回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 17～18	岐阜市内で行われた第13回日本海洋少年団中部連盟大会に協賛
10. 31	創立30周年記念式典を名古屋キャッスルプラザホテルにて挙行
S 57. 2. 6	第27回東海地区選手権競走を常滑競艇場で開催
6. 13	OSPオールスター選手権大会を常滑競艇場で実施
7. 30	前監事山内甲子男氏逝去
8. 8	第7回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 5～11	第28回モーターボート記念競走を蒲郡競艇場で開催
S 58. 8. 7	第8回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 22	常勤理事安藤忠男氏逝去
10. 16	'83第1回愛知県水上スキー選手権大会を愛知県水上スキー連盟と共催で実施
12. 15	名古屋国際サロンにおいて選手会愛知支部との合同研修会を実施
S 59. 2. 8	第29回東海地区選手権競走を蒲郡競艇場で開催
2. 23～27	第19回鳳凰賞競走街頭キャンペーンを名古屋駅前を中心に連合会常滑市と共催で実施
3. 1～6	第19回鳳凰賞競走を常滑競艇場で実施、なお4場で臨時特別場外発売が実施された
5. 13	第2回全日本OSP選手権選抜シリーズ蒲郡グランプリを実施
8. 5	第9回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
11. 12	オール女子レースの街頭キャンペーンを名古屋駅前において常滑市と共催で実施
S 60. 8. 4	第10回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園において毎日新聞社と共催で実施
8. 25	碧南MBレーシングチームと共催で'85第4回OSPオールスター選手権大会を常滑競艇場で実施
S 61. 2. 6	第31回東海地区選手権競走を常滑競艇場で開催
2. 9	会長上松貞次郎氏逝去

年 表	
年 月 日	事 柄
S 61. 3. 14	名古屋覚王山日泰寺普門閣において故会長上松貞次郎氏の競走会葬を執り行った
5. 29	第35回通常総会で岩塚会長第5代会長に就任
7. 27	蒲郡競艇場において開催された日本モーターボート協会主催の第3回蒲郡グランプリ大会に協賛
8. 3	第11回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 24	岡崎市菅生川に於いて岡崎市、蒲郡市と共催でゴムボート大会を実施
8. 24	碧南MBレーシングチームと共催で'86第5回OSPオールスター選手権大会を常滑競艇場で実施
S 62. 3. 5	第22回鳳凰賞競走を蒲郡競艇場で開催
7. 26	蒲郡競艇場において開催された日本モーターボート協会主催の第4回蒲郡グランプリ大会に協賛
8. 2	第12回中部地区模型ボートカーニバルを名古屋青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 21	蒲郡競艇場に於いて蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を実施
8. 23	碧南MBレーシングと共催で'87第6回OSPオールスター選手権大会を常滑競艇場で実施
S 62. 4. ~63. 3.	蒲郡、常滑競艇場で地元選手を対象に整備セミナーを5回実施
S 63. 7. 20	名古屋港で開催された「第3回海の祭典」事業に協賛
8. 7	第13回中部地区模型ボートカーニバルを愛知青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施
8. 22	蒲郡競艇場で蒲郡市と共催で少年少女ゴムボート大会を開催
8. 28	常滑競艇場に於いて開催された日本モーターボート協会主催の第7回OSPオールスター選手権大会に協賛
12. 25	監事杉江達太郎氏逝去
H 元. 3. 5	常勤理事稲葉民蔵氏逝去
3. 30	地元選手を対象に蒲郡、常滑両場で整備セミナーを実施
6. 13	OSPオールスター選手権大会を常滑競艇場で実施
8. 6	第14回中部地区模型ボートカーニバルを愛知青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で実施

年 表	
年 月 日	事 柄
H元.10.28	名古屋市瑞穂競技場に於いて開催された「第4回世界ゲートボール選手権大会」に協賛
11.2	監事安井恒夫氏逝去
元年度	東海海事広報協会の元年度事業「東海水域海洋性レクリエーションネットワーク構想」に協賛
H2.1.18 ～23	新鋭王座決定戦競走を蒲郡競艇場で開催
2.8～14	第35回東海地区選手権競走を常滑競艇場で開催
8.5	第15回中部地区模型ボートカーニバルを愛知青少年公園に於いて毎日新聞社と共催で開催
10.1	愛知県立蒲郡東高校にヨットを寄贈
10.27	常滑選手宿舍竣工式典挙行
11.1	第3代会長堀田英一郎氏逝去
2年度	東海海事広報協会の2年度事業「東海水域海洋性レクリエーションネットワーク構想」に協賛



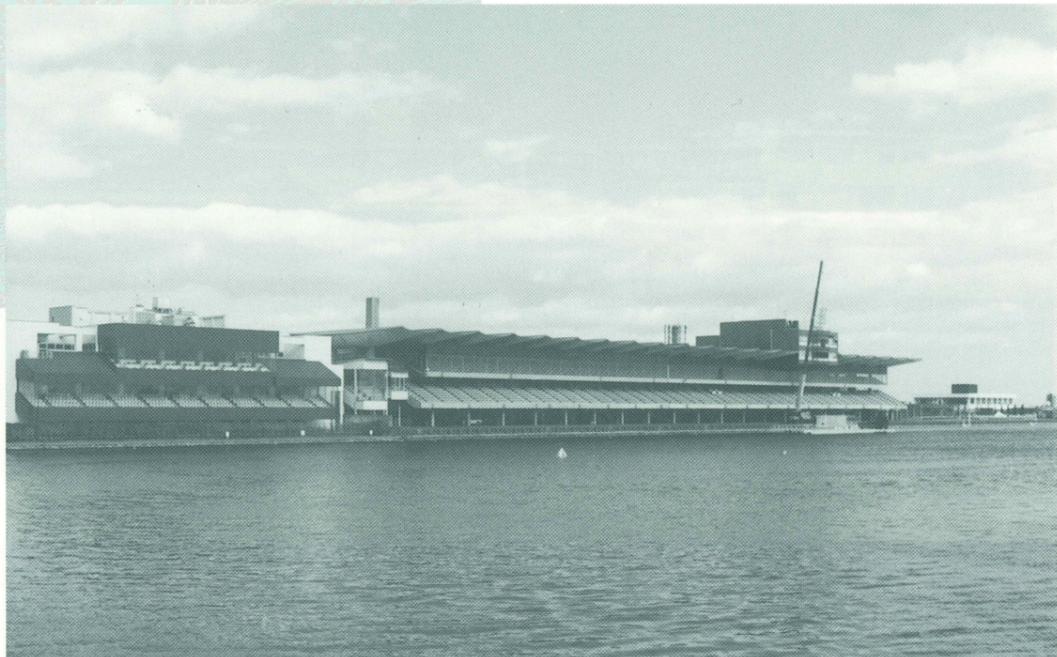
▲常滑競走場競技棟全景



▲常滑選手寮

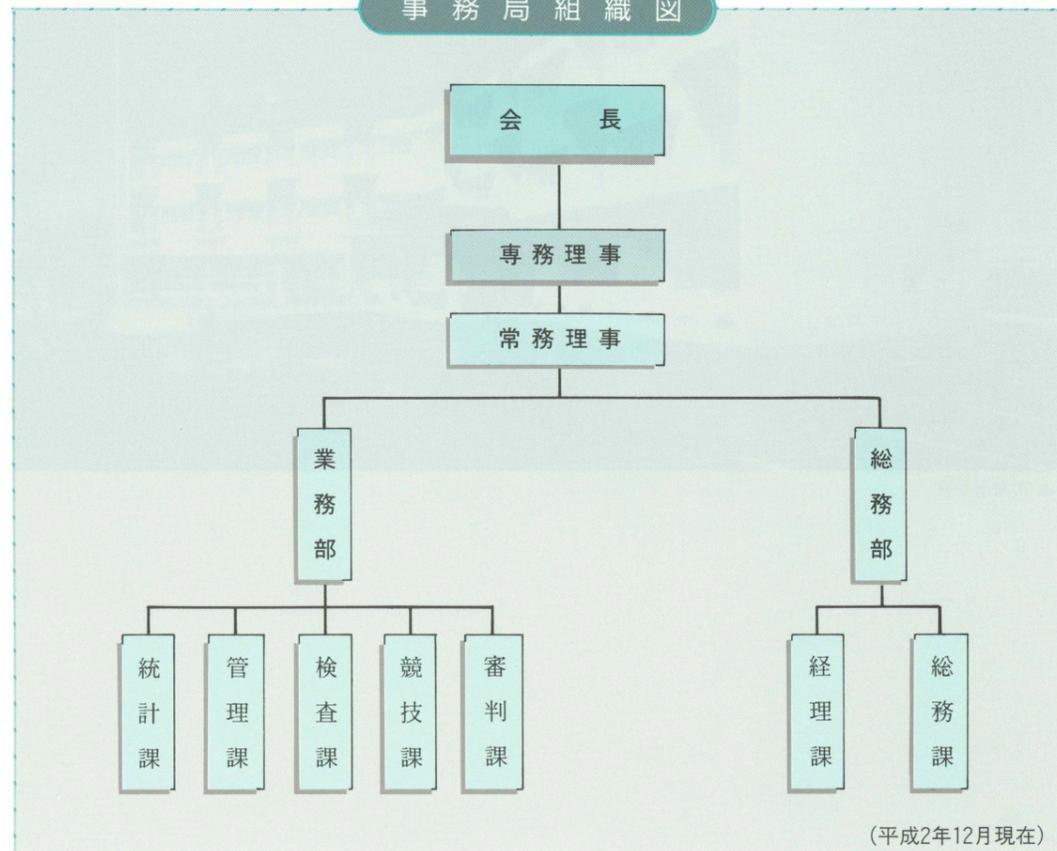


外向前売発売所▶



▲津競走場全景

事務局組織図



ファンサービスの充実へ地道に取り組む

法制定30周年の記念すべき年であった昭和56年は、オイルショック以後の不況や経済の低成長、レジャーの多様化等、さまざまな社会情勢から、モーターボート競走事業を取り巻く状況も深刻さを加えていた。

入場人員の減少、売上の低下は著しく、当会の運営にも大きく影響を及ぼした。

このため施行者は、特別観覧席に直通する昇降機や遊園地寄りへの一般観覧席の設置、さらにはブラックレイシステムを実施。また競艇を「ボート」と改称しアイドルマークに「ペカチャン」を採用、レインボーボートと呼ぶ新しい色彩感覚のボートを使用するなどイメージチェンジも行って、新しいファン獲得のための努力を尽くした。

競走会においても、ファンに信頼されるレース運営に全力を傾注、特に事故防止には細心の注意を払った。しかしそれでも、翌57年度はさらに入場人員10.9%、売上7.1%といずれも減少する結果となる。

このような厳しい状況のもと、本会は、施行者と一丸となってその対策に懸命な努力を続けた。施行者においては、苦しいその台所事情にもかかわらず、全国に先駆ける「メッセージボードの新設」、シングルユニット投票方式の採用、また、「中庭にお祭り広場を設ける」などファンサービスの充実にも果敢に取り組んでいった。

さらに昭和58年には、ファンならびに売上の増加を図るべく、競走会、施行者、全モ連が一体となってプロジェクトチームを結成。以来、積極的なPR作戦を展開していく。

そして迎えた昭和60年、社会情勢は依然として厳しい状況にあったが、実に久方振りに売上対前年比がプラスへと転じるのである。

1日平均売上7.9%増、入場人員1.1%増であった。

以後、順調に歩を進め現在に至っている。

印象深いのは平成元年度で、この年津市は市制100周年を迎えており、各種記念事業が開催された。

競走場においても、「レインボーホール」が4月に完成したのをはじめ、恒例の周年特別競走前夜祭の開催、10月には新たな試みとして“津駅前祭り”に参加、続いてモーターボート大賞の前日祭“100フェスティバル in 津ボート”が21日・22日の両日競走場において、また23日には三重県文化会館において、“モーターボート大賞前夜祭”を開催（久居市外6ヶ町村ならびに一般企業の協力により）するなど、ひときわ活気づく年となった。

売上も対前年度比プラス14.2%と、近年に例のない上昇を示し、年間売上の新記録はもとより、新春競走では節間売上も更新した。

海事思想普及の事業については、恒例の少年少女ヨット教室の開催・充実、海の記念日の四日市海洋少年団による市中パレードの主催等をはじめ、地元イベントへの協賛や四日市港・シドニー港姉妹提携20周年事業（昭和63年度）など、幅広い活動を行っている。

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和							平成		
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		6	6	6	5	5	5	5	4	4	4
役 員(常勤・非常勤)		15	15	15	14	13	13	13	13	12	12
職 員(含 嘱 託)		24	25	24	24	24	24	23	23	24	26
臨時従業員(アルバイト)		28	28	27	24	23	23	22	25	22	21
登 録 審 判 員		8	8	8	8	7	7	8	8	8	9
登 録 検 査 員		5	6	6	6	6	6	7	7	7	8

●歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
3	水 谷 昇	S53年3月～57年7月	4	森 口 隆	S57年7月～現 在



〔略 歴〕
元三重県桑名市市長



〔略 歴〕
澄懷堂文庫責任者

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



▲三重県競走会事務所及び選手宿舎

●歴代役員

代	専務理事名	任 期
3	奥 村 國 男	S57年7月～59年6月
4	濱 口 重	S59年6月～61年6月
5	山 中 弘	S61年6月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S57.7.3	県内優秀選手表彰式
S58.10.7	管理棟選手控室の改装工事始まる
12.1	津ボート企画実行委員会発足 初めての試み、施設改善競走特別競走前夜祭を津東映において開催
S59.5.7	三重県内優秀選手表彰式
6.1	開設32周年記念特別競走「手づくり」前夜祭
12.30	新春競走 甘酒サービスを開始
S60.3.7	フォークリフト第27回発明考案作品にて優秀賞を受賞
5.21	三重県内優秀選手表彰式
6.19	第12回競艇関係者武道大会 (津市体育館)
9.22	第3回全日本OSP選手権選抜シリーズアマチュアモーターボートレース 津グランプリ開催
H元.8.9	第16回東海地区競艇関係者武道大会
H2.4.1	12レース制実施



◀正門

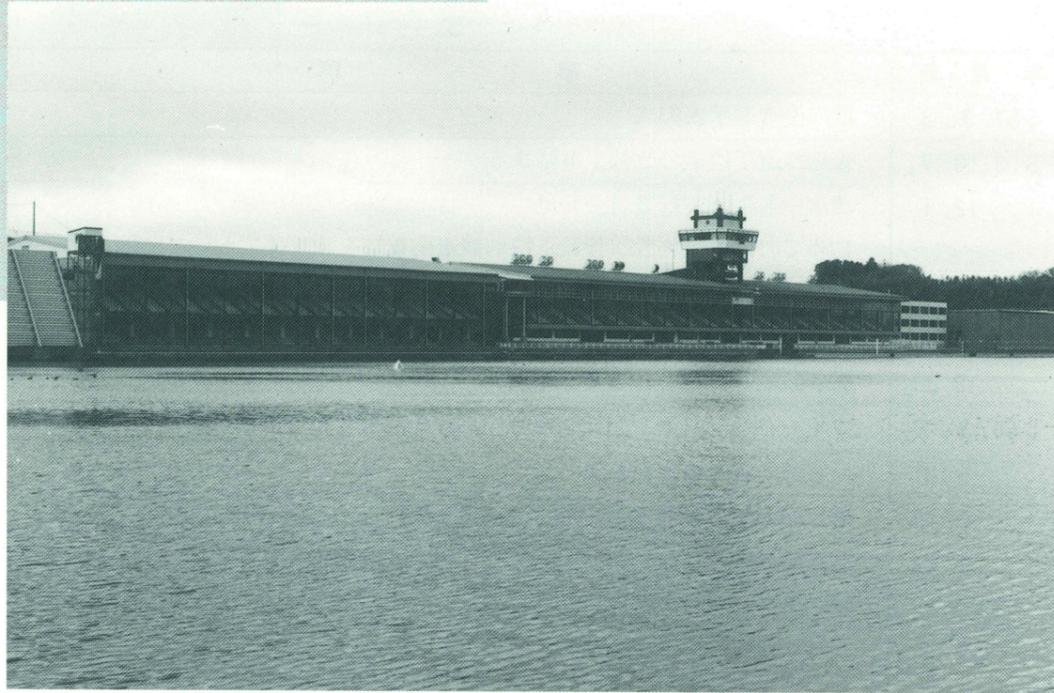


▲外向前売発売所



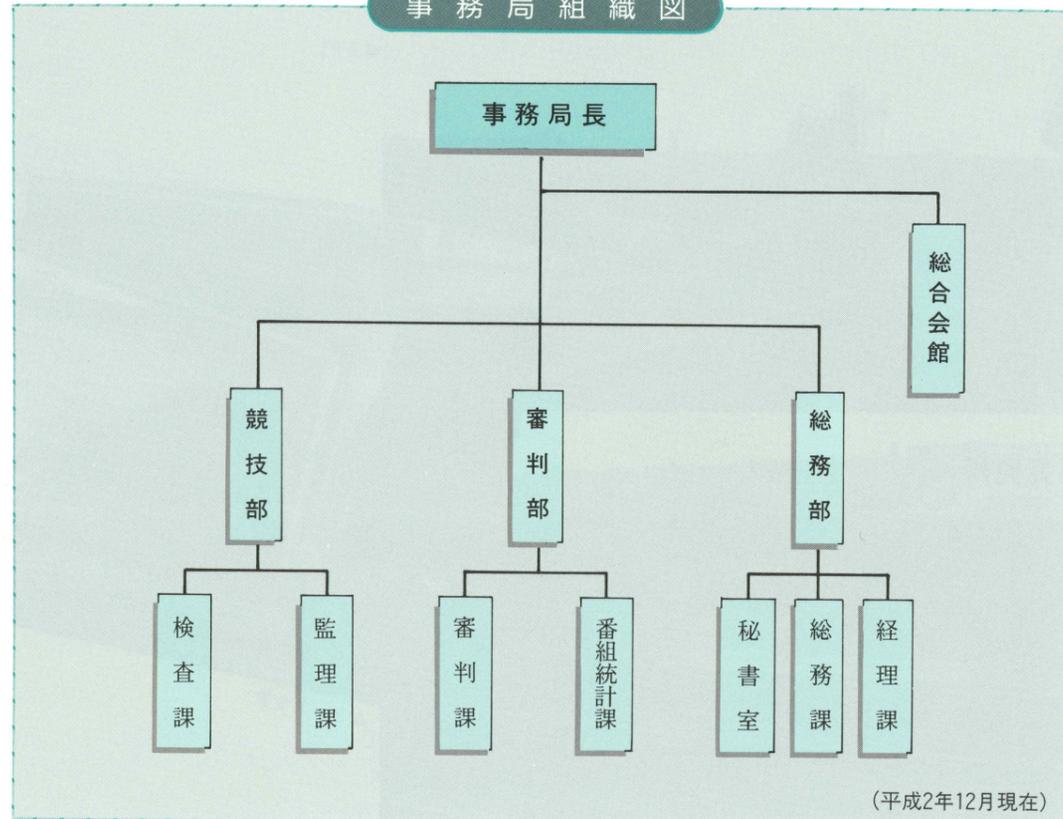
▲ピット全景

(社)福井県モーターボート競走会



▲三国競走場全景

事務局組織図



新たなる躍進を期して…

昭和28年4月14日、九頭竜河口で1日売上108万円でスタートした三国競艇も、昭和43年7月12日九頭竜川の一級河川昇格に伴い、現在の地・三国町池上と芦原町舟津にまたがる沼地、通称フケに総工費7億円を投じて移転した。当時、1日平均入場者は1,400人、売上は約2,000万円であった。

三国競艇は裏日本唯一の競走場で、背後人口が80万人と少なく、降雪などのハンデを背負いながらも、設備の近代化やファンサービスの充実に努めてきた。その甲斐あって昭和48年、49年と2年連続売上上昇日本一の名誉を受け、55年度には1日平均入場者7,300人、売上2億9,600万円と、移転時の5.2倍から14.8倍に上昇した。

このような趨勢の中で昭和56年10月、創立30周年を迎え、競艇元年として新しい時代に向けてのモーターボート競走の魅力づくりと社会に対応できる体制づくりに専念した。

しかし、昭和55年度をピークに売上は下降線をたどり、競走会の運営も経費節減…「入るを量りて、出づるを制す」の健全運営を迫られた。

昭和59年5月、初代会長の一瀬伊太郎氏が退任し、新会長に一瀬茂雄氏が就任。「人事の若返り」が図られた。

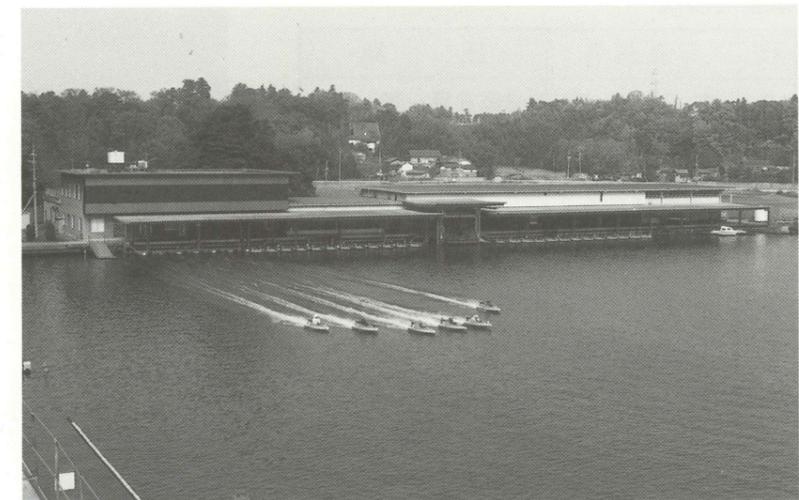
また、総合会館選手宿舎も20数年を経過し、平成元年9月には

選手居室の増築を、平成2年9月には食堂、厨房の改修を行った。

一方、競走の運営に当たっては、ファンのニーズに応え「ついで、どこでも、おもしろい」競走をスローガンに、競走運営全般の見直しを積極的に推進した。

その結果、昭和60年度、ようやく売上は5年ぶりに前年度比1.24%の増、昭和63年度には前年度比5.24%増と、58年度を超えるまでに回復した。

平成に入り、湾岸戦争など一抹の不安があったが、戦後最長といわれた「いざなぎ」「岩戸」景気に続く平成景気に支えられ、平成2年度の1日平均売上は3億1,300万円に達し、開設以来最高の売上を記録した。さらに競艇場クリーン大作戦の一環として、平成4年12月のオープンをめざし新2号館の建設も進められており、三国競艇場はいままた新たな躍進へと歩み出した。



▲競技棟全景

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度		昭和						平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員	178	176	170	172	173	174	172	166	167	166
役 員(常勤・非常勤)	15	15	15	15	15	15	14	14	14	15
職 員(含 嘱 託)	24	25	25	24	19	19	20	20	19	19
臨時従業員(アルバイト)	24	25	27	26	24	27	26	26	26	26
登 録 審 判 員	15	15	16	16	14	13	15	15	17	16
登 録 検 査 員	12	12	12	13	12	12	13	14	16	15

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
初	一瀬伊太郎	S26年10月～59年5月	2	一瀬茂雄	S59年5月～現在
 <p>〔略歴〕 高浜町長 県議会議員 全国競走会協議会会長</p>		 <p>〔略歴〕 九頭竜厚生事業団理事 競走会専務理事 福井県海事広報協会副会長</p>			

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
3	吉田慶三	S46年6月～現在

代	専務理事名	任 期
5	一瀬茂雄	S55年6月～59年5月
6	谷黒武	S59年5月～61年5月
7	宇野松右衛門	S62年1月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

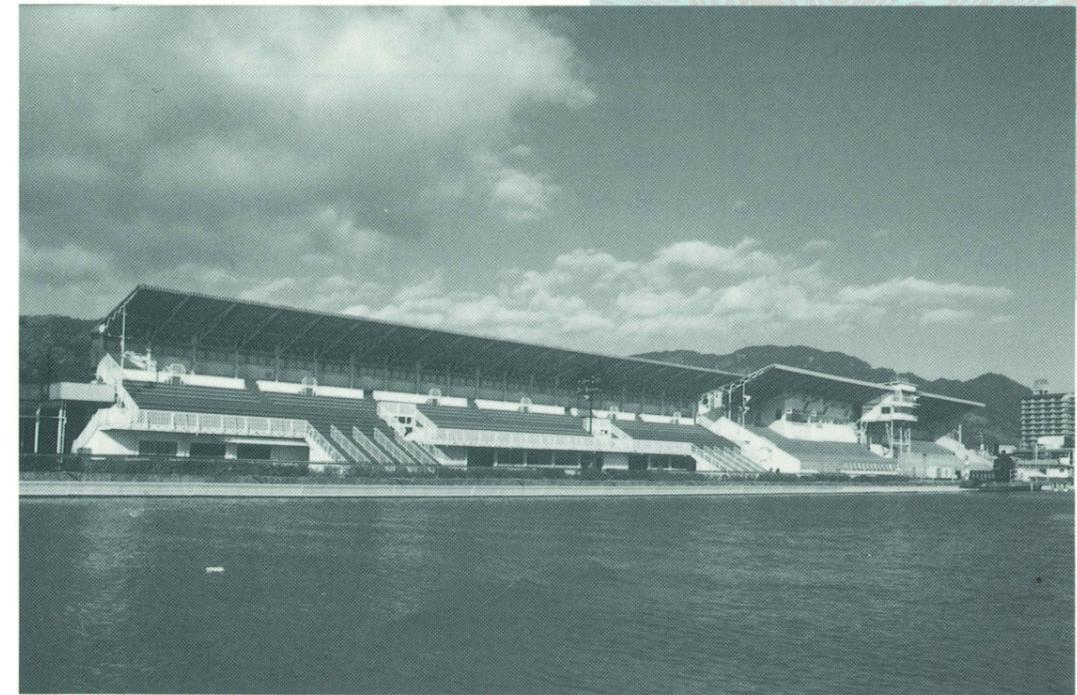


▲装着場

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56.10.20	競走会創立30周年記念式典
12.16	シングルユニットシステム導入、施設改善記念競走開催
S 57.4.1	番組編成(組合せ業務)受託
4.15	競走会事務所前に孝養の像建立
7.5	三国競走場企画実行委員会設置
12.18	ミス三国ボート誕生、啓蒙普及キャンペーン実施
S 58.1.1	三国ボートファンクラブ発足(478名)
1.24	登録第2735号安心院信行選手殉職
7.9	競走場本館正面玄関改装、ベアボート試乗会
S 59.2.18	前日前売発売実施
4.13	早朝前売発売及び外向前売発売実施
5.8	一瀬伊太郎会長退任、2代会長一瀬茂雄氏選任
8.14	サマータイム、12レース制競走実施
S 60.4.1	3Pボート導入、全レース12レース制実施
4.18	スタンド前面ガラス、南玄関改装
12.7	オンライン払戻システム導入
12.20	38.56 豪雪をしのぐ大雪、交通麻痺のため9回1節競走中止
S 61.2.11	スタート練習タイミング公表
6.19	展示タイム公表、開設33周年記念特別競走、選手サイン会
9.14	競走水面標識ポール移設
11.2	モーター取付けオープン実施
S 62.1.17	新整備方式採用実施
3.5	総務部企画統計調査課を廃し、審判部番組統計課を新設
4.5	ランナバウト導入(12年ぶり復活)
10.29	整備セミナー開講
S 63.5.3	プロペラ選手持ち試行
9.21	発走用大時計更新、中央集計装置(MDF)改善 指令室、コンピューター室拡張新設、第1回Wチャンピオンシップ競走開催(AB級別競走)
11.6	選手の最低体重に関する重量調整実施
S 64.1.7	昭和天皇崩御、7.8競走中止
H 元.1.22	三国競艇施設改善研究会発足
7.12	電話投票システム導入推進委員会発足

(社)滋賀県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
H元. 9.15	総合会館選手宿舍の選手居室増築
11.1	電話投票加入者募集開始 (平成2年4月稼働)
11.3	三国町制 100周年記念「モーターボート大賞」特別競走開催
H2.1.6	節間売上最高記録更新 (9回4節6日間 3,271,387,600円)
3.10	三国競走場シンボルマーク制定
3.15	1レース売上最高記録更新 (3月15日12レース 192,434,800円)
4.5	電話投票発売開始 (加入者 959名)
5.3	競技進行一括方式の実施
5.7	第25回総理大臣杯競走優勝岩口昭三選手祝勝会
6.14	「花の万博」会員研修旅行
7.22	海の記念日制定50周年記念「福井港ボート天国」開催
8.24	三国競走場新2号館建設に伴う「仮設スタンド」の起工式
9.10	総合会館選手宿舍の食堂、厨房改修
9.13	セミマルチシステム導入、競走場売店、食堂の改修、駐車場の整備



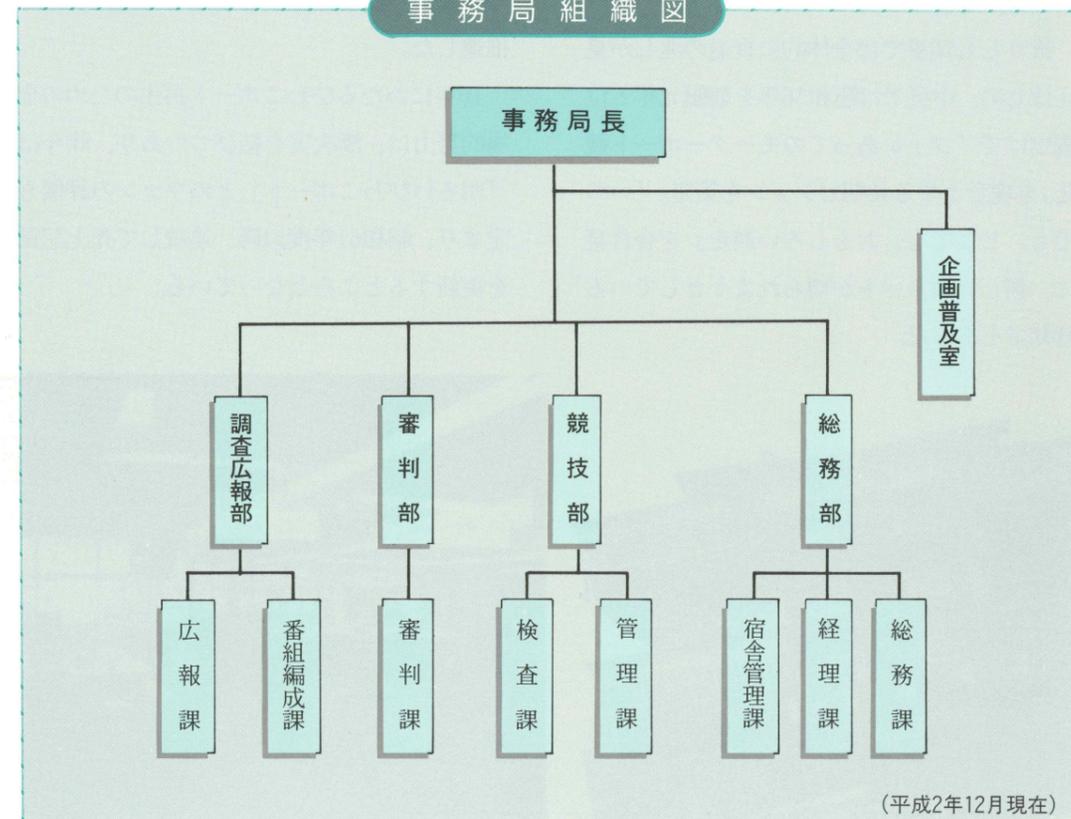
▲琵琶湖競走場全景



▲外向前売発売所

▲ピット全景

事務局組織図



(平成2年12月現在)

“明るいびわこボート”の評価に呼応

(社) 滋賀県モーターボート競走会は創立40周年を迎えた今日、びわこボートの競走実施団体として、いまや湖国のレジャー界に確固たる地歩を占めるに至っているが、その道程は決して平坦ではなかった。

初開催の翌年には、売上不振と台風被害が重なって閉鎖論さえ出ている。だが、全関係者の懸命の努力により苦難も次々と乗り越えて、着実に発展を続けてきた。

しかしながら昭和56年に至り、創業以来初の減収という危機に見舞われ、かつ、前後して県公営競技調査委員会から公営競技施行に関し一歩後退の答申がなされるにおよび、びわこボート再生のための見直しが不可欠のものとなった。

折りしも業界では全体的に衰退の兆しが見えはじめ、中央では昭和56年を競艇元年と位置づけて「ファンあつてのモーターボート競走」を理念とする長期ビジョンを策定。「いつでも、どこでも、おもしろい競走」を合言葉に、新しいスタートが切られようとしている時期でもあった。

びわこボート再生の第一歩として、明るい競走場づくりの推進を期すこととし、昭和58年1月から「びわこ競走場を明るくする運動」を展開。暗いイメージ掃のための諸準備を進めた。

翌59年1月からは、地元警察の指導・協力のもと、全场一体となって暴力団、ノミ屋等に対する入場拒否措置を完全に実施・継続。今日における明るい場内環境が確立されるに至った。同時に、ファンニーズに沿った活性化諸対策も、関係者一丸となって進められた。

滋賀県競走会は、こうした変革の流れをリードすべく体制強化を図り、びわこボートの主要施策にも積極的に関与しながら、公正かつ魅力ある競走づくりを目標とする諸事業を推進した。

10年にわたるびわこボート再生のための全场的努力は、漸次実を結びつつあり、昨今は「明るいびわこボート」とのファンの評価も定まり、昭和61年度以降、連続して売上記録を更新するところとなっている。



▲ 滋賀ボート会館及び選手宿舎



▲ 整備場

● 競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		33	34	33	33	33	34	33	33	35	35
役 員(常勤・非常勤)		15	15	14	14	13	14	14	14	14	14
職 員(含 嘱 託)		21	20	20	20	20	22	21	21	24	22
臨時従業員(アルバイト)		26	26	25	23	23	23	23	23	24	25
登 録 審 判 員		7	8	8	8	8	8	8	7	7	10
登 録 検 査 員		6	7	7	7	7	7	8	8	9	12

● 歴代会長

代	会 長 名	任 期
6	石川 善 策	S50年4月～現 在



〔略 歴〕

陸軍幹部候補生、兵役を経て京都地方事務官に就き、昭和27年4月より本会審判長、事務局長を経て、常務理事、専務理事及び副会長を歴任。

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

● 歴代役員

代	副会長名	任 期
3	三 浦 弥 一	S55年4月～57年3月
4	森 地 善 夫	S57年6月～H2年3月
5	大 西 茂	H2年4月～現 在

代	専務理事名	任 期
6	大 西 茂	S55年4月～H2年3月
7	西 村 晃	H2年4月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

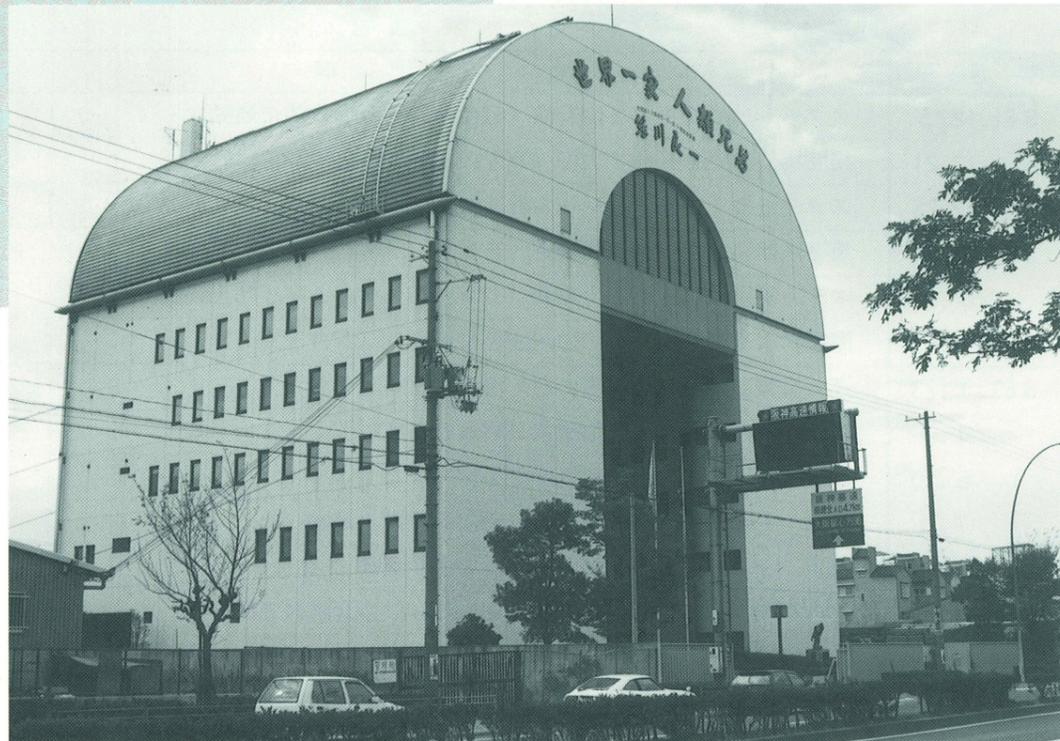


▲ 特別観覧席

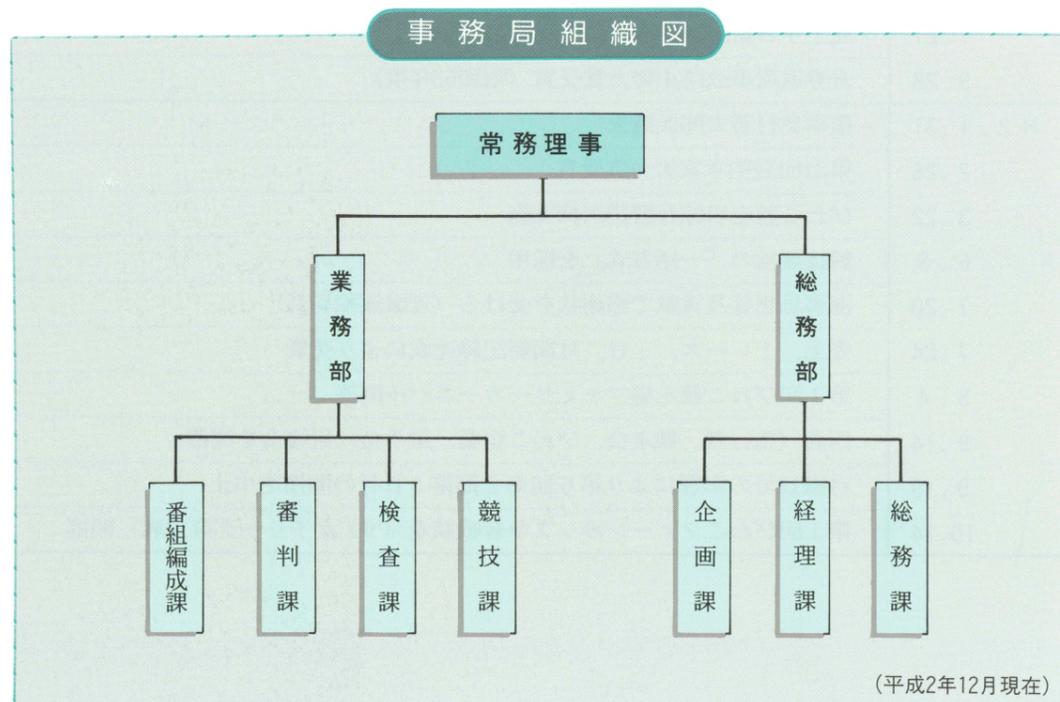
▲ 競技本部

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 3. 1	滋賀県大津保健所に体力診断用機器を寄贈
9. 10	会員及び役員物故者慰霊祭挙行
9. 19	創立30周年記念式典挙行
10. 21	四者（施行者、競走会、びわこ企業、選手会）親睦ソフトボール大会開催
11. 1	第36回びわこ国体募金協力により感謝状を受ける（国体実行委員会）
12. 1	第36回びわこ国体警備協力により感謝状を受ける（県警本部長）
12. 23	第1回びわこ競走場売上向上対策委員会開催
S 57. 2. 23	第1回びわこ競走場企画実行委員会開催
3. 11	孝養の像除幕式挙行（滋賀ボート会館設置）
7. 6	第1回びわこ競走場最高責任者会議開催
10. 30	紺綬褒章受賞（第36回びわこ国体貢献）
S 58. 1. 15	びわこ競走場を明るくする運動の展開（昭和58年中）
3. 6	びわこ競走場施設改善記念競走開催
5. 8	自衛隊協力により感謝状を受ける（陸上自衛隊大津駐とん地司令）
8. 9	びわこ競走場シンボルマークの愛称「ピナチャン」に決定
9. 26	監事出口市兵衛氏逝去
11. 19	びわこ競走場防災訓練実施
12. 7	総合事故防止第1位受賞（58秋期総合事故防止運動、事故率及び人身事故）
S 59. 1. 5	暴力団、ノミ屋その他不法行為者に対する入場拒否措置の完全実施（59年以降）
4. 8	早朝外向前売発売の実施
5. 10	競艇事業啓蒙のための京阪神懇談会発足（住之江、尼崎、びわこ）
6. 24	競走用モーター名称の数字を廃し地名（漢字）とする
8. 8	びわこ競走場第1回納涼カーニバル開催（びわこ花火大会協賛）
9. 19	環境改善記念びわこグランプリ競走開催（暴力団等完全締出し定着）
11. 14	更生保護事業協力により感謝状を受ける（県更生保護事業協会）
S 60. 2. 23	第1回びわこ競艇ファンクラブ懇談会開催
10. 18	びわこ競走場総合警備訓練実施
12. 17	環境改善記念びわこグランプリ競走II開催
S 61. 6. 5	展示タイム公表、エコカーリング付新ボート採用
7. 19	びわこ競走場総合警備訓練実施
7. 23	売上、1日、節間、新記録達成により受賞
11. 12	第1回荒法師賞競走開催

年 表	
年 月 日	事 柄
S 61. 12. 5	スタート事故防止第2位受賞（61年秋期総合事故防止運動）
12. 21	場間場外発売を初めて実施（第1回賞金王決定戦競走）
12. 25	スタート板を廃止し、レース番号板を採用
S 62. 2. 24	第2回競艇広告大賞（奨励賞）を受賞（ポスター部門）
7. 1	スタート事故防止第1位受賞（62年前期スタート事故防止運動）
12. 27	濃霧により第9回第3節の開催を中止する（27日～30日）
S 63. 1. 23	連合会笹川副会長を講師に迎え講演会を開催
4. 1	スタート事故防止第3位受賞（昭和62年度）
6. 10	艇番号札に枠順と同色のカラーを採用
7. 1	スタート事故防止第1位受賞（63年前期防止運動）
7. 27	売上、1レース、1日新記録達成により受賞
7. 31	初の企業杯B、B、C（びわこ放送）カップ争奪戦競走開催
10. 28	舟券返還事故防止努力賞受賞（昭和62年度）
S 64. 1. 1	スタート事故防止第1位受賞（63年後期防止運動）
1. 7	昭和天皇崩御により第10回第1節の競走後半3日間中止
H 元. 2. 28	売上1日新記録達成により受賞
5. 28	連合会笹川会長びわこ競走場においてファンに挨拶される
6. 25	スタート事故防止第1位受賞（昭和63年度）
7. 21	売上1日新記録達成により受賞
9. 28	舟券返還事故防止努力賞受賞（昭和63年度）
H 2. 1. 31	監事奥村善太郎氏逝去
2. 26	第31回発明考案努力賞受賞
3. 22	びわこ競走場総合警備訓練実施
6. 8	競技運営の「一括方式」を採用
7. 20	海事思想普及貢献で感謝状を受ける（近畿運輸局長）
7. 24	売上、1レース、1日、月間新記録達成により受賞
8. 4	第1回びわこ競走場ファミリーカーニバル開催
9. 14	四者（施行者、競走会、びわこ企業、選手会）研修会を開催
9. 19	台風19号の影響により第6回第2節第3日目の開催を中止
10. 14	第1回びわこクイーンカップ争奪戦競走（'90女子リーグ第14戦）開催



▲ 大阪府競走会事務所及び選手宿舎



公正円滑な競技運営に総力

昭和56年、本会は創立30周年を迎え、簡素ながらも式典を実施し、また長年の懸案であった新選手宿舎の建設に着手し、昭和58年4月、本会設立以来30年に亘る業績の結晶として、選手宿舎、事務所、体育館が一体となった新会館が完成した。

ようやく景気回復の兆しが見えはじめた昭和60年には、競走法施行規則の改正により場外発売が許可され、新たな時代を迎えることとなったが、住之江競走場においては、関連団体の緊密な連携により、電話投票システム等のニューメディア社会に対応する諸施策を積極的に推進し、売上額が若干ながらプラスに転じ、また、昭和61年には業界初の第1回賞金王決定戦競走を実施し話題となった。施設面では昭和58年に会員席(メンバールーム)の新設、昭和63年にはモーターボート業界として初めて対岸に大型映像を設置、そして平成2年には平成5年の完成を旨し約220億円を投ずる「住之江競走場環境美化実施計画」に着手等、常にモーターボート業界をリードする施策により、勝舟投票券売上額は引き続き全国第1位を堅持している。この間、本会は公正円滑な競技運営に総力を結集し、昭和61年度の事故防止において全国第1位の実績をのこした。

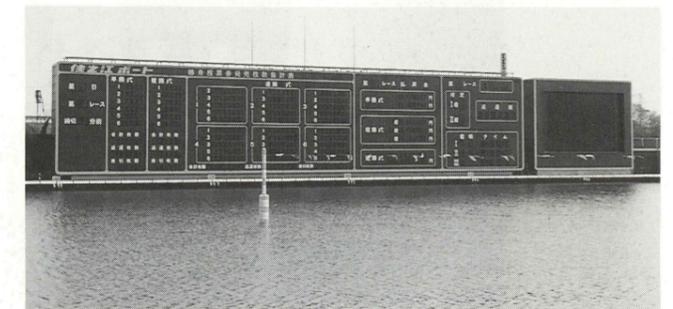
本会は、受託業務の公正円滑な実施とあわせ、海事思想の普及にも尽力した。大阪府下養護施設の中学生を招待し、ゴムボート競技、水泳教室等を実施する「海の子の集い」が、昭和63年に30回目を迎え、宝塚大劇場に約2,000名の養護施設の小、中学生及びその間ボ

ランティア活動として参加していただいた関係者を招き、30周年記念式典を行い、本会の公益事業を広く社会にアピールした。また、平成2年7月には50周年を迎えた「海の記念日」の記念式典、行事に全面的に支援協力し、さらに、社団法人近畿海事広報協会に対しては、海事思想普及のための活動費として毎年400万円の寄附を行っている。

一方、社会福祉事業にも積極的に参画し、毎年4月に大阪府下養護施設(老人ホーム)で生活するお年寄り1,000名を招き、一日寄席芸能により慰安する「鶴亀の集い」を開催し、平成元年には30回目を迎えた。また、笹川会長は毎年夏、冬2回、大阪府能勢町にある女子精神薄弱施設「三恵園」を慰問し、お菓子のプレゼントと激励をつづけている。

さらに、大阪府下衛星都市では急激な宅地造成による人口増加に伴い救急需要が増大したため、本会は昭和55年以降毎年大阪府下市町村に救急自動車を寄贈し、その寄贈台数は10年間で130台に達した。また、増加の一途をたどる成人病の予防治療のため、大阪成人病予防協会に研究費として、この10年間で5,500万円の寄附を行った。

▼ 確定表示板及び大型映像装置



●競走会構成員の年度別推移

項目	年度									
	昭和									平成
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員	51	47	45	43	43	42	41	37	37	36
役 員(常勤・非常勤)	10	9	11	11	11	10	10	11	11	11
職 員(含 嘱 託)	40	42	41	38	38	35	38	36	34	36
臨時従業員(アルバイト)	50	47	46	44	37	33	34	33	30	30
登 録 審 判 員	15	17	18	16	14	14	13	14	13	12
登 録 検 査 員	13	15	17	16	14	14	13	14	13	12

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
4	笹 川 良 一	S48年8月～現 在



※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
6	松 岡 賛 城	S42年9月～現 在

代	専務理事名	任 期
初	薩 山 幸 夫	S50年5月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



▲メンバーズルーム

▲正門

年 表

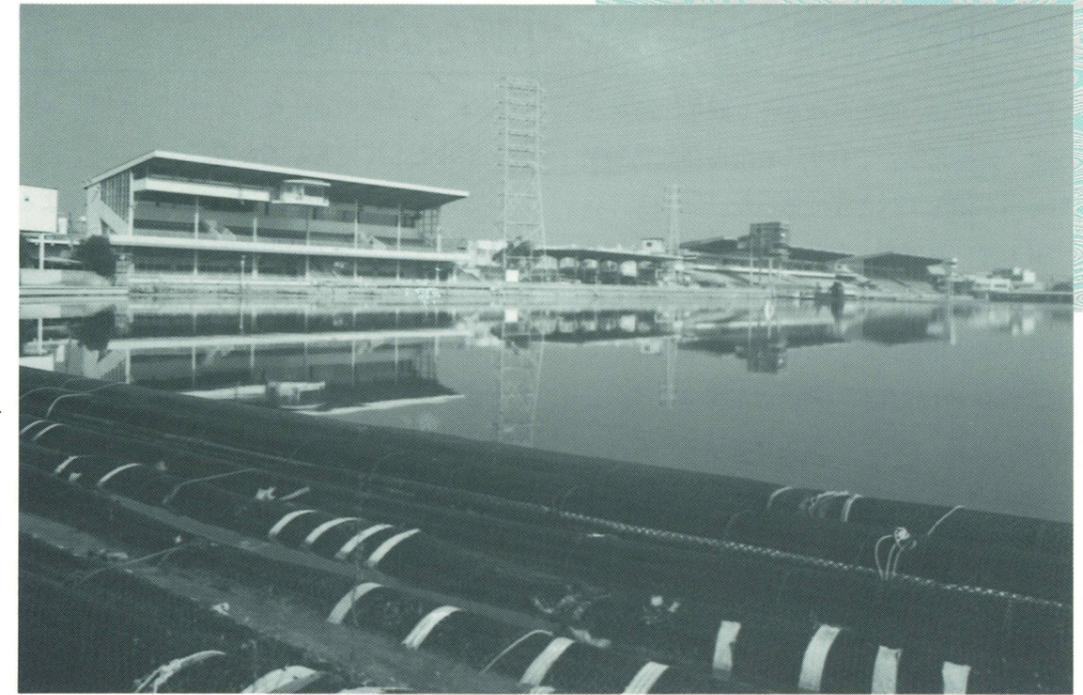
年 月 日	事 柄
S 56. 4 .	第22回「鶴亀の集い」(府下養護施設老人招待)
6 .	オール女子レース、21年ぶりの復活「ささゆり賞」
7 .	第23回「海の子の集い」(府下養護施設中学生招待)
9 .	創立30周年記念式典
9 .	新会館(選手宿舍、事務所、体育館)着工
S 57. 4 .	第23回「鶴亀の集い」
6 .	府下12市町村に救急自動車寄贈
7 .	第24回「海の子の集い」
S 58. 4 .	新会館(選手宿舍、事務所、体育館)完成
4 .	第24回「鶴亀の集い」
7 .	第25回「海の子の集い」
8 .	府下10市町村に救急自動車寄贈
S 59. 4 .	第25回「鶴亀の集い」
6 .	第26回「海の子の集い」
8 .	府下10市町村に救急自動車寄贈
S 60. 4 .	第26回「鶴亀の集い」
7 .	第27回「海の子の集い」
11 .	電話投票開設に伴う競技情報の入力開始
12 .	府下12市町村に救急自動車寄贈
S 61. 4 .	第27回「鶴亀の集い」
7 .	第28回「海の子の集い」
10 .	府下7市町村に救急自動車寄贈
12 .	「第1回賞金王決定戦競走」
S 62. 1 .	微電界無線装置(大時計連動秒時音・危険信号音・ゴール通告信号音)を本番レースに採用
3 .	事故防止全国第1位達成
4 .	第28回「鶴亀の集い」
7 .	第29回「海の子の集い」
12 .	府下11市町村に救急自動車寄贈
S 63. 4 .	第29回「鶴亀の集い」
6 .	審判用VTR自動追跡システム導入
7 .	第30回「海の子の集い」
7 .	「海の子の集い」30周年記念式典

(社)兵庫県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
S 63. 12.	府下13市町村に救急自動車寄贈
H 元. 4.	第30回「鶴亀の集い」
7.	第31回「海の子の集い」
12.	府下12市町村に救急自動車寄贈
H 2. 4.	第31回「鶴亀の集い」
7.	第32回「海の子の集い」
10.	府下13市町村に救急自動車寄贈

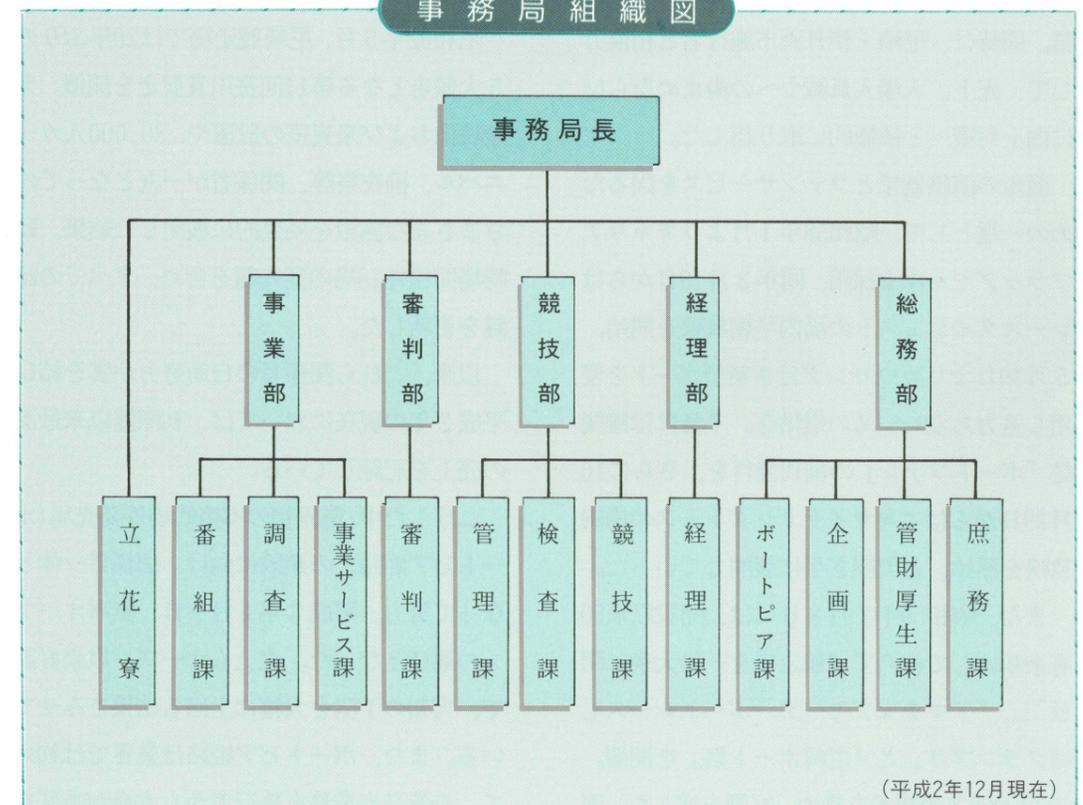


▲競技棟全景



▲尼崎競走場全景

事務局組織図



(平成2年12月現在)

ボートピア姫路のオープンで新たな躍進へ

昭和56年は、モーターボート競走法制定30周年「競艇元年」であり、また当会創立30周年という記念すべき年であった。

翌57年3月20日、向井繁人会長が病のため死去。同年6月9日に本岡芳一副会長が4代会長、青池和男氏が専務理事、新役員として末松五郎、下村有二の両氏が常務理事に、それぞれ就任。また、事務局組織においては、主要部門に若手職員を登用して、新体制がスタートした。

しかしながら売上面では、昭和55年度の1日平均約7億円台をピークに、入場人員ともども減少傾向にあり、一段と厳しい情勢下にあった。

この難局を打開するため、役職員は一致団結。同時に、尼崎・伊丹両市施行者と相協力して、売上、入場人員減少への歯止めならびに向上対策へと積極的に取り組んだ。

競走の演出効果とファンサービスを図るための一端として、昭和58年1月よりキャリアフラッグギャルを採用、同年3月18日からはレースダイジェストの場内早朝放映を開始、5月30日よりカウリング付き新型ボートを使用し迫力あるレースの提供を、7月には機関誌「ボートファン」の創刊発行を、さらに10月29日からはエキサイティングレースの場内放映を開始、と矢継ぎ早に展開していった。

また、昭和59年7月8日には、開設以来30有余年にして初めて“競走場を一般大衆に開放”し、「アマチュアモーターボートレース尼崎グランプリ」と「尼崎ボート祭」を開催。約23,000名の観衆を集め、好評を博した。現

在は、選手権競走、センタープールフェスティバルとして定着している。

この他、PR活動として、競走会職員による主要駅ターミナルでの街頭キャンペーンも実施、現在に至っている。

環境整備では、昭和59年5月14日、長年の念願であった選手専用宿舎「立花寮」が、尼崎市水堂町1丁目にて竣工した。

こうして尼崎、伊丹両市とも協力して、売上向上への効率的な諸施策を実施してきたその努力により、昭和60年度に至ってようやく売上は前年度をやや上回る伸び率を示してきた。なお同年4月8日からは、かねてより養成してきた男性放送員によるプロとしての実況放送を開始している。

昭和62年5月、尼崎競走場では20年ぶりの5大競走となる第14回笹川賞競走を開催。大型映像および来賓室の設置や、30,000人カーニバル、前夜祭等、関係者が一丸となつてのさまざまな施策を効果的に展開した結果、臨時場間場外10場の発売額を含め、すべての記録を更新した。

以来、これら関係者の自助努力が実を結び平成2年の現在においては、初開催以来最高の売上を記録している。

こうした中、業界初の本格的場外発売場(ボートピア姫路)の建設に向け、関係者一体となって努力。平成3年1月9日、無事オープンの運びとなった。売上もオープン以来好調で、当初の予測を大幅に上回る結果をみせている。また、ボートピア姫路は業界では初めて、舟券発売業務を施行者から本会が委託を

受け実施し、従来の競走会業務をさらに拡大、新たな躍進へ向けて努力を続けている。

●競走会構成員の年度別推移

項目	昭和									平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	
会 員	32	36	34	35	34	37	35	35	35	35	
役 員(常勤・非常勤)	10	13	13	13	13	14	13	14	14	14	
職 員(含 嘱 託)	44	43	45	44	44	43	42	42	43	42	
臨時従業員(アルバイト)	32	35	35	31	31	31	33	35	36	41	
登 録 審 判 員	14	14	14	17	17	18	18	18	19	21	
登 録 検 査 員	15	16	17	20	20	21	21	21	22	24	

●歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
3	向 井 繁 人	S34年1月～57年3月	4	本 岡 芳 一	S57年6月～現 在
 <p>〔略 歴〕 神戸水上消防団団長、株式会社永宝商会取締役会長、兵庫県競走会理事長及び副会長を歴任</p>			 <p>〔略 歴〕 神戸市消防局消防吏員、兵庫県競走会常務理事、専務理事及び副会長を歴任</p>		

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
5	本 岡 芳 一	S49年6月～57年6月

代	専 務 理 事 名	任 期
5	青 池 和 男	S57年6月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在



▲ 装着場

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 10. 1	競走会創立30周年記念式典を挙
12. 20	社団法人兵庫県モーターボート競走会“30年の歩み”発刊
12. 26	子供広場整備
S 57. 1. 28	警備センター整備
3. 20	向井繁人会長病のため逝去
6. 9	本岡芳一氏が会長に就任(神船監235号認可)
7. 1～6	開設30周年記念特別競走を開催
8. 9～10	第28回モーターボート記念競走(蒲郡競艇場)特別発売を実施
10. 11～12	第29回全日本モーターボート選手権競走(桐生競走場)特別発売を実施
11. 16	臨時総会を開催(選手宿舎土地購入について)
S 58. 1. 10	「尼崎ボートファンクラブ」の設立(会員数2,039名)
1. 10	キャリアフラッグギャルを採用
1. 22	ランナー戦を6Rから5Rに変更
3. 18	選手宿舎建設地元説明会を立花福祉会館において開く
3. 27	レースダイジェストの場内放送開始
5. 30	カウリング付き新型ボートを使用
7. 1	機関紙「ボートファン」創刊号を発刊
7. 14	選手宿舎立花寮の地鎮祭を挙
7. 19	9号館改築
10. 4	臨時総会を開催(選手宿舎建設について)
10. 29	エキサイティングレースの場内放映開始
S 59. 1. 28	第27回近畿地区選手権競走アマガサキ・ボート祭りを開催
2. 12	カウリング付き新型ランナバウト使用
3. 25	ファン懇談会を開催
5. 13	京阪神懇談会<尼崎・住之江・びわこ>によるイベント“サンデーなんでもバラエティー”をアクティ大阪朝日放送エキスタにおいて開始
5. 14	選手宿舎立花寮の竣工式を挙
7. 8	アマチュアモーターボートレース尼崎グランプリ&アマガサキサマーカーニバルを開催
7. 12	ファンのペアボート試乗会を実施
11. 24～25	ファンモニター20名三国競走場の見学会を実施
12. 10	スタートタイミング練習場内テレビで公表
12. 15	競走会職員による街頭キャンペーンを開始

年 表	
年 月 日	事 柄
S 60. 3. 9	第4回神戸国際ボートショーにボート・モーターを出展PR
3. 26	ファン休憩所(大屋根テント)設置、噴水、便所改築
4. 8	尼崎市営第1回第1節から1日のレース数10レースを12レースに戻した
4. 8	男性放送員による実況放送を開始
6. 1	エンスト回り直しルールを改正、チルドアジャスターオープン
10. 27	全日本アマチュアモーターボート選手権大会&尼崎センタープールまつりを開催
S 61. 1. 30	新整備方式を導入
3. 26	正門及び入場券発売場改築
3. 26	電話投票開始(会員数1,320名)
4. 25	展示タイムの公表
7. 13	尼崎市制70周年記念行事「海っ子、尼っ子夏まつり」に協賛
9. 8	尼崎競走場総合警備訓練を実施
9. 29	競走会創立35周年記念祝賀会を開催
10. 16	2周レースを実施
10. 16	尼崎市制70周年記念競走を開催
12. 2	施設改善記念特別競走を開催
12. 2	チルト角度公表
S 62. 3. 10	11号館内部修正(来賓室設備)
4. 1	審判部コンピュータシステム導入
4. 16	大型映像装置設置(三菱オーロラビジョンマークII)使用開始
4. 29	イベント笹川賞30,000人カーニバルを阪神パークで開催
4. 30	笹川賞前夜祭「山本譲二歌謡ショー」をアルカイクホールで開催
5. 2～7	第14回笹川賞競走開催(場間場外発売、桐生、戸田、江戸川、多摩川、浜名湖、常滑、三国、児島、徳山、芦屋計10場)
5. 25	場内正面ファン通路改築
7. 30～8. 2	第21回尼崎子供ゴムボート大会を開催
8. 27	第2回海の祭典行事協賛(クイーンふらわあ2による青少年海洋教室を実施)
9. 23	第1回伊丹市子供ゴムボート大会(やまびこちびっ子フェスティバル)を開催

(社)徳島県モーターボート競走会

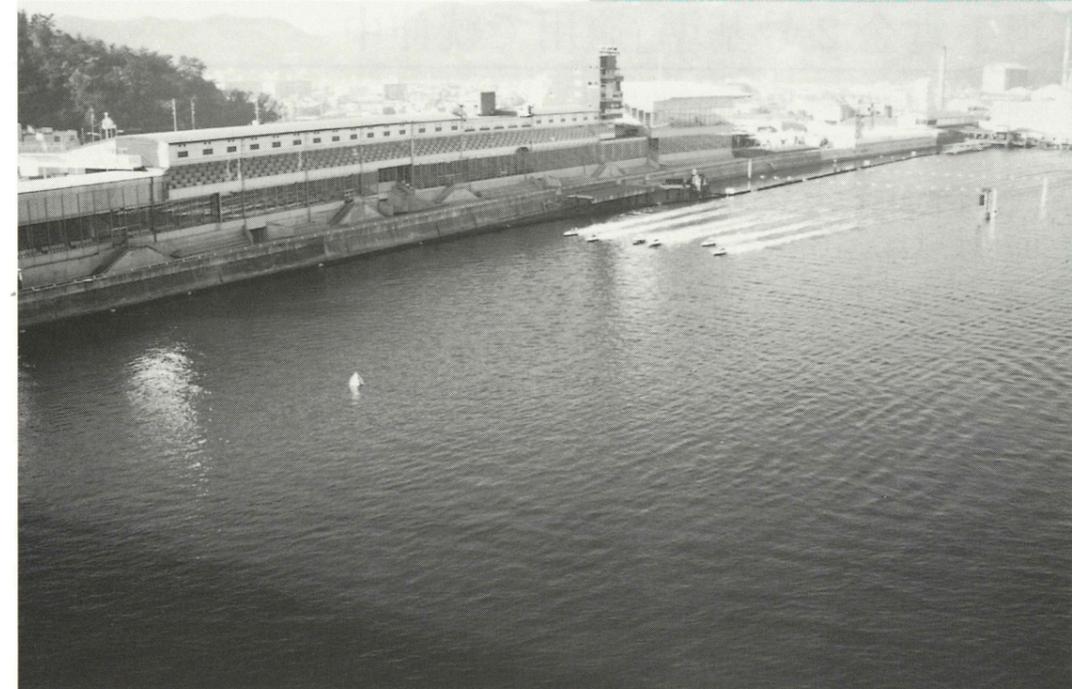
年 表	
年 月 日	事 柄
S 63. 3. 19	2・3号館前カラー舗装
4. 16~19	女子選手定期訓練及び新人選手臨時訓練を実施
7. 23	青少年カッター教室を開催
9. 8	場内テレビ2元化
9. 16	近畿中四国競走会会長会議を開催
H 元. 1. 25	新鋭王座決定戦競走を開催
2. 16	末松五郎常務理事病のため逝去
6. 15	NEW1Pパワーボートを採用
H 2. 1. 25	ファンモニター一日競技委員長を委嘱
3. 8	ピット揚降装置使用開始
10. 10	本番ピット枠順変更
11. 1	対岸スタートOK表示使用

▼正門



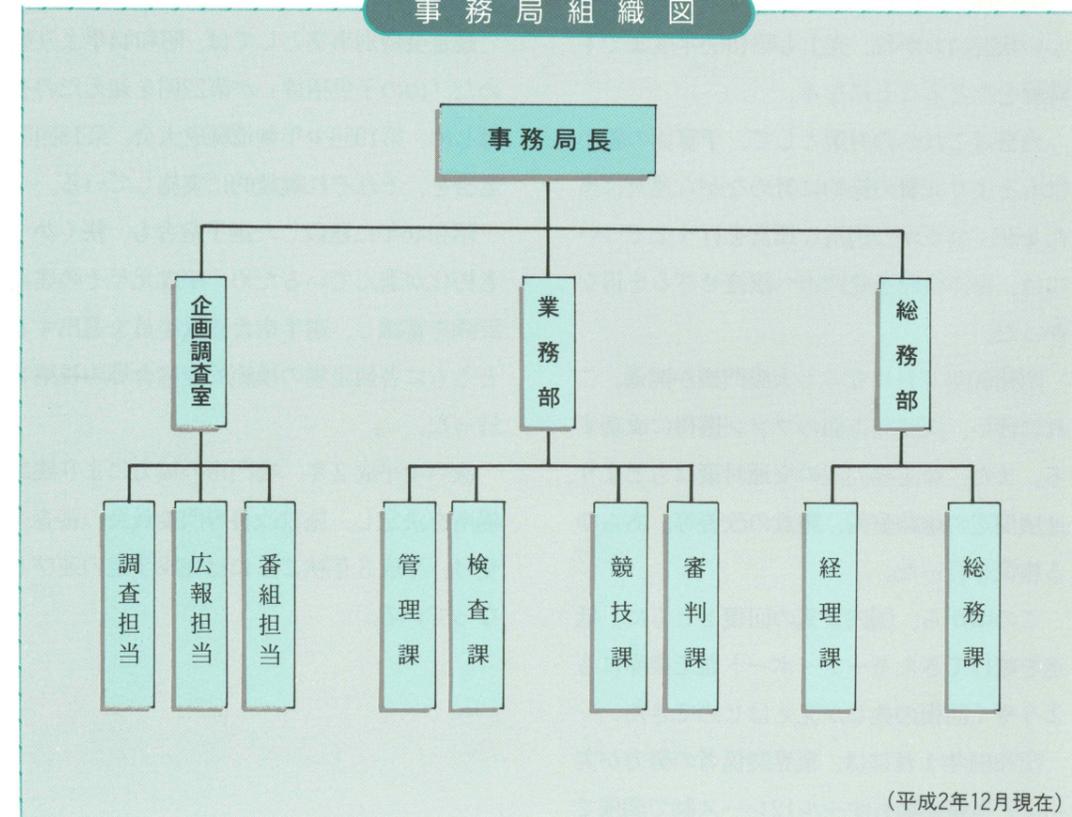
▲選手宿舎 立花寮

▲兵庫県競走会事務所



▲鳴門競走場全景

事務局組織図



(平成2年12月現在)

「選手賞金2号基準」適用で続伸中

昭和28年度初開催の売上は、1日平均457万円、入場人員1日平均2,791人であった。それが、平成2年11月末では、売上1日平均2億7,016万円、入場人員1日平均5,825人と伸びている。

だが、ここまできるとは全関係者の並々ならぬ努力があったことも確かである。

鳴門競走場は、昭和55年1月6日の正月レースで1日最高売上(668,441,700円)を達成。昭和55年度は年間を通し、選手賞金2号基準で競走を開催した。

この年(田中要第10代会長の時期)建設を開始した「海洋会館」は、翌昭和56年3月に竣工を迎え、当会事務所はここへ移転する。

その後、国内経済の不況とともに業界は厳しい状況におかれ、売上も昭和60年度まで下降線をたどることになる。

当会はこれへの対策として、予算面の縮小はもとより冗費の節約に努めながら運営に当たったが、公正かつ円滑な運営を行う上では、海洋会館を鳴門市へ譲渡せざるを得なかった。

昭和60年6月になると大鳴門橋が開通。これに伴い、淡路島方面のファン獲得に成功する。また、競走場周辺の交通対策はもとより、地域周辺の道路整備、施設の改善等、あらゆる施策を行った。

この頃から、国内景気の回復とともに、低迷を続けてきたモーターボート競走業界にもようやく回復の兆しが見えはじめてきた。

昭和61年1月には、業界関係者の努力が実って、当競走場もオール12レース制で開催で

きるようになった。

この間、当競走会会長は、昭和57年6月より岸清光第11代会長、平成元年8月より勘川哲明第12代会長へと改選されている。また、同じ時期、当初より苦勞を共にしてきた職員数名が定年退職を迎えることになり、当会は競走会の事業計画に基づき、毎年実務者の養成を行ってきた。平成2年11月末においてはその数17名となっている。

平成元年度における売上は、関係者の努力とここ数年の景気拡大にも支えられて、鳴門競艇開設以来、史上最高の売上を記録(1日平均2億5,930万円)し、平成2年度からは昭和55年度に次ぐ「選手賞金2号基準」にて開催された。

競走会特別事業としては、昭和44年より始めた「山の子供招待」が第22回を迎えたのをはじめ、第19回少年剣道練成大会、第18回敬老会を、それぞれ継続的に実施している。

昭和46年に建設した選手宿舍も、狭くかつ老朽化が進んでいるため、平成元年その建設計画を審議し、選手宿舍建設委員を選出するとともに各競走場の模範的な宿舍等の視察を行った。

次いで平成2年、鳴門市の協力により建設場所を決定し、施設改善専門委員会の審査を受け、平成3年秋ごろには完成予定の運びとなっている。

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		69	69	69	69	69	76	76	76	76	73
役 員(常勤・非常勤)		15	14	14	14	14	14	14	12	12	13
職 員(含 嘱 託)		27	25	24	23	20	23	24	26	25	24
臨時従業員(アルバイト)		29	26	26	23	21	20	19	19	20	20
登 録 審 判 員		11	11	11	11	11	12	12	13	14	14
登 録 検 査 員		12	12	12	12	12	13	13	14	15	15

●歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
9・11	岸 清 光	S57年4月～H元年7月	10	田 中 要	S47年7月～57年3月
 <p>〔略 歴〕 鳴門市議会議員</p>			 <p>〔略 歴〕 鳴門市議会議員</p>		

12 勘 川 哲 明 H元年8月～現 在

 <p>〔略 歴〕 鳴門市議会議員</p>		
--	--	--

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
15～23	勘 川 哲 明	S53年7月～H元年7月

代	専 務 理 事 名	任 期
3 5	斎 田 重 雄	S39年5月～43年5月 S47年6月～63年10月
6	小 山 正 俊	H元年8月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 7. 29	第13回山の子供招待 勝浦郡上勝町 旭小学校
8. 6	ヨット教室開講
8. 23	第10回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第9回記念品贈呈
9. 27	OSP四国大会鳴門グランプリ競走開催
10. 17	第1回桐生、鳴門親善都市記念競走を開催
S 57. 4. 25	田中会長療養中逝去
6. 3	『孝養の像』除幕式 (中央入場口前)
6. 19	岸清光氏会長に就任 (11代)
8. 2	第14回山の子供招待 麻植郡美郷村 種野小学校
8. 22	第11回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第10回記念品贈呈
11. 28	第1回全日本OSP選手権大会開催
S 58. 2. 3	競走会事務所を鳴門市撫養町大桑島字二岩浜7の6に移転
5. 9	第10回中四国地区競艇関係者武道大会開催
8. 5	第15回山の子供招待 三好郡山城町 政友小学校、大和小学校
8. 21	第12回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第11回記念品贈呈
9. 17	5m空中線切断、レース中止 (第1レース発走後)
S 59. 2. 5	笹川連合会々長ファンに挨拶のため来場
4. 4	海洋会館譲渡 (鳴門市)
7. 24	第16回山の子供招待 勝浦郡上勝町 上勝西小学校
8. 26	第13回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第12回記念品贈呈
12. 31	条件つき12レース制で開催
S 60. 5. 12	第3回全日本OSP選手権選抜シリーズ鳴門グランプリ開催
5. 26	笹川連合会々長ファンに挨拶のため来場
6. 10	大鳴門架橋開通記念日
7. 21	第1回オール女子渦の女王決定戦競走の開催にあたり、淡路島、徳島方面へキャンペーンを行う
7. 23	7/23~28大鳴門架橋開通記念競走開催 (サマータイムレース)
7. 31	第17回山の子供招待 美馬郡半田町 日浦小学校、川原柴小学校
8. 3	8/3~7第1回オール女子渦の女王決定戦競走開催 (サマータイムレース)

年 表	
年 月 日	事 柄
S 60. 8. 18	第14回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第13回記念品贈呈
12. 29	情報紙『なると』第1号創刊号発行
S 61. 7. 3	7/3~4 県警機動隊による水難救助訓練実施
7. 30	第18回山の子供招待 勝浦郡上勝町 上勝東小学校 上勝西小学校
8. 8	ゴムボート、カヌー大会開催
8. 13	8/13~14親子ペアボート試乗会
8. 24	第15回県下少年剣道錬成大会を開催
8. 30	総合警備訓練実施
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第14回記念品贈呈
S 62. 3. 13	展示タイム公表
4. 2	ランナー戦採用
8. 3	整備セミナー開講
8. 11	第19回山の子供招待 那賀郡鷲敷町、阿井小学校 平野小学校
9. 13	第16回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第15回記念品贈呈
10. 10	笹川連合会々長ファンに挨拶のため来場
12. 23	自動発艇装置 (3レース分) 導入
S 63. 1. 30	笹川陽平副会長講演のため来鳴 老人福祉センター
5. 10	第15回中四国地区競艇関係者武道大会開催
6. 9	1レース最高売上 171,778,700円 (第35周年記念優勝レース)
8. 1	総合警備訓練実施
8. 10	第20回山の子供招待 勝浦郡勝浦町、生比奈小学校
8. 13	展示タイム自動測定器導入
8. 21	第17回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第16回記念品贈呈
11. 25	西側13m防風フェンス完成
H 元. 4. 16	笹川連合会々長ファンに挨拶のため来場
5. 17	5/17~20天皇陛下植樹祭のため、県外警察官選手宿舎に宿泊
7. 27	第21回山の子供招待 美馬郡穴吹町、湊名小学校、川原小学校
8. 8	勘川哲明氏会長に就任 (12代)
8. 10	整備場監視カメラ装置設置
8. 13	第18回県下少年剣道錬成大会を開催
9. 15	敬老の日に金婚該当者に第17回記念品贈呈

(社)香川県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
H 2 . 1 . 20	電話投票発売開始
4 . 1	選手賞金 1号基準より 2号基準で適用
8 . 4	第22回山の子供招待 美馬郡木屋平村 木屋平小学校
8 . 22	スタート練習、展示航走一括方式採用
9 . 9	第19回県下少年剣道錬成大会を開催
9 . 15	敬老の日に金婚該当者に第18回記念品贈呈



◀ 正門



▲ 整備場



▲ 特別観覧席



徳島県競走会及び選手宿舎 ▶

▼ 外向前売券所

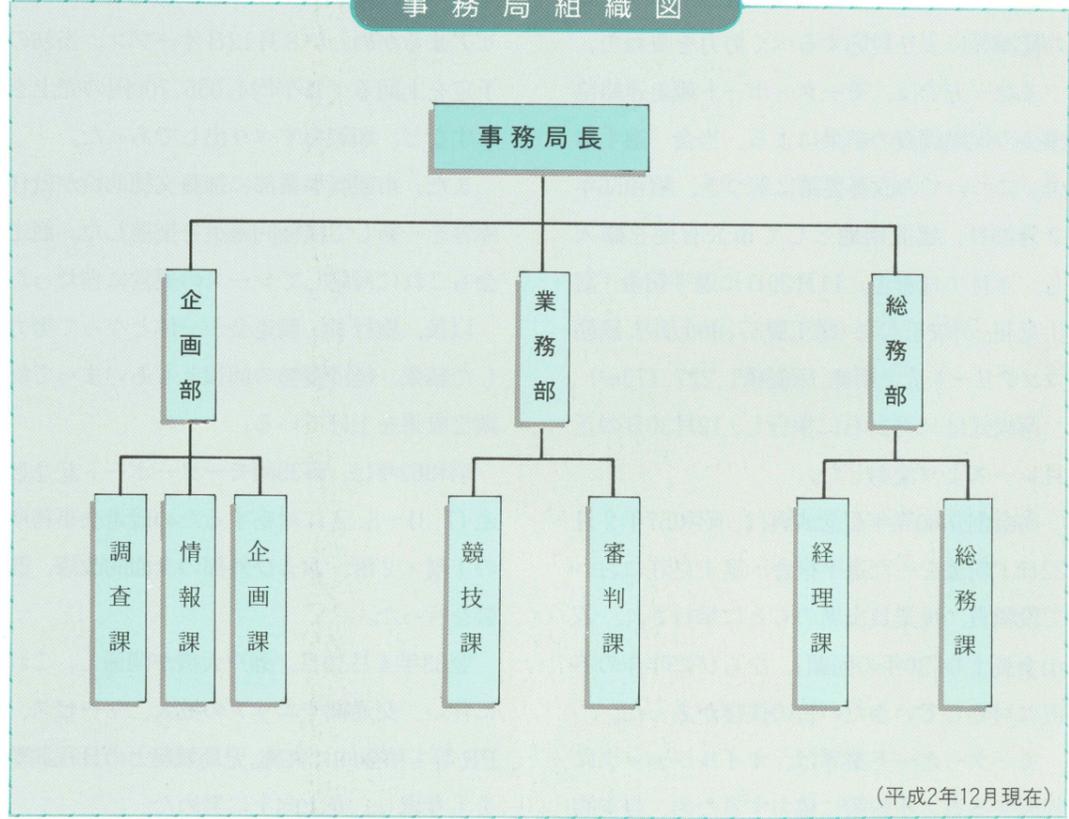


▼ ボートピア丸亀全景



▲ 丸亀競走場全景

事務局組織図



(平成2年12月現在)

瀬戸大橋開通でエリア拡大、活性化へ

昭和56年、モーターボート競走法制定30周年を機に、笹川連合会会長はこの年を競艇元年と名付け、業界関係者は初心にかえり一致協力してモーターボート競走の新しい門出にしようと提案された。

第1次、第2次の石油ショックに起因する景気の低調に伴い、当競走場では、昭和54年度の1日平均売上25,600万円の最高売上も翌55年を境に5年連続低下。昭和59年度には1日平均売上18,400万円と最悪の状態にまで下がり、競走会自体の運営にも大きな影響を及ぼした。

関係者は、苦しい運営に対処するため経費の節減と合理化を図り、連合会の賦課金規定の改正による賦課金の低減、負担金についての軽減等により対応するべく努力を重ねた。

また一方では、モーターボート競走連絡協議会の現地調査の結果による、当会「選手宿舍」についての改善要請に基づき、昭和56年2月28日、建設用地として市公有地を購入し、4月7日着工。11月20日に選手宿舍「富士見荘」が竣工した(総工費37,000万円、鉄筋コンクリート造2階建、床面積1,227,173㎡)。

落成式は12月23日に挙行し、12月30日の正月レースより使用した。

当会創立30周年記念式典は、昭和57年2月22日、新装なった選手宿舍・富士見荘において役員、従業員出席のもとに挙行され、若山会長より「30年の回顧」、ならびに昨今の不況に対処していきたい旨の挨拶があった。

モーターボート業界は、オイルショックに起因する省エネ政策に協力するため、自主的

暫定措置として、昭和49年1月より10レース制を実施してきた。しかし社会情勢の変化もあり、売上向上を図るために昭和60年4月1日、条件つきながら「12レース制」を復活させた。

同時に、3Pボートの採用やモーター取付オープン化、番組編成業務の競走会への移行、多彩なイベントの実施等の施策も次々と打ち出され、景気の回復も手伝って、昭和60年度は前年度に比し、売上4.8%、入場人員1.7%と、5年ぶりに僅かながら上昇をみることができたのであった。

さらに昭和61年には、モーターボート施行規則の改正(S. 60.9.14)により、業界第1号として丸亀競走場専用場外発売場「ボートピアまるがめ」が8月12日オープン。当初の予定を上回る1日平均4,035,700円の売上を示すなど、順調なスタートであった。

また、市競艇事業部に加藤文穂助役が就任、陣容を一新して積極的施策を推進した。競走会もこれに対応してレースの運営に当たった。

以後、施行者、競走会が一体となって努力した結果、経済情勢の回復ともあいまって好調な成果を上げている。

昭和62年は、第33回モーターボート記念競走(7.31~8.5)に対応するため競走会事務所の1階・2階、および外部の全面的改修、改装を行った。

翌63年4月10日、瀬戸大橋が開通し、これに伴い、交通網やエリアの拡大、サービス、PR等も積極的に実施。児島競艇との日程調整をも考慮し、売上向上に努めた。

平成2年の第36回モーターボート記念競走(8.2~8.7)は、関係者の全面的な協力により、過去最高の売上となった。1レース293,645,400円(優勝戦)、1日平均708,143,367円、節間4,248,860,200円などの売上記録と、さらには6日間無事故という快挙をも達成したのであった。

現在、当会では女子選手宿泊室および倉庫、車庫等の増築のため、宿舍敷地北側の市所有地401.04㎡を購入し、平成3年3月完成の予



▲ 場内子供遊園地

定で工事進行中である。

また施行者においては、ボートピア第2、第3号店開設に向けて、鋭意努力している。

● 競走会構成員の年度別推移

項目	年度		昭和							平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	
会 員	88	86	86	87	86	85	83	82	80	76	
役 員(常勤・非常勤)	10	9	11	10	10	9	9	10	10	10	
職 員(含 嘱 託)	22	24	23	23	22	22	23	24	26	26	
臨時従業員(アルバイト)	30	26	23	23	22	20	20	17	20	20	
登 録 審 判 員	9	9	11	12	12	13	13	15	15	15	
登 録 検 査 員	8	8	10	11	11	12	12	14	14	14	

● 歴代会長

代	会 長 名	任 期
3	若 山 好 雄	S53年7月~現 在



〔略 歴〕
 琴平興業取締役、琴平参宮電機取締役、丸亀商工会議所理事、四国海事広報協会、副会長、琴平海洋会館館長、全国モーターボート競走会連合会副会長、競艇家協会理事、B&C社理事、全国モーターボート競走会懇談会代表世話人、徳川記念館管理組合常任理事、モーターボート整備士制度委員会委員長、全戦争受難者慰霊協会理事、香川県信用組合相談役丸亀法人顧問、万葉園理事、瀬戸少年会館理事、香川県交通安全協会名誉会長

※昭和56年1月~平成2年12月1日現在

● 歴代役員

代	専務理事名	任 期
3	大 西 光 雄	S53年5月~59年5月
4	天 辺 幸 義	S63年5月~現 在

※昭和56年1月~平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 11. 20	選手宿舎「富士見荘」竣工
S 57. 2. 22	競走会創立30周年記念式典挙行
3. 19	第1回丸亀競走場最高責任者会議開催
8. 13	第1回丸亀競艇場企画実行委員会開催
11.	若山会長勲四等瑞宝章授与
S 58. 7. 17	第1回丸亀競艇運営合理化推進研究会開催
10. 13	丸亀競走場運営協議会開催
11. 16	若山会長日本顕彰会運輸交通関係功労者表彰される
S 59. 4. 11	ライナー取付けオープン実施
5. 17	お城まつり女王決定戦開催
5. 31	大西光雄専務理事退職
6. 1	氏家 優、天辺幸義2氏常勤理事に就任
7. 25	第1回少年少女体験航海、高松海上保安部と共催で開催
12. 31	西山弥太郎常務理事退職
S 60. 1. 1	番組編成業務の移行
4. 1	12レース制復活、3Pボート導入
4. 6	準優制を採用
7. 29	施行者とともに暴力団、ノミヤの入場阻止
8. 26	施設改善記念特別競走開催
9. 11	場内テレビでライナー取付け情報を公表
9. 12	第1マーク消波フェンス設置
S 61. 3. 16	W準優勝戦採用
5. 17	新鋭リーグ戦第4戦開催
5. 31	合田重雄常務理事退職
6. 1	競走会内部改装工事完了、氏家 優氏、天辺幸義氏が常務理事に白峰一夫氏が常勤理事に就任
6. 15	サンデータイムでレース開催
6. 30	ゲストルーム開設
7. 13	後川選手の航走についてファン4名来会し厳重な抗議あり
8. 7	「ボートピアまらがめ」落成
10. 7	ランナーボート導入
10. 18	施設改善記念特別競走開催
S 62. 1. 15	モーターボート大賞競走開催
2. 14	進入固定レース採用及びピット枠変更

年 表	
年 月 日	事 柄
S 62. 4. 24	競走会事務局OA化完成なる(端末機、ワープロ、ファックス、コピー機)
4. 25	競艇場内「こどもの国」遊園地落成
7. 31	第33回モーターボート記念競走開催
8. 8	地元選手の整備セミナー実施
8. 28	インフォメーションセンター開設
11. 26	第1回ニューメディアコミュニティ構想推進委員会開催
S 63. 3. 29	スペシャルルーム開設
4. 16	モーターボート大賞競走開催
5. 1	若山会長四国海事広報協会副会長就任
5. 20	第1回琴平海洋会館運営専門委員会開催
6. 1	若山会長琴平海洋会館副会長に就任、天辺幸義氏専務理事に就任、白峰一夫常務理事に就任
8. 26	競走会鎮西正和理事逝去
10. 16	3Pボートを廃止
11. 15	ニュー1Pボート導入
11. 15	中四国地区競艇保安協会設立
12. 7	ライナー取付け制限にふみきる
H 元. 1. 13	施設改善記念特別競走で売上、入場者とも新記録達成
1. 21	浅羽喜二郎氏競走会理事に選任される
2. 16	若山会長丸亀商工会議所参与に就任
3. 5	競走場内イベント広場完成
4. 1	ランナー戦を廃止
7. 30	第1回国分寺B&G海洋センター研修会開催
10. 25	船舶振興会から舟券売上上昇率最高記録賞を受賞
12. 12	公営競技初の現金自動支払機導入
H 2. 6. 1	若山会長連合会副会長に就任
6. 1	若山和夫氏競走会理事に就任
7. 19	車線変動システム導入
8. 2	第36回モーターボート記念競走開催

香川県競走会事務所▶

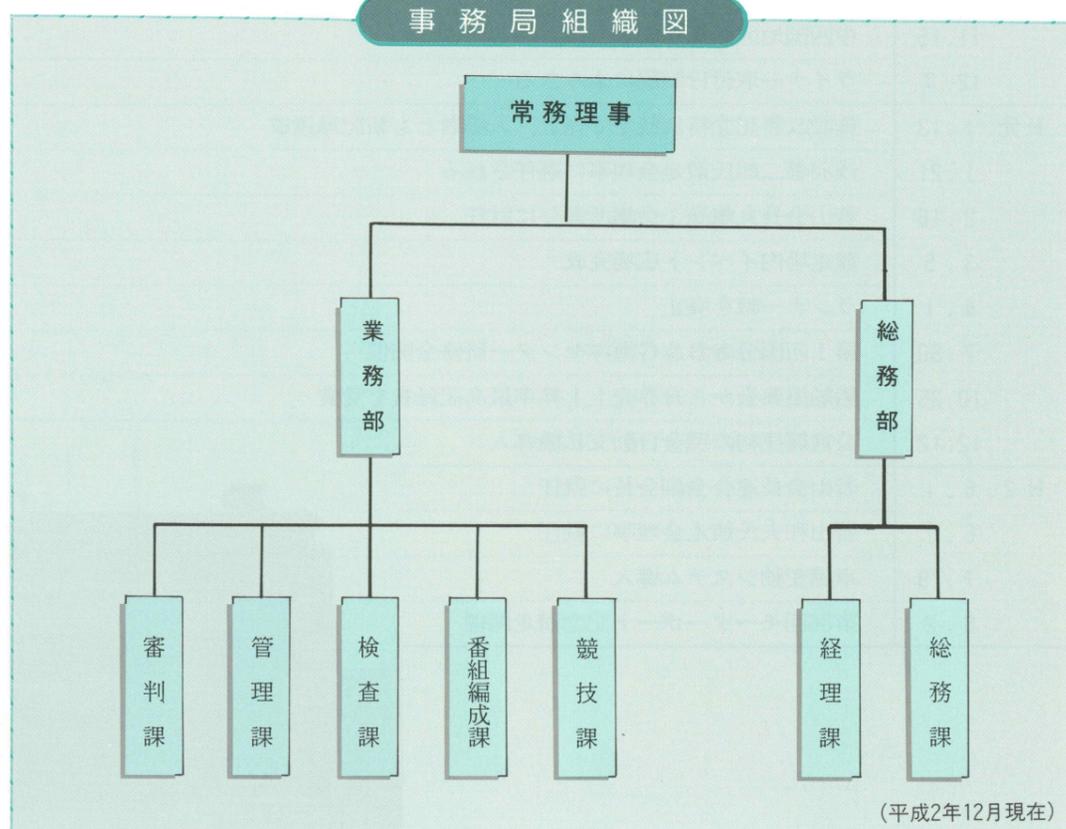


(社)岡山県モーターボート競走会



▲児島競走場全景

事務局組織図



成年期を迎え、益々充実の明日を目指す

昭和26年11月に創立された当会は、多くの試練を経て昭和56年3月、ビッグ競走「第16回鳳凰賞競走」を盛大に開催して創立30周年を記念、幼年期から青年期へと脱皮した。

しかし、この時期を境に売上は低下し、オイルショックという社会情勢も重なって、1日平均売上が68%までも落ち込む状況となる。

しかしながら、昭和58年からは倉敷市営開催日数が年間12日増加、また、昭和61年からは備南競艇事業組合営に、新たに3町加入で年間12日増加と、売上低下の時期としては有り難い“支援”があって、総売上金額低下を幾らかやわらげた。

そして、やがてくる「瀬戸大橋時代」へ向け、諸々の基礎固めに関係者一丸となって懸命に励んだのであった。

この間、昭和62年5月には第3期スタンド棟を完成させている。

昭和63年3月、待望の瀬戸大橋が完成し、

JR 児島駅がレース場の玄関口として営業を開始して、関係者の努力もようやく実を結びはじめた。

一方、当会にあっては6代洲協勝太郎会長が7期14年在職し、各関係先と太い絆を築くとともに厳しい財源から資金を蓄積、平成元年10月競走場隣地に新児島ボート会館を落成させた。

その洲協会長も平成2年、新事務所の完成移転を機に勇退し、名誉会長に就任。7代西山保新会長が誕生した。

平成3年を迎えたいま、元会長高原碧山氏も故人となり、開設当初よりかかわりのあった役員もそれぞれ退任と、当会も、名実共に創設時代に幕を降ろし、いまや青年期をも脱皮しようとしている。

法制定40周年という「成年期」の入り口に立つことができた感慨を、胸に熱く刻んで、21世紀へとさらなる躍進を目指したい。



▲外向前売発売所

▲正門

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		40	44	43	43	42	41	41	43	43	42
役 員(常勤・非常勤)		15	15	15	15	15	15	15	15	15	16
職 員(含 嘱 託)		18	18	17	20	20	21	18	19	21	21
臨時従業員(アルバイト)		27	28	28	26	23	23	21	22	23	23
登 録 審 判 員		13	12	11	13	12	11	11	11	11	11
登 録 検 査 員		9	8	7	9	9	9	9	9	9	10

●歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
6	洲 脇 勝 太 郎	S52年12月～H2年5月	7	西 山 保	H2年5月～現 在
 <p>〔略 歴〕 味野塩業組合理事長 児島商工会議所副会頭</p>		 <p>〔略 歴〕 岡山県競走会副会長</p>			

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
6	西 山 保	S45年5月～H2年5月
7	三 宅 秀 男	H2年5月～現 在

代	専 務 理 事 名	任 期
4	白 川 重 志	S49年6月～59年10月
5	大 上 勲	S60年1月～61年5月
6	木 村 槌 秋	S61年5月～現 在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

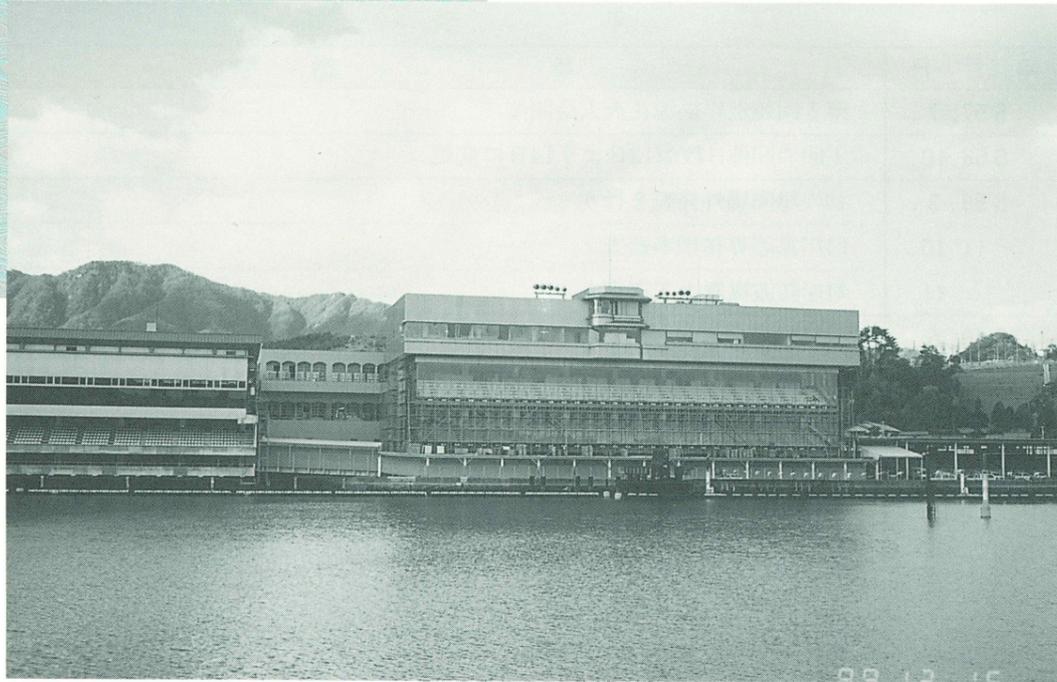
年 表	
年 月 日	事 柄
S57.7.	第1回競走場納涼花火大会開催
S58.10.	1回の開催日数が13日より14日に変更
S59.3.	初の場間場外発売を行う
10.	白川重志専務理事逝去
11.	対岸防波堤嵩上工事完成
S60.5.	1日10レースから11レースに変更
5.	第3期スタンド棟建築工事着工(主審含む)
6.	3Pボート採用(1日につき1レース)
S61.4.	1回の開催日数が14日より15日に変更
4.	1日11レースから12レースに変更
7.	第1回サマータイムレース開催
9.	電話投票システム導入
S62.5.	第3期スタンド棟建築工事完成
8.	整備セミナー実施
8.	第1回オール女子レース開催
S63.3.	JR児島駅開業
3.	3Pボート廃止
3.	第1回新鋭戦開催
4.	瀬戸大橋開通
6.	整備セミナー(プロペラ)実施
12.	第1回企業杯開催
H元.3.	児島ボート会館児島元浜建築工事着手
10.	児島ボート会館完成
11.	児島ボート会館落成披露式典開催
11.	高原碧山元会長逝去
H2.5.	対岸オッズ確定盤完成
5.	西山 保氏会長に就任
8.	第14回ゴムボート大会開催
9.	第9回岡山県OSP選手権競走開催



▲イベントホール

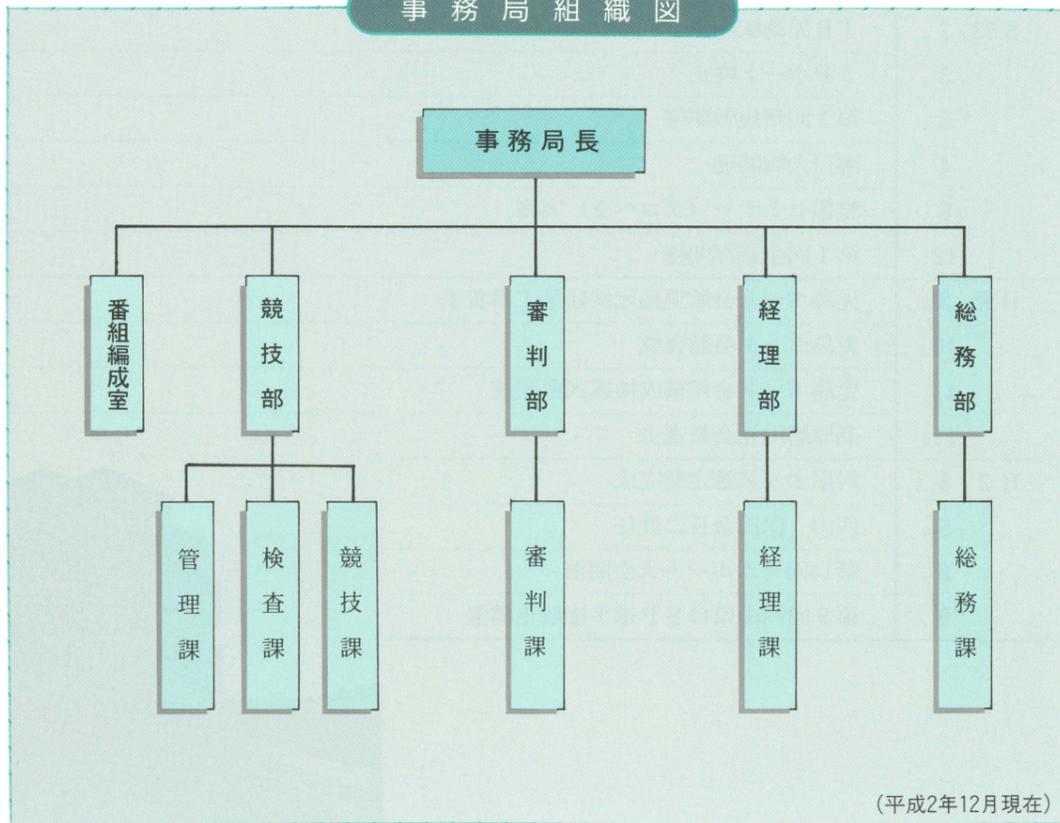


▲児島ボート会館(岡山県競走会事務所及び選手宿舎)



▲宮島競走場全景

事務局組織図



若いパワーで“新生競走会”スタート

当会では、昭和54年度の1日平均売上370,646,900円をピークに、その後は下降を続け、3.5億円以上を売上げたのは昭和55年と57年度のみ、昭和59年からは1日平均が3億円を割ってしまう。

また、入場人員も昭和52年の1日平均9,478人から減少し続けていた。

しかしその間、タイトル競走以上のレースでは各種イベントを企画実施し、昭和58年からは、ボートレースを紹介するテレビ番組も制作するなど、広報・宣伝面の充実を図り、ファン招致に努力。平成元年には、第3回競艇広告大賞も受賞した。

また、昭和59年からは夏休みの時期、非開催時に、近隣の住民を対象にボートレース場への理解を深めてもらうとの目的で、「宮島サマーカーニバル」を実施、毎年多数の来場者を得ている。

平成2年3月、2年3ヶ月の工期を経て、入場門および中央スタンド棟が完成。日本経済の好況情勢とも合わせ、ようやく売上の減少傾向に歯止めがかかる。平成2年度は、1日平均売上3.5億円になる見通しとなっている。

平成元年5月に岩田富士夫元会長から岩田幸雄現名誉会長へと会長職が移り、平成2年5月岩田行史現会長へと引き継がれていく中で、当会は一貫して売上向上への努力を施行組合へ働きかけた。そして昭和60年には、低迷し続ける売上に活をいれるべく、場外舟券売場設置に積極的に取り組み、専従の職員2名を配置した。

ファンサービスとしては、平成元年、プロ

のアナウンサーによる場内実況放送を実施。場内の雰囲気盛り上げ、ファンに「楽しく満足いくレース」を提供できるよう、配慮している。

しかし、競走会と施行組合との運営上の意見の食い違いから、昭和58年9月に「1ヶ月間の休催」。従業員との労使問題で昭和61年4月27日、同5月31日といずれも優勝戦を中止するなど、ファンには多大の迷惑をかけてもいる。

現在、広島県競走会は、役職員とも若い世代で占められており、研修旅行も、昭和61年香港、63年シンガポール、平成2年グアムと広く海外に目を向け、国際的な視野を養うなど、新生競走会としてのスタートを切ったところである。



▲入場門



▲外向前売発売所

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度		昭和						平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員	33	34	34	34	35	36	37	38	38	37
役 員(常勤・非常勤)	10	12	11	12	12	12	12	11	8	9
職 員(含 嘱 託)	20	20	22	23	23	23	23	24	23	26
臨時従業員(アルバイト)	17	23	22	21	21	19	14	13	17	15
登 録 審 判 員	12	12	11	14	14	14	14	14	15	16
登 録 検 査 員	11	11	11	14	14	14	14	14	15	16

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
4	岩田富士夫	S51年6月～H1年5月	5	岩田幸雄	H1年5月～2年5月
 <p>〔略歴〕 (株)ピノカ取締役社長 競走会常務理事歴任</p>		 <p>〔略歴〕 外務省嘱託 海軍省嘱託 競走会会長就任</p>			

代	会長名	任 期
6	岩田行史	H2年5年～現在
 <p>〔略歴〕 (株)永和取締役社長</p>		

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
7	前田正之	S57年5月～H1年7月

代	専務理事名	任 期
3	岩田行史	S51年6月～H1年5月

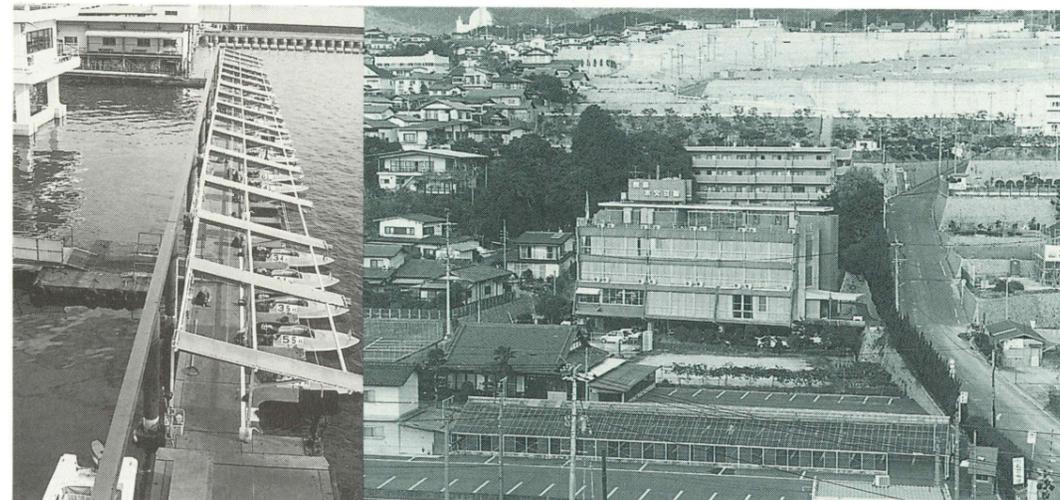
※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表

年 月 日	事 柄
S56.	3号賞金
S57.4.	創立30周年記念式典
12.	第1支払所竣工
	3号賞金
S58.8.2	家族レクリエーション実施(清魚荘)
9.	1ヶ月休催(施行組合関係で)
10.8	ボート節間持切制採用
S59.1.3	200m標識板設置
	3号賞金
2.9～14	第27回中国地区選手権競走
4.	番組編成委員を競走会より2名
8.14	宮島水中花火大会で競走場及び駐車場を開放
9.29	判定用VTR交換
10.1～2	現地合同調査
10.12	全日本選手権、地元半田選手優勝
10.30	出走表を大きくしスタートタイミング記入
11.23	全面機械化発売(オールシングルユニットシステム)
S60.5.19	ファン懇談会(ペアボート試乗会)
5.23～28	施設改善記念競走開催
6.7	待機中エンスト回り直しルール改正
7.	場外担当2名
8.4	第1回サマーカーニバル
9.21	第1回広島県ダービー開催
10.5	台風20号接近のためレース中止
S61.4.1	選手食堂業務を業者に委託
4.30	中・四国競艇関係者武道大会(大野町体育館)
5.	海外旅行(香港)
7.9	大里局長逝去
7.20	第2回サマーカーニバル
9.	電話投票開始(加入者1,410名)
9.25	モーター個室管理実施
10.3	現地合同調査
S62.1.23	新整備方式採用

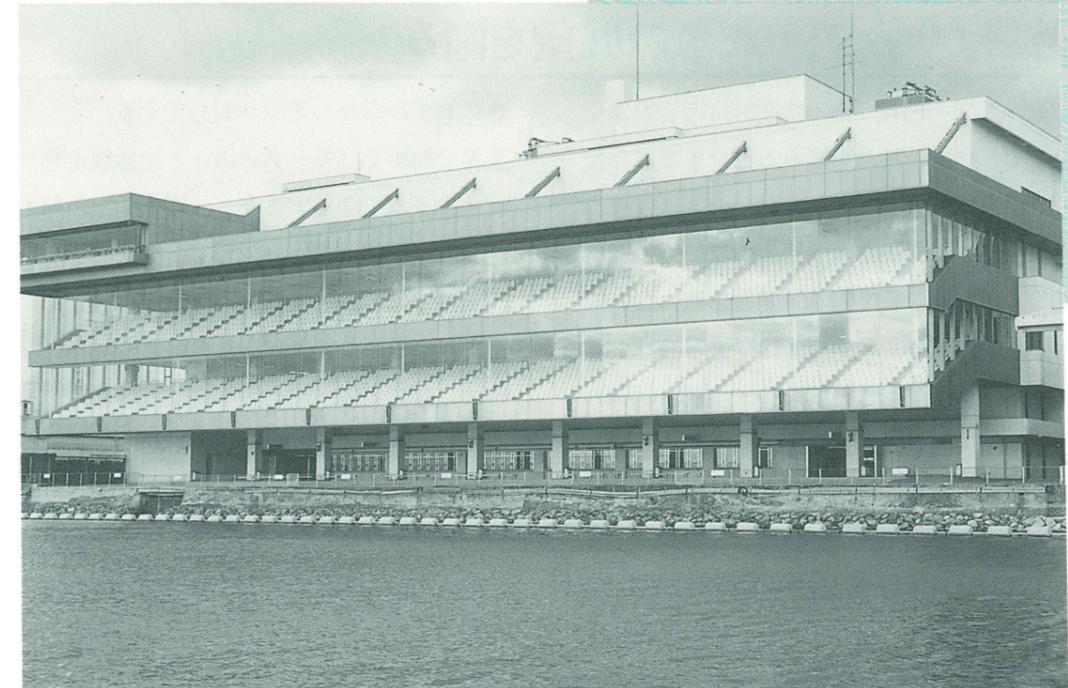
(社)山口県モーターボート競走会

年 表	
年 月 日	事 柄
S 62. 6 .	40mポール・空中線設置
8 . 9	第3回サマーカーニバル (ゴムボート試乗会)
S 63. 4 .27	年齢問題で1日休催
5 .31	
5 . 2	選手持ちプロペラ公表
6 .	海外旅行 (シンガポール)
8 .22	第4回サマーカーニバル
12 .	中央スタンド棟5階部分完成、水上施設移動
12.25	本番ピットを第1より第3に移動
S 64. 1 . 7	昭和天皇崩御、7.8日レース中止
H 元 . 5 .	岩田幸雄会長就任
6 .	プロのアナウンサーによる実況放送開始
7 .	前田副会長逝去
7.30	第5回サマーカーニバル
8 . 2	消波装置設置 (第2マーク 130mブイ間)
9 . 1	新番組編成支援システム導入
H 2 . 3 .15	中央スタンド棟完成
3 .17~28	新スタンドオープン記念レース開催
4 .19~24	施設改善記念レース開催
5 .	岩田行史氏会長就任
11 .	海外旅行 (グアム)
11 .	一括方式実施



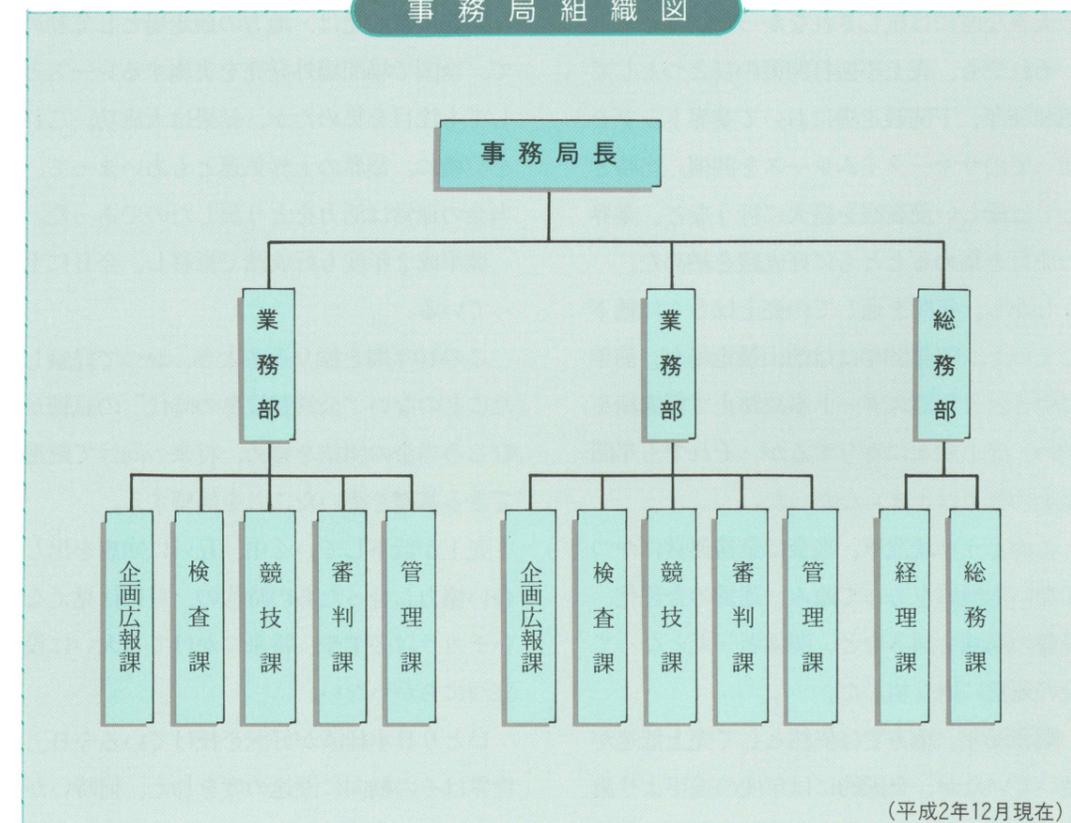
▲ピット全景

▲選手宿舎宮島水交會館



▲下関競走場スタンド

事務局組織図



(平成2年12月現在)

過去より学び、未来の展望を図る

業界30年の節目であった昭和56年。以来今日までの当会の歩みを顧みると、まさに今昔の感がある。

山口県モーターボート競走会は、昭和56年度、第17回鳳凰賞競走を下関競走場において開催した関係で、年間売上は従来どおり上昇した。しかしながら入場人員は、昭和48年のオイルショック前後から下降へと転じており、思えば“暗い影”はそのころよりすでにしのび寄っていたのであった。

翌昭和57年からは、他の公営競技同様、当会もかつて経験したことのない永い冬の時代を迎えることになる。徳山、下関両施行者と協力し、売上低下防止に努めるが、業界不況の大きな波には抗しきれなかった。

それでも、売上不振打開策のひとつとして昭和58年、下関競走場において業界トップを切ったのサマータイムレースを開催。当時としては珍しい前夜祭を盛大に行うなど、業界の注目を集めるとともに好成績を納めた。

しかし、年間を通しての売上はさらに低下していく。昭和59年には徳山競走場が、前年に引き続き年間スタート事故防止で好成績を納め、売上向上に寄与するが、それでも年間売上の低下は止まらなかった。

このような状況下、当会は業務運営にかつてない危機感をもって臨み、運営の合理化、経費の節減を図るなど、関係者一丸となつて会の運営に取り組んだ。

昭和60年、地方では依然として売上低迷が続いていたが、全国的には年度の後半より歯止めがかかり、先の見えなかった業界の先行

きにわずかながら光明が射してくる。当会も業界で初めて、モーターボート記念競走をサマータイムで開催するなど、売上向上の努力を続けた。

全国では昭和60年後半から低下に歯止めがかかりはじめた売上は、続く61年・62年でプラスに移行する。だが、下降には歯止めがかかったものの依然“横ばい”の状況であった。

昭和63年になると、長い低迷からようやくプラスへの転換を果たす。売上の低い徳山、下関の2競走場の施行者と密接な連携を保ちながら、一丸となって努力してきた貴重な結果であった。

平成元年5月、下関競走場で開催された第16回笹川賞競走は、地方の競走場として初めて、全国で場間場外発売を実施するレースとしても注目を集めたが、結果は大成功。これを契機に、業界の上昇気運ともあいまって、当会の運営は活力をとり戻したのであった。

翌平成2年度も好成績で推移し、今日に至っている。

この10年間を振り返るとき、かつて経験したことのない“公営競技冬の時代”の試練がむしろ当会の団結を強め、将来へ向けて躍進できる基礎を築いたことを痛感する。

売上が低下していく中、互いに知恵を出し合い協力し合ったあの時代の、目には見えないチカラは必ずや、将来にかけても大いに役立つにちがいない。

ひとり日本経済が好況が続いている今日、世界はその動向に混迷の度を加え、何時いかなる不測の事態が起こっても不思議はない情

勢にある。モーターボート競走業界にあってこれら世界の情勢を見つめ、時代の流れを的確に把握していくことを忘れてはならない。

現在、好成績で推移している当会も、法制

定40周年を迎えるに当たり改めて、「過去より学び、現在を見極め、しっかりとした将来展望を図る」べきである、と心を新たにしている。



▲下関競走場多目的ホール

▲下関競走場正面

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		37	37	36	35	31	33	32	34	34	34
役 員(常勤・非常勤)		14	14	14	14	14	13	13	13	13	15
職 員(含 嘱 託)		41	41	41	43	40	39	41	42	41	40
臨時従業員(アルバイト)		70	71	72	67	64	64	63	59	63	63
登 録 審 判 員		17	15	16	17	19	18	21	23	24	24
登 録 検 査 員		16	16	17	17	18	17	19	21	21	21

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
4	吉 田 進	S53年5月～現在



〔略 歴〕

(社)山口県競走会
 (社)山口県競走会常務理事
 (社)山口県競走会専務理事
 (社)山口県競走会副会長

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
3	重 村 莊	S60年1月～61年5月
4	古 富 琢 造	S61年5月～現在

代	専 務 理 事 名	任 期
4	重 村 莊	S51年5月～60年1月
5	古 富 琢 造	S60年1月～61年5月
6	亀 井 時 男	S61年5月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 5 .	下関競走場 施設改善記念競走開催
8 .	下関競走場 少年少女ゴムボート大会
S 57. 3 .	下関競走場 第17回鳳凰賞競走開催
5 .	徳山市 第9回中国四国地区競艇関係者武道大会
6 .	徳山競走場 最高責任者連絡会議
8 .	下関競走場 海洋少年団ゴムボート試乗会
8 .	下関競走場 ヨット及び大型ボート試乗会
8 .	下関競走場 訪日韓国海洋少年団下関海洋少年団ゴムボート試乗会
11 .	徳山競走場 最高責任者連絡会議
S 58. 2 .	下関競走場 最高責任者連絡会議
2 .	下関競走場 第26回中国地区選手権競走開催
3 .	徳山競走場 昭和57年度徳山競走場スタート事故防止全国一位の表彰
6 .	下関競走場 最高責任者連絡会議
7 .	下関競走場 サマータイム特選競走開催
8 .	下関競走場 ゴムボート試乗会
8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
9 .	徳山競走場 最高責任者連絡会議
11 .	下関競走場 最高責任者連絡会議
S 59. 3 .	下関競走場 施設改善記念競走開催
7 .	徳山競走場 最高責任者連絡協議会
8 .	下関競走場 ゴムボート操縦指導会
8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
8 .	下関競走場 水上スキー教室
S 60. 2 .	徳山競走場 第28回中国地区選手権競走開催
3 .	下関競走場 最高責任者連絡協議会
5 .	徳山競走場 モーターボート大賞競走開催
7 .	下関競走場 ゴムボート試乗会
7 .	徳山競走場 徳山市競走関係三者最高責任者協議会
8 .	下関競走場 第31回モーターボート記念競走開催
8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
S 61. 1 .	下関競走場 最高責任者連絡協議会
2 .	下関競走場 第29回中国地区選手権競走開催
5 .	徳山競走場 施設改善記念競走開催

年 表	
年 月 日	事 柄
S 61. 8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
8 .	下関競走場 少年少女ゴムボート試乗会
8 .	徳山競走場 徳山市競艇関係三者最高責任者協議会
12 .	下関競走場 最高責任者連絡協議会
S 62. 6 .	徳山競走場 徳山市競艇関係最高責任者連絡協議会
7 .	下関競走場 モーターボート大賞競走開催
7 .	下関競走場 下関市競艇場関係最高責任者連絡協議会
8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
10 .	下関競走場 ゴムボート試乗会
S 63. 7 .	徳山競走場 徳山市モーターボート競走連絡協議会
7 .	下関競走場 下関競艇場最高責任者連絡協議会
8 .	下関競走場 ゴムボート試乗会
8 .	徳山競走場 海洋スポーツ教室
9 .	徳山競走場 第32回中国地区選手権競走
H 元. 2 .	下関競走場 モーターボート大賞競走
5 .	下関競走場 第16回笹川賞競走
7 .	下関競走場 下関競艇場最高責任者連絡協議会
12 .	徳山競走場 徳山競艇場最高責任者連絡協議会
H 2. 2 .	下関競走場 第33回中国地区選手権競走
2 .	徳山競走場 モーターボート大賞競走

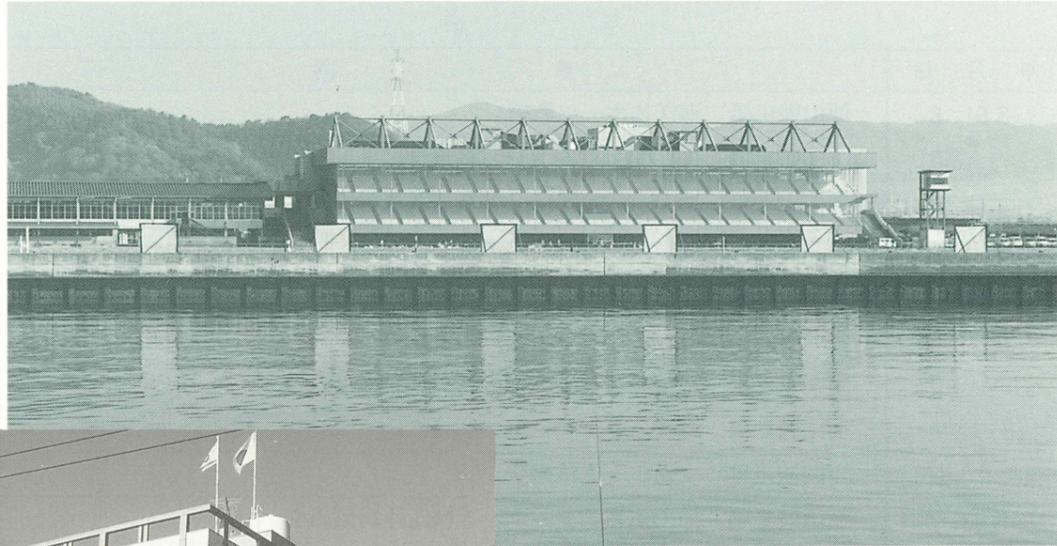


▲下関選手宿舎



▲競走会事務所

(社)福岡県モーターボート競走会



▲徳山競走場スタンド全景



▲徳山選手宿舎



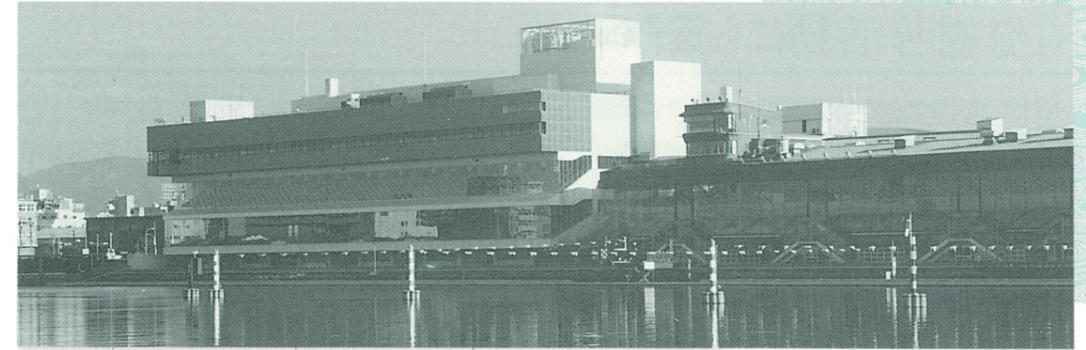
▲外向前売発売所



▲徳山競走場競技本部



▲正門



▲福岡競走場全景

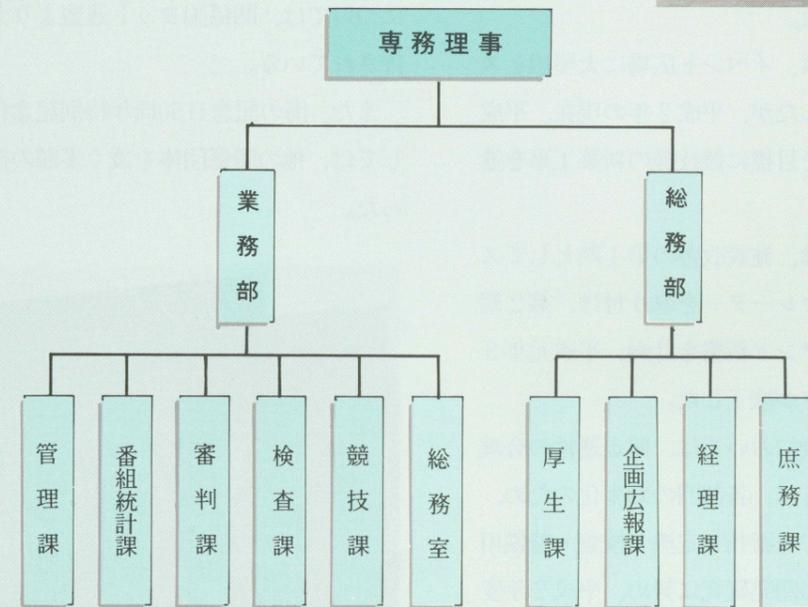


▲競技棟



▲装着場

事務局組織図



(平成2年12月現在)

国際親善活動にも貢献

昭和50年代からの経済不況は、徐々に公営競技界にも影響を及ぼしはじめ、福岡県内3競走場の売上下降は全国平均値をはかるに上回るものとなった。

施行者の焦燥は勿論のこと、業界全体にとっても非常に憂慮される状態であった。

当競走会は、この苦しい不況も、いずれは好景気へと転換することは歴史のしからしめるところであり、したがってその期に備えるには、いまこそ施設改善等設備投資を行うべきであると、各施行者に提言した。

当時、若松競走場はすでにスタンドの改築工事に入っており、昭和56年に東側スタンドが完成。58年に全国で初めての場間場外発売の他場として、併売を実施した。

また、競技棟の全面改築に続いて、食堂も新しく建築した。

芦屋競走場は、イベント広場に大屋根とステージを新設したが、平成2年の現在、平成3年3月竣工を目標に競技棟の新築工事を進めている。

福岡競走場は、施設改善の第1期としてスタンドにエスカレーターを取り付け、第2期として東側スタンド新築を計画、平成元年5月に新スタンドが竣工した。

一方、競走会においては、競走運営の合理化を図るとともに、各部門の効率化のため、デジタルビューア審判判定機と検査・整備用の艇速測定機の開発研究に努め、平成2年度より県内3場で使用を始めた。

また当会では、海事思想の普及事業としてアマチュアボートマン育成のため、芦屋競走

場で毎年3回の競技会を開催している。

青少年の育成に関しては、B&G福岡海洋クラブと協力し、昭和63年からニュージールランドにおいて、少年少女ヨット教室を共催、またこれと併行して、指導者の技術向上講習会もオー克蘭ド市で行った。

これとは別に、平成元年の天安門事件の直後であったが、広州市海交クラブにB&G財団よりOPヨットを寄贈していただき、現地でのジュニアの指導を行った。このことは、事件直後の日本からの民間団体ということで広州政府に大歓迎を受けた。

同年7月、福岡市博多湾で広州・オー克蘭ド・福岡ジュニア親善ヨット大会の開催となり、福岡市をはじめ外務省からも国際親善に努めたとして高く評価された。今後の開催については、関係国ヨット連盟より大いに期待されている。

また、海の記念日50周年特別記念行事に対しては、他の関係団体を凌ぐ多額の援助を行った。



▲福岡県競走会事務所及び選手宿舎

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		18	18	19	18	16	14	12	16	15	15
役 員(常勤・非常勤)		16	12	12	12	13	11	10	11	11	11
職 員(含 嘱 託)		75	75	72	75	73	80	80	82	86	92
臨時従業員(アルバイト)		69	69	69	64	63	62	62	60	53	61
登 録 審 判 員		22	22	23	24	27	26	26	28	33	35
登 録 検 査 員		22	22	23	20	19	18	18	24	29	29

●歴代会長

代	会 長 名	任 期	代	会 長 名	任 期
5	原口秀雄	S54年10月～61年3	6	峰 敏彦	S61年6月～H2年5
 <p>〔略歴〕 社福岡県小型自動車競走会 会長 石炭工業連合会理事</p>			 <p>〔略歴〕 社全国モーターボート競走 会連合会理事 福岡工業大学理事</p>		

代	会 長 名	任 期
7	平井義一	H2年6月～現在
 <p>〔略歴〕 衆議院議員 福岡4区より連続5期当選 平井産業株式会社代表取締役 役 財日本相撲協会横綱審議会 委員</p>		

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副 会 長 名	任 期
5	峰 敏彦	S55年6月～61年6月
6	篠崎保慶	S61年6月～現在

代	専務理事名	任 期
5	篠崎保慶	S61年6月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56.4.2~	芦屋町制定90周年記念特選レース開催
5.5	日韓親善釜山~福岡ヨットレース協賛 職員が参加
9.23	第1回笹川賞争奪スポーツ大会を二島小学校グラウンドで開催 (若松)
S 57.4.10	発売窓口全面機械化 (福岡)
7.3	新競技棟竣工 (福岡)
7.15	シングルユニット機械化 (芦屋)
8.9	第28回MB記念の特別発売が尼崎・若松競走場で発売される
8.29	第2回笹川賞争奪スポーツ大会を二島小学校グラウンドで開催 (若松)
10.31	計算センター完成 (芦屋)
S 58.1.	県内3場においてファンクラブ会員募集開始
4.17	第1回九州地区OSP選手権競走開催 (芦屋)
7.29	施設改善記念競走開催 (福岡)
10.11	初の場間場外発売実施 (芦屋)
10.31	第1回全日本アマチュアモーターボート選手権大会開催 (芦屋)
11.20	笹川賞争奪スポーツ大会を二島小学校グラウンドで開催 (若松)
S 59.1.13~	'84オールジャパンフラワーカップ開催 (芦屋)
1.21	福岡県内公営競技場暴力団追放宣言
2.20	外向け早朝発売開始 (福岡)
10.13	第1回オールランナー選手権開催 (芦屋)
10.15	ドライビングナイトシアターを駐車場で行う (芦屋)
S 60.3.14	電光総合表示板完成 (福岡)
4.7	人間ロケット発射 (福岡)
10.	競走水面拡張 (福岡)
10.15	エスカレーター設置 (福岡)
10.24	第32回全日本選手権開催 (福岡)
10.30	電光表示板改築工事完成 (芦屋)
S 61.6.	会長に峰 敏彦氏就任
7.20	実況TVのシステム化 (芦屋)
7.28	競技部内監視カメラ設置 (芦屋)
7.31	第32回モーターボート記念競走開催 (芦屋)
10.16	第2回全日本ランナー選手権競走開始 (芦屋)
S 62.9.14	電話投票システム稼働開始 (福岡)
11.20	場内テレビ多元化 (福岡)
S 63.3.15	場内広場大屋根完成 (芦屋)
4.29	前日発売開始 (福岡)

年 表													
年 月 日	事 柄												
S 63.6.7	笹川陽平副会長講演会 (若松市民会館)												
7.21	笹川陽平副会長講演会 (ガーデンパレス)												
7.	B&G財団の協力により広州市珠江航海クラブにOPヨット二隻を寄贈												
8.10	情報提供システムを二系統化 (若松)												
9.1	笹川陽平副会長講演会 (芦屋町民会館)												
10.14	新競技棟完成 (若松)												
11.24	浮きピット・自動発艇装置新設 (芦屋)												
12.	福岡市ウォーターフロント計画で競走場をレクリエーションゾーンに指定												
S 64.1.7	第20回福岡県内選手権競走中止 (昭和天皇崩御)												
H元.2.	ヨット競技員研修会に職員をニュージーランドへ派遣												
3.	駐車場拡張工事並びに植樹緑化工事完了 (芦屋)												
3.23	第1回企業杯 (西鉄カップ) 競走開催 (芦屋)												
5.18	東スタンド竣工 (福岡)												
7.	中国広州市珠江航海クラブでOPヨット教室を共催												
8.3	第35回モーターボート記念競走開催 (福岡)												
10.18	福岡都市圏競艇等事業組合初開催												
H 2.1.7	サンデーレディースサービスを開始 (開催中の日曜日) 芦屋												
1.15	第2回企業杯 (西鉄カップ) 競走開始 (芦屋)												
2.27	第2回全日本ランナー王座決定戦競走開催 (芦屋)												
5.	場内ミニ薬局オープン (福岡)												
6.	会長に平井義一氏就任												
6.29	新競技棟改築工事着工 (芦屋)												
6.	競技進行一括方式採用 (若松) (芦屋)												
9.	国民体育大会に協賛 ヨット競技役員として職員を派遣												
10.30	JTキャビン企業杯競走開催 (福岡)												
11.20	施設改善競走開催 (福岡)												
12.	競技進行一括方式採用 (福岡)												
<p>■この10年間に実施した主な啓蒙普及事業並びに競走場開放行事回数</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>博多港祭り花火大会 (福岡競走場) 毎年5月4日</td> <td>船舶模型工作コンクール</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>芦屋ビックカーニバル</td> <td>FMK会長杯争奪ヨット大会</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>少年少女ゴムボート大会</td> <td>アマチュアモーターボート大会 (OSP)</td> <td>21回</td> </tr> <tr> <td>模型動力船競技会</td> <td>親子のヨット教室オークランド共催</td> <td>3回</td> </tr> </tbody> </table>		博多港祭り花火大会 (福岡競走場) 毎年5月4日	船舶模型工作コンクール	1回	芦屋ビックカーニバル	FMK会長杯争奪ヨット大会	11回	少年少女ゴムボート大会	アマチュアモーターボート大会 (OSP)	21回	模型動力船競技会	親子のヨット教室オークランド共催	3回
博多港祭り花火大会 (福岡競走場) 毎年5月4日	船舶模型工作コンクール	1回											
芦屋ビックカーニバル	FMK会長杯争奪ヨット大会	11回											
少年少女ゴムボート大会	アマチュアモーターボート大会 (OSP)	21回											
模型動力船競技会	親子のヨット教室オークランド共催	3回											

(社)佐賀県モーターボート競走会

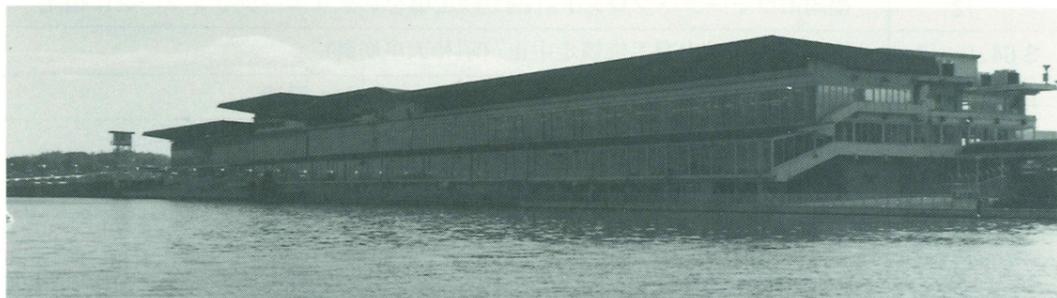
競技棟▶



▲選手宿舎 波懸(若松、芦屋)



▲イベントホール



▲芦屋競走場全景

▼整備場



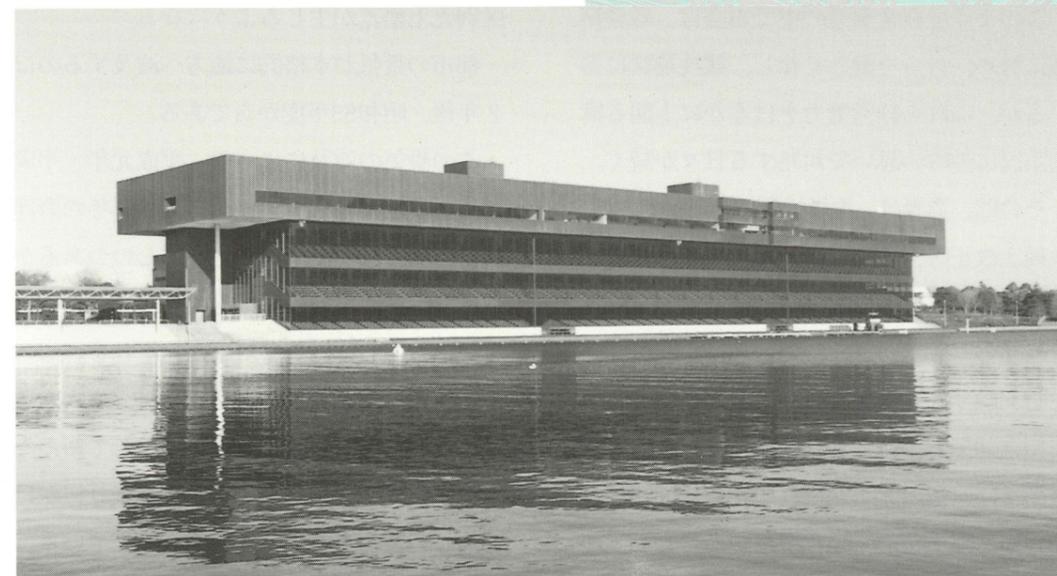
▼特別観覧席



◀競技棟全景



▲若松競走場全景



▲唐津競走場全景

組合開催による収益の均てん化を推進

昭和50年3月13日、新レース場に移転初開催。これを契機に、唐津競走場は次々と売上を更新し、活力あるレース場として各地から注目された。

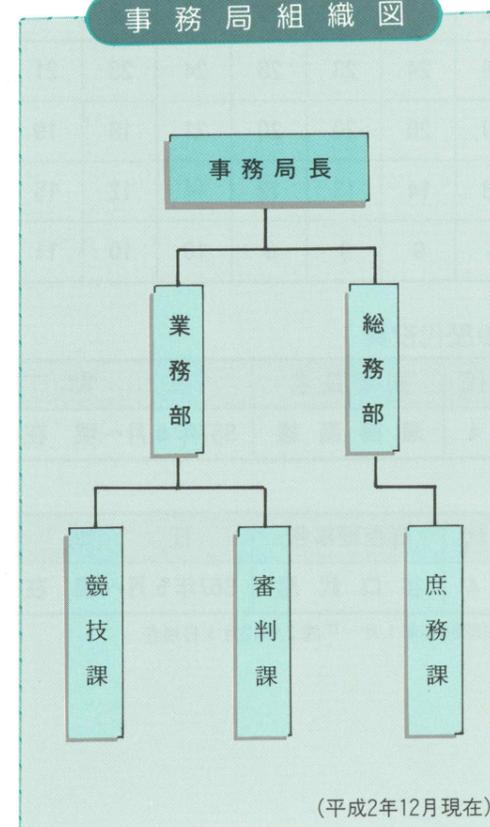
天井知らずに伸び続けた売上であったが、2号賞金基準レース場となった昭和56年をひとつの機として、その後は、売上・入場人員とも減少傾向に向かう。

時局を危惧した当会幹部は、公営競技収益金の均てん化施策推進について、必至の努力を重ねた。

その結果、関係官庁はじめ諸団体のご尽力もあって、昭和57年2月3日、東松浦九ヶ町村による組合開催が認可された。

この組合開催の実施によって、昭和57年度売上は、対前年度比6.4%の増となった。だが、翌58年度は、筑肥線電化開通に僅かの期待をかけたものの、ここを境に、歯止めのきかない下降線をたどるのである。

事務局組織図



このような非常事態の中で当会は、経費節減に努め、自らを厳しく律し、競技運営に当たるが、これら経営努力をはるかに上回る構造不況に呻吟の思いで対処する日々が続く。

その間、業界は、電話投票・場間場外発売・各種法改正等、多項目にわたる施策を矢継ぎ早に打ち出し、その実施に向けて活発な動きをみせる。

昭和61年を迎えると、各種施策の実施に伴う相乗効果も手伝って、低迷し続けた売上にも徐々に回復の兆しが現れてくる。同時に、地方型、都市型の二極化現象が進行して、地

区別売上格差が生じるようになる。

都市の景気が本格的に地方へ波及するのは2年後、昭和63年度からである。

この景気の波及によって、平成元年・平成2年上半年期は、昭和50年から昭和55年の唐津黄金時代に次ぐ売上実績を確保しつつあるが「ここが峠」という認識もあり、さらに各種施策に対する積極的な対応が急がれる。

佐賀県モーターボート競走会は、先人の残した知恵と伝統を守り、一致団結して新たな挑戦に意欲を燃やし、今後の生き残りにかけて険しい茨の道を乗り越えようとしている。

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		96	97	95	94	83	79	72	67	63	64
役 員(常勤・非常勤)		10	11	11	12	12	13	13	13	13	17
職 員(含 嘱 託)		29	31	28	26	24	23	25	24	23	21
臨時従業員(アルバイト)		26	20	21	19	20	20	20	21	19	19
登 録 審 判 員		12	12	11	13	14	13	12	14	12	15
登 録 検 査 員		9	7	6	8	9	9	8	10	10	11

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
2	金子勝商	S32年12月～現在



〔略 歴〕
昭和自動車株式会社社長
唐津商工会議所会頭
佐賀県経営者協会会長

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
4	瀬筒 高雄	S57年5月～現在

代	専務理事名	任 期
4	谷口 武彦	S57年5月～現在

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 5. 16	創立30周年記念式典挙行
9. 2	第17回競艇関係者武道大会 (剣道の部初優勝)
S 57. 2. 3	東松浦9ヶ町村組合開催認可
4. 23	東松浦競艇組合初開催
11. 1	唐津ファンクラブ結成
11. 30	競走水面藻異常発生 (草魚 3,500匹を放流)
S 58. 3. 22	筑肥線電化開通
S 59. 4. 12	早朝前売外向発売
5. 30	スタート練習ファン公表 (テレビモニター)
S 60. 4. 9	モーターボート大賞競走実施
S 61. 9. 5	12レース制の完全導入
S 62. 1. 23	新整備方式の実施
9. 24	整備セミナー実施
S 63. 12. 16	新コンピュータシステム稼働
S 64. 1. 7	天皇陛下崩御 (自粛のため開催日程を変更)
H 元. 3. 13	写真機故障 (第8レース中止)
4. 19	新審判操作卓の設置
5. 1	選手持ちプロペラ制度の実施
6. 16	施設改善記念特別競走の実施
12. 19	自動発艇装置使用開始
H 2. 1. 1	からくり時計除幕式
6. 15	モーターボート大賞競走の実施
11. 6	一括方式の実施



選手宿舎▶

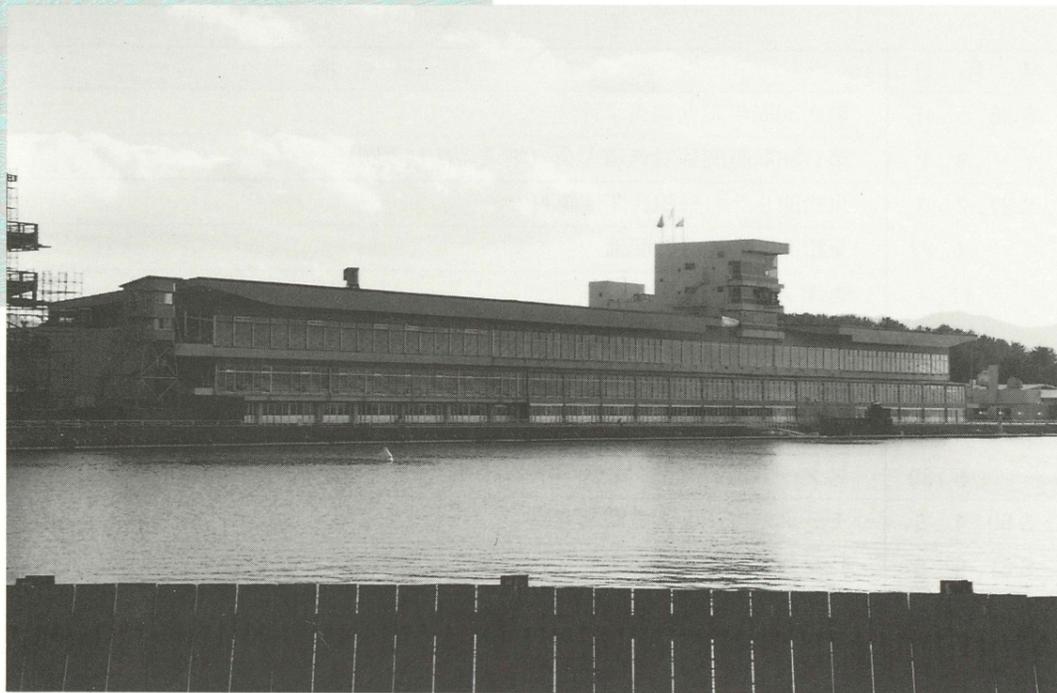


▲佐賀県競走会事務所



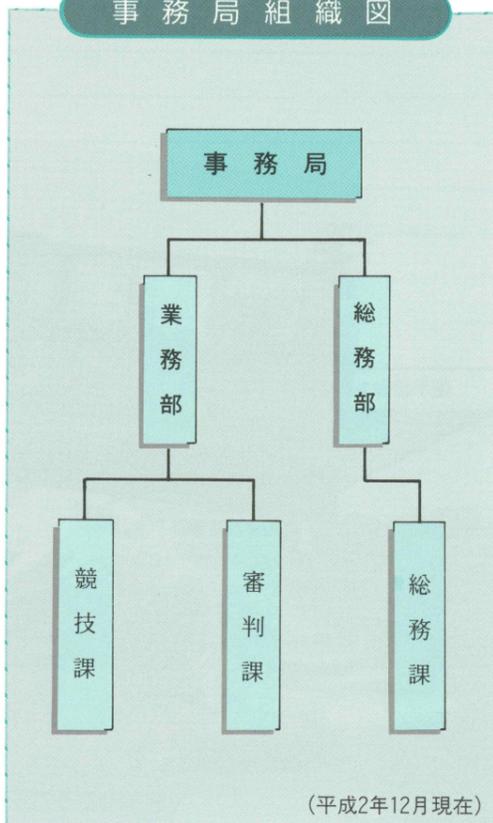
▲ピット全景

(社)長崎県モーターボート競走会



▲大村競走場全景

事務局組織図



創立以来の苦難時代を乗り越えて

昭和54年は1日平均1億8,400万円を記録するなど順調に伸びていた売上が、オイルショックの影響で翌55年から、急激に減少。昭和60年には、最低の1億4,000万円にまで落ち込んでしまう。

こうした状況の中で当会は、予算執行に当たっては、徹底した経費節減を図った。

しかしそのために、役員の給与引き下げや職員の待遇改善の遅れ等による役員人事の問題、職員組合との労使関係の対立など、幾多の問題が山積する結果となった。

当会にとって、売上減少時代はまた「内部体制の確立」が叫ばれる時代でもあったのである。

特に組合問題は、競走会と組合との意見の

相違から、多年にわたって紛争したが、昭和62年3月、不当労働行為で、長崎県地方労働委員会への救済申立と、1,420万円の損害賠償を求める訴えを、長崎地裁大村支部に起こしたことから、対立はますます激化していった。この間、当時の馬場会長ならびに小林常務

が、病気で辞任。後任の役員選任はもめ混迷したが、坪内会長就任によって解決し、組合問題も同年12月、組合側が提出した和解案と、役員会案と、相互に理解し円満に解決した。以後、売上も順調に上昇し、関係者の協力による堅実な歩みで、今日に至っている。

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度		昭和							平成	
	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	
会 員	106	101	95	86	83	79	75	71	64	60	
役 員(常勤・非常勤)	18	17	17	17	16	16	16	16	14	17	
職 員(含 嘱 託)	24	22	22	22	21	21	21	22	21	22	
臨時従業員(アルバイト)	31	31	34	35	32	32	32	32	33	30	
登 録 審 判 員	10	9	8	8	8	8	9	9	10	10	
登 録 検 査 員	8	8	8	8	8	8	8	8	10	10	

●歴代会長

代	会長名	任 期	代	会長名	任 期
6	馬場政吉	S46年11月～62年5月	7	坪内八郎	S62年5月～現在
 <p>〔略歴〕 陸運・自動車販売・自動車学校・ゴルフ会社等社長、競走会設立発起人の一人、設立以来役員に就任。</p>			 <p>〔略歴〕 元衆議院議員、同運輸委員会理事、競走法提案者代表として法成立に貢献長崎県競走会発起人代表として全国第1号の競走会設立、初代会長</p>		

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期	代	専務理事名	任 期
12	大久保勘吉	S55年6月～59年5月	12	飯盛丈太郎	S55年6月～59年5月
13	福井義美	S59年6月～61年5月	13	蓮本末男	S59年6月～現在
14	中村鶴夫	S62年6月～現在			

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

年 表	
年 月 日	事 柄
S 56. 2 .19	第27回九州地区選手権競走開催
8 .18	競走会創立30周年記念式典を行う（通常総会にて）
8 .24	花田竜美選手大村競走場で競走中殉職
S 57. 4 . 8	第1回競艇祭特別競走を開催
4 .26	孝養の像除幕式（笹川会長・笹川副会長来場）
7 .23	長崎大水害発生 大村競艇1節間中止
7 .24	笹川会長ヘリコプターで災害見舞に来崎
12.25	ファンクラブ会員募集開始
S 58. 5 .19	競走場従事員組合ストによりレース中止
S 59. 1 . 2	前日レースのVTRの放映開始
4 .18	九州地区競艇関係者武道大会
5 .11	早朝外向前売発売開始
11.23	昭和48年以来、10年ぶり12レース制の復活
S 60. 6 .14	ペアーボート試乗会実施の開始
S 61. 3 .20	30年ぶりのオール女子レース復活
4 . 1	大村ボートを守る会を結成（ボート関係者OBにより）
6 . 5	周回誤認の疑いによる騒擾事件発生（機動隊出動）
7 .19	サマータイムレース実施
10.23	モーターボート大賞競走を開催
12.30	スタートタイミング・展示タイム等の場内テレビ放映を開始
S 62. 3 .	競走会職員組合、長崎県労働委員会へ救済申立を起す
3 .24	競走会職員組合、長崎地裁大村支部に損害賠償を求める訴えを起す
4 . 3	第2回競艇祭競走開始
5 .17	全面機械化施設改善工事に着手
8 . 1	第1回海の祭典'87「よみがえれ大村湾」実施
11.26	機械化導入記念杯争奪戦を開催
12 .	競走会職員組合と競走会和解の成立
12.20	第2回賞金王決定戦競走場外発売実施
S 63. 2 .19	第1回長崎県競走会会長杯争奪戦を開催
4 . 4	周年レースにおいて地元選手（石橋選手）のプロペラ不正事件発覚
5 .25	施設改善記念競走を開催
6 . 1	連合会、競走会連名で石橋選手を告発（大村警察署）
6 .28	石橋選手逮捕
7 .11	プロペラ不正事件で国光、蒲原、江川選手逮捕

年 表	
年 月 日	事 柄
S 63. 7 .29	「第2回海の祭典'88」実施
7 .30	サマータイムレース実施
11.30	笹川陽平副会長「モーターボート競走の現況と展望」講演会
H元. 2 .11	電話投票による発売開始
3 .29	電話投票による場外発売実施
5 . 1	九州初の大型ディスプレイ看板設置
8 . 1	第3回海の祭典'89
8 .18	大村市内幹線道路整備促進期成会総決起大会
9 .28	モーターボート大賞競走を開催
H 2 . 2 .17	長崎県モーターボート競走会会長杯競走の開催
4 .23	第17回九州地区競艇関係者武道大会
6 . 5	笹川会長来場ファンにあいさつ
7 .31	第4回海の祭典'90
8 . 8	ロイヤルスタンド起工式
11.21	スタート練習展示一括方式採用

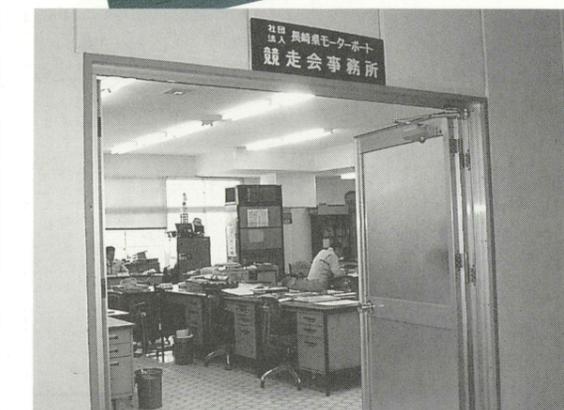
▼正門



▲外向前売発売所



▲選手宿舎



▲長崎県競走会事務所

(社)千葉県モーターボート競走会

●競走会構成員の年度別推移

項目	年度	昭和								平成	
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2
会 員		25	32	32	30	30	20	20	21	21	20
役 員(常勤・非常勤)		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
4	鈴木 彰	S54年4月～現在



〔略 歴〕
中央大学卒業
千葉県競走会入会

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

(社)茨城県モーターボート競走会

●歴代会長

代	会 長 名	任 期
初	椎名 正	S29年7月～現在



〔略 歴〕
公認会計士

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在

●歴代役員

代	副会長名	任 期
	椎名 康夫	

※昭和56年1月～平成2年12月1日現在